

外国語学部 国際関係学科 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	1学期	1	2	45
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	46
		1年			
	ことばの科学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	47
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 (読替科目: 可能性としての歴史) 小林 道彦	2学期	2	2	50
		2年			
家族の再生 閉講	2学期	2	2		
	2年				
文化と政治 休講	2学期	2	2		
	2年				
言語と認知 (読替科目: 言語と認知) 漆原 朗子 他	1学期	2	2	51	
	2年				
共生社会論 (読替科目: 共生社会論) 伊野 憲治	2学期	2	2	52	
	2年				
戦争と平和 (読替科目: 戦争論) 戸蒔 仁司	2学期	2	2	54	
	2年				
生活世界の哲学 (読替科目: 生活世界の哲学) 伊原木 大祐	1学期	1	2	48	
	1年				
共同体と身体 (読替科目: 共同体と身体) 伊原木 大祐	2学期	2	2	53	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 寺田 千栄子	1学期	1	2	152
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目:メンタル・ヘルスII) 坂本 毅啓	2学期	1	2	153
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	154
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	155
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目:フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	156
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	157
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	158
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目:フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	159
		1年			
	自己管理論 (読替科目:自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	160
		1年			
	キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 真鍋 和博	1学期	1	2	177
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 永田 公彦	1学期	1	2	178	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	179	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目:キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	180	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目:コミュニケーション実践) 真鍋 和博	2学期	1	2	181	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目:プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	182	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	法律の読み方 (読替科目: 法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	130
		1年			
	社会調査 (読替科目: 社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	131
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	161
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	162
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	163
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	164
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	165
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	166
		1年			
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	167	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	168	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	169	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	170	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	171	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	172	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	173
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	174
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	175	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	176	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫 他	1学期	1	2	55
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 日高 京子	1学期	1	2	56
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 小林 道彦	1学期	1	2	57
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	58
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 稲月 正	1学期	1	2	59
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	60
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蔭 仁司	1学期	1	2	61
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 伊原木 大祐	1学期	1	2	62	
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 石川 敬之	1学期	1	2	63	
	1年				
教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	64	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 徳永 政夫 他	2学期	1	2	65	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	66
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 日高 京子	2学期	1	2	67
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 小林 道彦	2学期	1	2	68
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 稲月 正	2学期	1	2	69
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 廣川 祐司	2学期	1	2	70
		1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー) (読替科目：教養基礎演習II (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	71
		1年			
	教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 伊原木 大祐	2学期	1	2	72
		1年			
教養基礎演習II (読替科目：教養基礎演習II) 石川 敬之	2学期	1	2	73	
	1年				
教養基礎演習II (発達障がいセミナー) (読替科目：教養基礎演習II (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	74	
	1年				
教養演習A I (読替科目：教養演習A I) 徳永 政夫 他	1学期	2	2	75	
	2年				
教養演習A I (読替科目：教養演習A I) 伊原木 大祐	1学期	2	2	76	
	2年				
教養演習A I (読替科目：教養演習A I) 稲月 正	1学期	2	2	77	
	2年				
教養演習A I (読替科目：教養演習A I) 神原 ゆうこ	1学期	2	2	78	
	2年				
教養演習A I (読替科目：教養演習A I) 小林 道彦	1学期	2	2	79	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習A1(防衛セミナー) (読替科目:教養演習A1(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	80
		2年			
	教養演習A1 (読替科目:教養演習A1) 日高 京子	1学期	2	2	81
		2年			
	教養演習A1(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習A1(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	2	2	82
		2年			
	教養演習A1 (読替科目:教養演習A1) 石川 敬之	1学期	2	2	83
		2年			
	教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 徳永 政夫 他	2学期	2	2	84
		2年			
	教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 日高 京子	2学期	2	2	85
		2年			
	教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 二宮 正人	2学期	2	2	86
		2年			
	教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 小林 道彦	2学期	2	2	87
		2年			
	教養演習AII 神原 ゆうこ	2学期	2	2	88
		2年			
	教養演習AII(防衛セミナー) (読替科目:教養演習AII(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	2	2	88
	2年				
教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 稲月 正	2学期	2	2	89	
	2年				
教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 石川 敬之	2学期	2	2	90	
	2年				
教養演習AII(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習AII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	2	2	91	
	2年				
教養演習AII (読替科目:教養演習AII) 伊原木 大祐	2学期	2	2	92	
	2年				
教養演習BI (読替科目:教養演習BI) 徳永 政夫 他	1学期	3	2	93	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 日高 京子	1学期	3	2	94
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 小林 道彦	1学期	3	2	95
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	3	2	96
		3年			
	教養演習BⅠ(防衛セミナー) (読替科目：教養演習BⅠ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	97
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 稲月 正	1学期	3	2	98
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 石川 敬之	1学期	3	2	99
		3年			
	教養演習BⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目：教養演習BⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	3	2	100
		3年			
	教養演習BⅠ (読替科目：教養演習BⅠ) 伊原木 大祐	1学期	3	2	101
		3年			
	教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 徳永 政夫 他	2学期	3	2	102
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 日高 京子	2学期	3	2	103	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 小林 道彦	2学期	3	2	104	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 神原 ゆうこ	2学期	3	2		
	3年				
教養演習BⅡ(防衛セミナー) (読替科目：教養演習BⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	3	2	105	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 稲月 正	2学期	3	2	106	
	3年				
教養演習BⅡ (読替科目：教養演習BⅡ) 伊原木 大祐	2学期	3	2	107	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	108
	3年				
	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 石川 敬之	2学期	3	2	109
	3年				
	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 二宮 正人	2学期	3	2	110
	3年				
プロジェクト演習I (読替科目:プロジェクト演習I) 見館 好隆	1学期	2	2	184	
2年					
プロジェクト演習II (読替科目:プロジェクト演習II) 見館 好隆	2学期	3	2	185	
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	111
	1年				
	動物のみかた (読替科目:動物のみかた) 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	112
	1年				
	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	113
	1年				
	自然史へのいざない (読替科目:自然史へのいざない) 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	114
	1年				
	くらしと化学 (読替科目:くらしと化学) 秋貞 英雄	1学期	1	2	115
	1年				
現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	116	
1年					
数のたのしみ 閉講	集中	1	2		
1年					
私たちと宗教 (読替科目:私たちと宗教) 関 一敏	1学期	1	2	118	
1年					
思想と現代 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	119	
1年					
ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 (読替科目:文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	120
		1年			
	言語とコミュニケーション (読替科目:言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	121
		1年			
	芸術と人間 (読替科目:芸術と人間) 真武 真喜子	2学期	1	2	122
		1年			
	文学を読む 休講	2学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 (読替科目:現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	123
		1年			
	民主主義とは何か (読替科目:民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	124
		1年			
	人権論 (読替科目:人権論) 柳井 美枝	集中	1	2	126
		1年			
	ジェンダー論 (読替科目:ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	127
		1年			
	障がい学 (読替科目:障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	128
	1年				
共生の作法 (読替科目:共生の作法) 今泉 恵子 他	1学期	1	2	129	
	1年				
北九州学 (読替科目:環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	117	
	1年				
市民活動論 (読替科目:市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	132	
	1年				
企業と社会 (読替科目:企業と社会) 西村 香織	1学期	1	2	133	
	1年				
つながりの人間学 (読替科目:サービスラーニング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	183	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と倫理 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	134
	1年				
	現代社会の諸問題 (読替科目: 現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	135
	1年				
	現代の国際情勢 尹 明憲 他	1学期	1	2	1
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	2
	1年				
	国際紛争と国連 (読替科目: 国際紛争と国連) 二宮 正人	1学期	1	2	138
	1年				
	民族・エスニシティ問題 北 美幸 他	1学期	1	2	3
	1年				
	開発と統治 (読替科目: 開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	136
	1年				
	グローバル化する経済 田中 淳平 他	1学期	1	2	4
	1年				
テロリズム論 (読替科目: テロリズム論) 戸蒔 仁司	2学期	1	2	137	
1年					
国際社会と日本 中野 博文 他	2学期	1	2	5	
1年					
歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	139	
1年					
歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	140	
1年					
そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	141	
1年					
戦後の日本経済 (読替科目: 戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	142	
1年					
都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ものとなりの歴史 (読替科目: ものとなりの歴史) 中野 博文 他	1学期	1	2	143
		1年			
	人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	144
		1年			
	教養特講I 休講	2学期	1	2	
		1年			
	教養特講II (セクシュアル・ライツ) (読替科目: 教養特講II (セクシュアル・ライツ)) 河嶋 静代	2学期	1	2	186
		1年			
	教養特講II (ホスピタリティ論) (読替科目: 教養特講II (ホスピタリティ論)) 西澤 健次	2学期	1	2	187
		1年			
	教養特講III (まなびと講座A) (読替科目: 教養特講III (まなびと講座A)) 真鍋 和博	1学期	1	2	188
		1年			
教養特講IV (まなびと講座B) (読替科目: 教養特講IV (まなびと講座B)) 真鍋 和博	2学期	1	2	189	
	1年				
■教職関連科目	日本史 (読替科目: 日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	145
		1年			
	西洋史 (読替科目: 西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	147
		1年			
	東洋史 (読替科目: 東洋史) 植松 慎悟	2学期	1	2	146
		1年			
	社会学 (読替科目: 社会学的思考) 稲月 正	1学期	1	2	125
		1年			
	人文地理学 (読替科目: 人文地理学) 外戸保 大介	2学期	1	2	148
		1年			
	土地地理学 (読替科目: 土地地理学) 野井 英明	1学期	1	2	149
		1年			
地誌学 (読替科目: 地誌学) 外戸保 大介	1学期	1	2	150	
	1年				
日本国憲法 (読替科目: 日本国憲法) 宮内 紀子	2学期	1	2	151	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	倫理学 清水 満	2学期	1	2	6
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目:情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	49
		1年			
	データ処理 (読替科目:データ処理) 山田 寛	1学期	1	2	190
		国1-1, 国1-2, 再履			
	データ処理 (読替科目:データ処理) 浅羽 修丈	1学期	1	2	191
		国1-3, 国1-4, 再履			
	データ処理 未定	2学期	1	2	
		1学期未修得者再履			
	情報表現 (読替科目:情報表現) 中尾 泰士	2学期	2	2	192
		2年			
	情報表現 (読替科目:情報表現) 棚次 奎介	2学期	2	2	193
		2年			
	情報表現 休講	1学期	2	2	
		2年			
情報表現 (読替科目:情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	194	
	2年				
プログラミング基礎 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I(国1-A) (読替科目:英語I(国1-A)) 葛西 宏信	1学期	1	1	195
		国1-A			
	英語I(国1-B) (読替科目:英語I(国1-B)) 永末 康介	1学期	1	1	196
		国1-B			
	英語I(国1-C) (読替科目:英語I(国1-C)) 渡邊 嘉則	1学期	1	1	197
		国1-C			
英語II(国1-A) (読替科目:英語II(国1-A)) 永末 康介	2学期	1	1	198	
	国1-A				
英語II(国1-B) (読替科目:英語II(国1-B)) 葛西 宏信	2学期	1	1	199	
	国1-B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (国 1-C) (読替科目: 英語II (国 1-C)) 渡邊 嘉則	2学期	1	1	200
	国 1 - C				
	英語III (国 1-A) (読替科目: 英語III (国 1-A)) デビッド・ アダム・ ストット	1学期	1	1	201
	国 1 - A				
	英語III (国 1-B) (読替科目: 英語III (国 1-B)) ロバート・マーフィ	1学期	1	1	202
	国 1 - B				
	英語III (国 1-C) (読替科目: 英語III (国 1-C)) デビッド・ ニール・ マクレラン	1学期	1	1	203
	国 1 - C				
	英語IV (国 1-A) (読替科目: 英語IV (国 1-A)) デビッド・ アダム・ ストット	2学期	1	1	204
	国 1 - A				
	英語IV (国 1-B) (読替科目: 英語IV (国 1-B)) マイケル・ バーク	2学期	1	1	205
	国 1 - B				
	英語IV (国 1-C) (読替科目: 英語IV (国 1-C)) デビッド・ ニール・ マクレラン	2学期	1	1	206
	国 1 - C				
	英語V (国 2-A) (読替科目: 英語V (国 2-A)) 渡邊 嘉則	1学期	2	1	207
	国 2 - A				
	英語V (国 2-B) (読替科目: 英語V (国 2-B)) 杉山 智子	1学期	2	1	208
	国 2 - B				
	英語V (国 2-C) (読替科目: 英語V (国 2-C)) 伊藤 晃	1学期	2	1	209
国 2 - C					
英語VI (国 2-A) (読替科目: 英語VI (国 2-A)) 渡邊 嘉則	2学期	2	1	210	
国 2 - A					
英語VI (国 2-B) (読替科目: 英語VI (国 2-B)) 伊藤 晃	2学期	2	1	211	
国 2 - B					
英語VI (国 2-C) (読替科目: 英語VI (国 2-C)) 杉山 智子	2学期	2	1	212	
国 2 - C					
英語VII (国 2-A) (読替科目: 英語VII (国 2-A)) デビッド・ ニール・ マクレラン	1学期	2	1	213	
国 2 - A					
英語VII (国 2-B) (読替科目: 英語VII (国 2-B)) デビッド・ アダム・ ストット	1学期	2	1	214	
国 2 - B					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VII (国 2 - C) (読替科目 : 英語VII (国 2 - C)) ロバート・マーフィ	1学期	2	1	215
		国 2 - C			
	英語VIII (国 2 - A) (読替科目 : 英語VIII (国 2 - A)) デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	1	216
		国 2 - A			
	英語VIII (国 2 - B) (読替科目 : 英語VIII (国 2 - B)) デビット・アダム・ストット	2学期	2	1	217
		国 2 - B			
	英語VIII (国 2 - C) (読替科目 : 英語VIII (国 2 - C)) マイケル・バーグ	2学期	2	1	218
		国 2 - C			
	英語IX (英中国 3 年) (読替科目 : 英語IX (英中国 3 年)) 永末 康介	1学期	3	1	219
		英中国 3 年			
英語X (英中国 3 年) (読替科目 : 英語X (英中国 3 年)) 葛西 宏信	2学期	3	1	220	
	英中国 3 年				
英語XI (英中国 3 年) (読替科目 : 英語XI (英中国 3 年)) ロバート・マーフィ	1学期	3	1	221	
	英中国 3 年				
英語XII (英中国 3 年) (読替科目 : 英語XII (英中国 3 年)) ロバート・マーフィ	2学期	3	1	222	
	英中国 3 年				
■第二外国語	中国語I (読替科目 : 中国語I) 板谷 秀子	1学期	1	1	223
		国 1 - A			
	中国語I (読替科目 : 中国語I) 板谷 俊生	1学期	1	1	224
		国 1 - B			
	中国語I (読替科目 : 中国語I) 野村 和代	1学期	1	1	225
		国 1 - C			
	中国語II (読替科目 : 中国語II) 板谷 秀子	2学期	1	1	226
		国 1 - A			
	中国語II (読替科目 : 中国語II) 板谷 俊生	2学期	1	1	227
		国 1 - B			
中国語II (読替科目 : 中国語II) 野村 和代	2学期	1	1	228	
	国 1 - C				
中国語III (読替科目 : 中国語III) 馮 戦兵	1学期	1	1	229	
	国 1 - A				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語III (読替科目：中国語III) 王 晨	1学期	1	1	230
		国 1 - B			
	中国語III (読替科目：中国語III) 葉 言材	1学期	1	1	231
		国 1 - C			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 馮 戦兵	2学期	1	1	232
		国 1 - A			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 王 晨	2学期	1	1	233
		国 1 - B			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 葉 言材	2学期	1	1	234
		国 1 - C			
	中国語V (読替科目：中国語V) 野村 和代	1学期	2	1	235
		国 2 - A			
	中国語V (読替科目：中国語V) 板谷 秀子	1学期	2	1	236
		国 2 - B			
	中国語V (読替科目：中国語V) 板谷 俊生	1学期	2	1	237
		国 2 - C			
	中国語VI (読替科目：中国語VI) 野村 和代	2学期	2	1	238
	国 2 - A				
中国語VI (読替科目：中国語VI) 板谷 秀子	2学期	2	1	239	
	国 2 - B				
中国語VI (読替科目：中国語VI) 板谷 俊生	2学期	2	1	240	
	国 2 - C				
中国語VII (読替科目：中国語VII) 陳 青鳳	1学期	2	1	241	
	国 2 - A				
中国語VII (読替科目：中国語VII) 張 岩紅	1学期	2	1	242	
	国 2 - B				
中国語VII (読替科目：中国語VII) 王 晨	1学期	2	1	243	
	国 2 - C				
中国語VIII (読替科目：中国語VIII) 陳 青鳳	2学期	2	1	244	
	国 2 - A				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VIII (読替科目：中国語VIII) 張 岩紅	2学期	2	1	245
		国2 - B			
	中国語VIII (読替科目：中国語VIII) 王 晨	2学期	2	1	246
		国2 - C			
	上級中国語I (読替科目：上級中国語I) 唐 雋	1学期	3	1	247
		英国済営比人3年			
	上級中国語II (読替科目：上級中国語II) 唐 雋	2学期	3	1	248
		英国済営比人3年			
	上級中国語III (読替科目：上級中国語III) 王 占華	1学期	3	1	249
		英国済営比人3年			
	上級中国語IV (読替科目：上級中国語IV) 王 占華	2学期	3	1	250
		英国済営比人3年			
	朝鮮語I (読替科目：朝鮮語I) 金 貞愛	1学期	1	1	251
		国1年			
	朝鮮語II (読替科目：朝鮮語II) 金 貞愛	2学期	1	1	252
		国1年			
	朝鮮語III (読替科目：朝鮮語III) 金 光子	1学期	1	1	253
		国1年			
	朝鮮語IV (読替科目：朝鮮語IV) 金 光子	2学期	1	1	254
	国1年				
朝鮮語V (読替科目：朝鮮語V) 金 貞愛	1学期	2	1	255	
	国2年				
朝鮮語VI (読替科目：朝鮮語VI) 金 貞愛	2学期	2	1	256	
	国2年				
朝鮮語VII (読替科目：朝鮮語VII) 金 貞淑	1学期	2	1	257	
	国2年				
朝鮮語VIII (読替科目：朝鮮語VIII) 金 貞淑	2学期	2	1	258	
	国2年				
上級朝鮮語I (読替科目：上級朝鮮語I) 金 貞淑	1学期	3	1	259	
	英中国済営比人3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語II (読替科目: 上級朝鮮語II) 金 貞淑	2学期	3	1	260
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語III (読替科目: 上級朝鮮語III) 金 貞愛	1学期	3	1	261
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語IV (読替科目: 上級朝鮮語IV) 金 貞愛	2学期	3	1	262
		英中国済営比人 3年			
	ロシア語I (読替科目: ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	263
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II (読替科目: ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	264
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語III (読替科目: ロシア語III) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	265
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語IV (読替科目: ロシア語IV) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	266
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語V (読替科目: ロシア語V) 芳之内 雄二	1学期	2	1	267
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VI (読替科目: ロシア語VI) 芳之内 雄二	2学期	2	1	268
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VII (読替科目: ロシア語VII) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	269
		英中国済営比人律政 2年			
ロシア語VIII (読替科目: ロシア語VIII) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	270	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語I (読替科目: ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	1	1	271	
	英中国 1年				
ドイツ語II (読替科目: ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	1	1	272	
	英中国 1年				
ドイツ語III (読替科目: ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	273	
	英中国 1年				
ドイツ語IV (読替科目: ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	274	
	英中国 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語V (読替科目:ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	275
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VI (読替科目:ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	276
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VII (読替科目:ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	277
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII (読替科目:ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	278
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 山下 広一	1学期	1	1	279
		英中国1年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 山下 広一	2学期	1	1	280
		英中国1年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 坂田 由紀	1学期	1	1	281
		英中国1年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 坂田 由紀	2学期	1	1	282
		英中国1年			
	フランス語V (読替科目:フランス語V) 坂田 由紀	1学期	2	1	283
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VI (読替科目:フランス語VI) 坂田 由紀	2学期	2	1	284
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII (読替科目:フランス語VII) ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	285
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VIII (読替科目:フランス語VIII) ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	286
		英中国済営比人律政2年			
スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	287	
	中国済営人律政1年				
スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	288	
	中国済営人律政1年				
スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 辻 博子	1学期	1	1	289	
	中国済営人律政1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語Ⅳ (読替科目: スペイン語Ⅳ) 辻 博子	2学期	1	1	290
		中国済営人律政1年			
	スペイン語Ⅴ (読替科目: スペイン語Ⅴ) 青木 文夫	1学期	2	1	291
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語Ⅵ (読替科目: スペイン語Ⅵ) 青木 文夫	2学期	2	1	292
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語Ⅶ (読替科目: スペイン語Ⅶ) 辻 博子	1学期	2	1	293	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語Ⅷ (読替科目: スペイン語Ⅷ) 辻 博子	2学期	2	1	294	
	英中国済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本事情(人文)A (読替科目: 日本事情(人文)A) 清水 順子	1学期	1	2	295
		留学生1年			
	日本事情(人文)B (読替科目: 日本事情(人文)B) 則松 智子	2学期	1	2	296
		留学生1年			
日本事情(社会)A (読替科目: 日本事情(社会)A) 小林 浩明	1学期	1	2	297	
	留学生1年				
日本事情(社会)B (読替科目: 日本事情(社会)B) 小林 浩明	2学期	1	2	298	
	留学生1年				
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群(地域研究科目)	アメリカの政治I (読替科目: 現代アメリカ政治) 中野 博文	1学期	2	2	316
		2年			
	アメリカの政治II (読替科目: アメリカ政治研究) 中野 博文	2学期	2	2	317
		2年			
	アメリカの政治III 中野 博文	1学期	2	2	7
		2年			
アメリカの政治IV 中野 博文	2学期	2	2	8	
	2年				
アメリカの社会I (読替科目: アメリカの社会) 北 美幸	1学期	2	2	304	
	2年				
アメリカの社会II (読替科目: アメリカ史の争点) 北 美幸	2学期	2	2	315	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目 ■A群(地域研究科目)	イギリス研究I (読替科目:イギリス研究I) 久木 尚志	1学期	2	2	305
		2年			
	イギリス研究II (読替科目:イギリス研究II) 久木 尚志	2学期	2	2	306
		2年			
	イギリス研究III 休講	1学期	2	2	
		2年			
	イギリス研究IV 休講	2学期	2	2	
		2年			
	中国の政治外交I (読替科目:現代中国の政治) 下野 寿子	1学期	2	2	308
		2年			
	中国の政治外交II (読替科目:現代中国の外交) 下野 寿子	2学期	2	2	309
		2年			
	韓国・北朝鮮の政治外交I (読替科目:韓国・北朝鮮の政治外交I) 李 東俊	1学期	2	2	310
		2年			
	韓国・北朝鮮の政治外交II (読替科目:韓国・北朝鮮の政治外交II) 李 東俊	2学期	2	2	311
		2年			
東アジア地域秩序論I (読替科目:東アジア地域秩序論I) 金 鳳珍	1学期	2	2	319	
	2年				
東アジア地域秩序論II (読替科目:東アジア地域秩序論II) 金 鳳珍	2学期	2	2	320	
	2年				
東アジア経済論 (読替科目:東アジア経済論) 尹 明憲	1学期	2	2	318	
	2年				
アジア地域統合論 (読替科目:東南アジアの政治と外交) 猿渡 剛	2学期	2	2	313	
	2年				
■B群(国際関係科目)	国際政治経済論I (読替科目:国際政治経済論I) 阿部 容子	1学期	2	2	331
		2年			
	国際政治経済論II (読替科目:国際政治経済論II) 阿部 容子	2学期	2	2	332
		2年			
	国際機構論I (読替科目:国際機構論I) 山本 直	1学期	2	2	329
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目 ■B群(国際関係科目)	国際機構論II (読替科目:国際機構論II) 山本 直	2学期	2	2	330
	2年				
	国際協力論I (読替科目:国際協力論I) 大平 剛	1学期	2	2	321
	2年				
	国際協力論II (読替科目:国際協力論II) 大平 剛	2学期	2	2	322
	2年				
	世界経済論I (読替科目:経済学の基礎) 尹 明憲	2学期	2	2	302
	2年				
	世界経済論II (読替科目:世界経済論) 尹 明憲	2学期	2	2	326
	2年				
	国際人権論 (読替科目:国際人権論) 山本 直	2学期	2	2	323
	2年				
民族と国家 (読替科目:東南アジアの社会と歴史) 篠崎 香織	1学期	2	2	312	
2年					
地球環境論 (読替科目:地球環境論) 松本 治彦	1学期	2	2	325	
2年					
国際紛争論 (読替科目:国際紛争論) 川上 耕平	1学期	2	2	324	
2年					
■その他	英米文化概論I (読替科目:英米文化概論I) 久木 尚志	1学期	1	2	299
	1年				
	英米文化概論II (読替科目:英米文化概論II) 中野 北	2学期	1	2	307
	1年				
	地域研究特講 (読替科目:地域研究特講) ODU教員	集中	3	2	314
	3年				
	外国文献講読 (読替科目:原書講読) 齊藤 園子	1学期	3	2	385
3年					
国際関係特講I (読替科目:国際関係特講I) 米川 正子	集中	3	2	327	
3年					
国際関係特講II (読替科目:国際関係特講II) 岡本 桂香	集中	3	2	328	
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 十時 康	1学期	1	1	336
		1年			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 三宅 啓子	1学期	1	1	337
		1年			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 富永 美喜	1学期	1	1	338
		1年			
	英文法・英作文A (読替科目: 英文法・英作文A) 齊藤 園子	1学期	1	1	339
		1年			
	英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 十時 康	2学期	1	1	340
		1年			
	英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 三宅 啓子	2学期	1	1	341
		1年			
	英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 富永 美喜	2学期	1	1	342
		1年			
	英文法・英作文B (読替科目: 英文法・英作文B) 齊藤 園子	2学期	1	1	343
		1年			
	English Practicum1A (読替科目: English Practicum1A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	344
		1年			
	English Practicum1A (読替科目: English Practicum1A) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	345
		1年			
English Practicum1A (読替科目: English Practicum1A) アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	346	
	1年				
English Practicum1A (読替科目: English Practicum1A) アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	347	
	1年				
English Practicum1B (読替科目: English Practicum1B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	348	
	1年				
English Practicum1B (読替科目: English Practicum1B) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	349	
	1年				
English Practicum1B (読替科目: English Practicum1B) アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	350	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	English Practicum1B (読替科目: English Practicum1B) アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	351
		1年			
	英語表現法A (読替科目: 英語表現法A) 齊藤 園子	1学期	2	1	352
		2 - 1			
	英語表現法A (読替科目: 英語表現法A) 齊藤 園子	1学期	2	1	353
		2 - 2			
	英語表現法A (読替科目: 英語表現法A) 村田 希巳子	1学期	2	1	354
		2 - 3			
	英語表現法A (読替科目: 英語表現法A) 薬師寺 元子	1学期	2	1	355
		2 - 4			
	英語表現法B (読替科目: 英語表現法B) 齊藤 園子	2学期	2	1	356
		2 - 1			
	英語表現法B (読替科目: 英語表現法B) 齊藤 園子	2学期	2	1	357
		2 - 2			
	英語表現法B (読替科目: 英語表現法B) 村田 希巳子	2学期	2	1	358
		2 - 3			
	英語表現法B (読替科目: 英語表現法B) 薬師寺 元子	2学期	2	1	359
		2 - 4			
English Practicum2A (読替科目: English Practicum2A) クリストファー・カーマン	1学期	2	1	360	
	2 - 1				
English Practicum2A (読替科目: English Practicum2A) クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	361	
	2 - 2				
English Practicum2A (読替科目: English Practicum2A) デニス・ジョーンズ	1学期	2	1	362	
	2 - 3				
English Practicum2A (読替科目: English Practicum2A) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	2	1	363	
	2 - 4				
English Practicum2B (読替科目: English Practicum2B) クリストファー・カーマン	2学期	2	1	364	
	2 - 1				
English Practicum2B (読替科目: English Practicum2B) クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	365	
	2 - 2				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	English Practicum2B (読替科目: English Practicum2B) デニス・ジョーンズ	2学期	2	1	366
		2 - 3			
	English Practicum2B (読替科目: English Practicum2B) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	2	1	367
		2 - 4			
	英語論文作成法I (読替科目: 英語論文作成法I) アルバート・オスカー・モウ	1学期	3	2	368
		3 - 1			
	英語論文作成法I (読替科目: 英語論文作成法I) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	2	369
		3 - 2			
	英語論文作成法I (読替科目: 英語論文作成法I) ポール・ガラフ・ステイール	1学期	3	2	370
		3 - 3			
	英語論文作成法I (読替科目: 英語論文作成法I) デニス・ジョーンズ	1学期	3	2	371
		3 - 4			
	英語論文作成法II (読替科目: 英語論文作成法II) アルバート・オスカー・モウ	2学期	3	2	372
		3 - 1			
	英語論文作成法II (読替科目: 英語論文作成法II) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	2	373
		3 - 2			
	英語論文作成法II (読替科目: 英語論文作成法II) ポール・ガラフ・ステイール	2学期	3	2	374
		3 - 3			
	英語論文作成法II (読替科目: 英語論文作成法II) デニス・ジョーンズ	2学期	3	2	375
	3 - 4				
English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) ジェイムズ・ヒックス	1学期	3	1	376	
	3 - 1				
English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) クリストファー・カーマン	1学期	3	1	377	
	3 - 2				
English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	1学期	3	1	378	
	3 - 3				
English Practicum3A (読替科目: English Practicum3A) クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	379	
	3 - 4				
English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) ジェイムズ・ヒックス	2学期	3	1	380	
	3 - 1				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■外国語科目 ■英語必修	English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) クリストファー・カーマン	2学期	3	1	381
		3 - 2			
	English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) デイヴィッド・レイモンド・ラッツ	2学期	3	1	382
		3 - 3			
	English Practicum3B (読替科目: English Practicum3B) クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	383
		3 - 4			
■専門基礎科目 ■必修	国際関係論I (読替科目: 国際関係の理論) 阿部 容子	1学期	1	2	389
		1年			
	国際関係論II (読替科目: 国際関係の争点) 大平 剛	2学期	1	2	387
		1年			
	国際関係史I 中野 博文	1学期	1	2	9
		1年			
	国際関係史II (読替科目: 国際関係史) 中野・金	2学期	1	2	388
		1年			
■選択	地域研究入門(アメリカ) 北 美幸	1学期	1	2	10
		1年			
	地域研究入門(中国) (読替科目: 中国研究概論) 下野 寿子	1学期	1	2	390
		1年			
	地域研究入門(朝鮮半島) (読替科目: 朝鮮半島研究概論) 李 東俊	2学期	1	2	391
		1年			
	地域研究入門(東南アジア) (読替科目: 東南アジア研究概論) 篠崎 香織	1学期	1	2	392
		1年			
■演習科目 ■必修	入門演習I (読替科目: 国際関係概論) 国際関係学科教員	1学期	1	2	386
		1年			
	入門演習II (読替科目: 入門演習) 北 美幸 他5名	2学期	1	2	393
		1年			
	専門演習I 休講	1学期	3	2	
		3年			
専門演習I (読替科目: 専門演習I) 大平 剛	1学期	3	2	394	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 北 美幸	1学期	3	2	395
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 李 東俊	1学期	3	2	396
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 金 鳳珍	1学期	3	2	397
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 阿部 容子	1学期	3	2	398
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 篠崎 香織	1学期	3	2	399
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 下野 寿子	1学期	3	2	400
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 中野 博文	1学期	3	2	401
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 久木 尚志	1学期	3	2	402
		3年			
	専門演習I (読替科目: 専門演習I) 山本 直	1学期	3	2	403
		3年			
専門演習I (読替科目: 専門演習I) 尹 明憲	1学期	3	2	404	
	3年				
専門演習II 休講	2学期	3	2		
	3年				
専門演習II (読替科目: 専門演習II) 大平 剛	2学期	3	2	405	
	3年				
専門演習II (読替科目: 専門演習II) 北 美幸	2学期	3	2	406	
	3年				
専門演習II (読替科目: 専門演習II) 李 東俊	2学期	3	2	407	
	3年				
専門演習II (読替科目: 専門演習II) 金 鳳珍	2学期	3	2	408	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 阿部 容子	2学期	3	2	409
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 篠崎 香織	1学期	3	2	410
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 下野 寿子	2学期	3	2	411
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 中野 博文	2学期	3	2	412
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 久木 尚志	2学期	3	2	413
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 山本 直	2学期	3	2	414
		3年			
	専門演習II (読替科目: 専門演習II) 尹 明憲	2学期	3	2	415
		3年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 大平 剛	1学期	4	2	416
		4年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 李 東俊	1学期	4	2	417
		4年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 篠崎 香織	1学期	4	2	418
		4年			
卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 下野 寿子	1学期	4	2	419	
	4年				
卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 中野 博文	1学期	4	2	420	
	4年				
卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 久木 尚志	1学期	4	2	421	
	4年				
卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 山本 直	1学期	4	2	422	
	4年				
卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I) 尹 明憲	1学期	4	2	423	
	4年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習I	1学期	4	2	
	休講	4年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	424
	阿部 容子	4年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	425
	北 美幸	4年			
	卒業研究演習I (読替科目: 卒業研究演習I)	1学期	4	2	426
	金 鳳珍	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	427
	大平 剛	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	428
	李 東俊	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	1学期	4	2	429
	篠崎 香織	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	430
	下野 寿子	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	431
	中野 博文	4年			
	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	432
	久木 尚志	4年			
卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	433	
山本 直	4年				
卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	434	
尹 明憲	4年				
卒業研究演習II	2学期	4	2		
休講	4年				
卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	435	
阿部 容子	4年				
卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II)	2学期	4	2	436	
北 美幸	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習科目 ■必修	卒業研究演習II (読替科目: 卒業研究演習II) 金 鳳 珍	2学期	4	2	437
		4年			
■自由選択科目	英米文学概論I (読替科目: 英米文学概論I) 齊 藤 園 子	1学期	1	2	300
		1年			
	英米文学概論II (読替科目: 英米文学概論II) 齊 藤 園 子	2学期	1	2	301
		1年			
	中国近現代史I (読替科目: 中国近現代史I) 堀 地 明	1学期	1	2	438
		1年			
	中国近現代史II (読替科目: 中国近現代史II) 堤 和 幸	2学期	1	2	439
		1年			
	英語学概論 (読替科目: 英語学概論) 三 宅 啓 子	1学期	1	2	384
		1年			
	異文化演習B (読替科目: 異文化演習B) 大 平 剛	2学期	1	2	440
		1年			
	英語学研究 (音声学・音韻論) ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	11
		2年			
	アメリカの現代文学 新 村 昭 雄	2学期	2	2	12
		2年			
	イギリスの現代文学 田 吹 長 彦	1学期	2	2	13
		2年			
	アメリカの18-19世紀文学 新 村 昭 雄	1学期	2	2	14
		2年			
	イギリスの18-19世紀文学 虹 林 慶	2学期	2	2	15
		2年			
	アメリカ文化論 ダニエル・ストラック	2学期	2	2	16
		2年			
	北ユーラシアの民族と社会 (読替科目: ユーラシアの多文化世界) 芳之内 雄二	2学期	2	2	442
		2年			
	時事中国語講読I (読替科目: 時事中国語講読I) 白 石 麻 保	1学期	2	2	443
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■自由選択科目	時事中国語講読II (読替科目:時事中国語講読II) 白石 麻保	2学期	2	2	444
	2年				
	中国社会経済史I 山本 進	1学期	2	2	17
	2年				
	中国社会経済史II 山本 進	2学期	2	2	18
	2年				
	環大西洋の社会史 寺田 由美	2学期	2	2	19
	2年				
	近現代の南欧世界 (読替科目:イスパニア地域論) 富田 広樹	2学期	2	2	441
	2年				
	西洋政治史 (読替科目:西洋政治史) 西 貴倫	1学期	1	2	451
	1年				
	途上国開発論 三宅 博之	1学期	2	2	20
	2年				
	アジア地域社会論 (読替科目:アジア地域社会論) 三宅 博之	2学期	2	2	449
	2年				
	フィールドワーク論 大津留 香織	1学期	2	2	21
2年					
環境社会学 岩松 文代	2学期	2	2	22	
2年					
ロシアの歴史と社会 渡邊 克義	1学期	2	2	23	
2年					
環境政策論 (読替科目:環境政策論) 申 東愛	2学期	2	2	450	
2年					
政策調査論 横山 麻季子 他	2学期	2	2	24	
2年					
政策過程論 (読替科目:政策過程論) 申 東愛	1学期	2	2	335	
2年					
上級英語A ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	25	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■自由選択科目	上級英語B アダム・ヘイルズ	2学期	3	2	26
		3年			
	地域統合論 (読替科目：地域統合論) 後藤 啓倫	2学期	2	2	452
		2年			
	自治体政策研究 楢原 真二	2学期	2	2	27
		2年			
	国際法I (読替科目：国際法I) 二宮 正人	1学期	2	2	333
		2年			
	国際法II (読替科目：国際法II) 二宮 正人	2学期	2	2	334
		2年			
	中国歴史社会研究I 山本 進	1学期	3	2	28
		3年			
	中国歴史社会研究II 山本 進	2学期	3	2	29
		3年			
	ビジネス中国語A (読替科目：ビジネス中国語I) 唐 雋	1学期	3	2	445
		3 - 1, 3 - 2			
	ビジネス中国語A (読替科目：ビジネス中国語I) 唐 雋	1学期	3	2	446
		3 - 3, 3 - 4			
	ビジネス中国語B (読替科目：ビジネス中国語II) 唐 雋	2学期	3	2	447
		3 - 1, 3 - 2			
ビジネス中国語B (読替科目：ビジネス中国語II) 唐 雋	2学期	3	2	448	
	3 - 3, 3 - 4				
アメリカ経済 山崎 好裕	2学期	3	2	30	
	3年				
環境経済学 牛房 義明	2学期	3	2	31	
	3年				
国際貿易論I 水戸 康夫	1学期	3	2	32	
	3年				
国際貿易論II 水戸 康夫	2学期	3	2	33	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	法学総論 山口 亮介	1学期	1	2	34
	1年				
	政治学 (読替科目: 政治学) 出水 薫	1学期	1	2	303
	1年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目: 教職論) 黒田 耕司	1学期	1	2	453
	1年				
	教育原理 (読替科目: 教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	454
	1年				
	発達心理学 (読替科目: 発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	455
	2年				
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	35
	3年				
	英語科教育法 A 休講	1学期	2	2	
	2年				
	英語科教育法 A (読替科目: 英語科教育法 A) 森 千鶴	1学期	2	2	456
	2年				
	英語科教育法 B 休講	2学期	2	2	
	2年				
	英語科教育法 B (読替科目: 英語科教育法 B) 森 千鶴	2学期	2	2	457
	2年				
社会科教育法 A (読替科目: 社会科教育法 A) 下地 貴樹	1学期	2	2	460	
2年					
社会科教育法 B (読替科目: 社会科教育法 B) 吉村 義則	2学期	2	2	461	
2年					
公民科教育法 A 休講	1学期	2	2		
2年					
公民科教育法 B 休講	2学期	2	2		
2年					
道徳教育の研究 (読替科目: 道徳教育指導論) 黒田 耕司	2学期	2	2	462	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動の研究 (読替科目: 特別活動論) 楠 凡之	1学期	2	2	463
		2年			
	教育方法学 (読替科目: 教育方法学) 黒田 耕司	1学期	2	2	464
		2年			
	教育工学 (読替科目: 教育工学) 大塚 一徳	2学期	2	2	473
		2年			
	教育実習 1 (読替科目: 教育実習 1) 黒田 耕司 他	2学期	3	2	467
		3年			
	教育実習 2 (読替科目: 教育実習 2) 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	468
		4年			
	教育実習 3 (読替科目: 教育実習 3) 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	469
		4年			
	教育相談 (読替科目: 教育相談) 楠 凡之	1学期	2	2	466
		2年			
	生徒・進路指導論 (読替科目: 生徒・進路指導論) 楠 凡之	2学期	2	2	465
		2年			
	教育制度論 見玉 弥生	1学期	3	1	36
		3年			
	教育課程論 見玉 弥生	1学期	3	1	37
		3年			
英語科教育法C (読替科目: 英語科教育法C) 柿元 悦子	1学期	2	2	458	
	2年				
英語科教育法D (読替科目: 英語科教育法D) 雪丸 尚美	2学期	2	2	459	
	2年				
社会科教育法C 休講	2学期	2	2		
	2年				
社会科教育法D 休講	2学期	2	2		
	2年				
教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■選択科目	教育心理学 (読替科目: 教育心理学) 下地 貴樹	2学期	2	2	470
		2年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
	障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育社会学 (読替科目: 教育社会学) 作田 誠一郎	集中	2	2	471
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目: 人権教育論) 弓野 勝族	1学期	2	2	472
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	2学期	1	2	474
		1年			
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	475
		1年			
	ことばの科学 (読替科目: ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	476
		1年			
国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	477	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 寺田 千栄子	1学期	1	2	490
		1年			
	メンタル・ヘルスII (読替科目: メンタル・ヘルスII) 坂本 毅啓	2学期	1	2	491
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目: フィジカル・ヘルスI) 山本 浩二	1学期	1	2	492
		1年			
フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	493	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 二宮 正人	1学期	1	2	480
		1年			
■テーマ科目	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ (読替科目: 現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	481
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	思想と現代	1学期	1	2		
	休講	1年				
	文学を読む	2学期	1	2		
	休講	1年				
	現代正義論 (読替科目：現代正義論)	重松 博之	2学期	1	2	482
	休講	1年				
	民主主義とは何か	休講	1学期	1	2	
	休講	1年				
	人権論	休講	1学期	1	2	
	休講	1年				
	ジェンダー論	休講	1学期	1	2	
	休講	1年				
	障がい学 (読替科目：障がい学)	伊野 憲治 他	2学期	1	2	483
	休講	1年				
	市民活動論 (読替科目：市民活動論)	西田 心平	2学期	1	2	484
	休講	1年				
	企業と社会	休講	1学期	1	2	
	休講	1年				
	現代社会と倫理 (読替科目：現代社会と倫理)	伊原木 大祐	1学期	1	2	485
	休講	1年				
現代の国際情勢	休講	1学期	1	2		
休講	1年					
国際社会論	稲月 正	1学期	1	2	38	
休講	1年					
国際紛争と国連	休講	2学期	1	2		
休講	1年					
開発と統治	休講	2学期	1	2		
休講	1年					
グローバル化する経済	田中 淳平 他	1学期	1	2	39	
休講	1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 阿部 容子 他	2学期	1	2	40
		1年			
	歴史の読み方I (読替科目：歴史の読み方I) 小林 道彦	1学期	1	2	486
		1年			
	歴史の読み方II (読替科目：歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	487
		1年			
そのとき世界は (読替科目：そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	488	
	1年				
人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	489	
	1年				
■教職関連科目	日本史 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	東洋史 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	社会学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	地誌学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
日本国憲法 閉講	1学期	1	2		
	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目：情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	479
		1年			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	2学期	1	2	494
	1学期未修得者再履				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 (読替科目：情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	495
	2年				
■自由選択科目	フィールドワーク論 休講	集中	2	2	
	2年				
	環境社会学 休講		2	2	
	2年				
	国際法I 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国際法II 休講	2学期	2	2	
	2年				
	アメリカ経済 休講	2学期	3	2	
	3年				
	環境経済学 休講	2学期	3	2	
	3年				
	国際貿易論I 山口 実	1学期	3	2	41
	3年				
国際貿易論II 山口 実	2学期	3	2	42	
3年					
■自由科目	法学総論 休講	1学期	1	2	
1年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 黒田 耕司	1学期	1	2	496
	1年				
	教育原理 (読替科目：教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	497
	1年				
	発達心理学 (読替科目：発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	498
	2年				
教育制度 休講	1学期	3	2		
3年					
英語科教育法A (読替科目：英語科教育法A) 森 千鶴	1学期	2	2	499	
2年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法B (読替科目:英語科教育法B)	2学期	2	2	500
	森 千鶴	2年			
	社会科教育法A	1学期	2	2	
	休講	2年			
	社会科教育法B	2学期	2	2	
	休講	2年			
	公民科教育法A (読替科目:公民科教育法A)	1学期	2	2	503
	下地 貴樹	2年			
	公民科教育法B (読替科目:公民科教育法B)	2学期	2	2	504
	吉村 義則	2年			
	道徳教育の研究 (読替科目:道徳教育指導論)	2学期	2	2	505
	黒田 耕司	2年			
	特別活動の研究 (読替科目:特別活動論)	1学期	2	2	506
	楠 凡之	2年			
	教育方法学 (読替科目:教育方法学)	1学期	2	2	507
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	休講	2年			
	教育実習1 (読替科目:教育実習1)	2学期	3	2	510
	黒田 耕司	3年			
教育実習2 (読替科目:教育実習2)	1学期	4	2	511	
恒吉 紀寿	4年				
教育実習3 (読替科目:教育実習3)	1学期	4	2	512	
恒吉 紀寿	4年				
教育相談 (読替科目:教育相談)	1学期	2	2	509	
楠 凡之	2年				
生徒・進路指導論 (読替科目:生徒・進路指導論)	2学期	2	2	508	
楠 凡之	2年				
教育制度論	1学期	3	1	43	
見玉 弥生	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育課程論 見玉 弥生	1学期	3	1	44
		3年			
	英語科教育法C 休講	1学期	2	2	
		2年			
	英語科教育法D 休講	2学期	2	2	
		2年			
	社会科教育法C (読替科目:社会科教育法C) 下地 貴樹	1学期	2	2	501
		2年			
	社会科教育法D (読替科目:社会科教育法D) 下地 貴樹	2学期	2	2	502
		2年			
教職実践演習(中・高) (読替科目:教職実践演習(中・高)) 楠 凡之 他	2学期	4	2	513	
	4年				
■選択科目	教育心理学 休講	2学期	2	2	
		2年			
	教育法規 休講	2学期	3	2	
		3年			
	障害児の心理と指導 (読替科目:障害児の心理と指導) 税田 慶昭	2学期	2	2	514
	2年				
教育社会学 休講	1学期	2	2		
	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目:人権教育論) 弓野 勝族	1学期	2	2	515
		2年			

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウエイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 下野 グローバル化の中の中国(1) 経済大国への道
- 第7回 下野 グローバル化の中の中国(2) 政治大国への道
- 第8回 篠崎 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新しいかたち(1) 【華人、中華世界】
- 第9回 篠崎 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新しいかたち(2) 【ムスリム、イスラム世界】
- 第10回 白石 中国の持続的発展の可能性:経済成長・SNA・投資
- 第11回 松田 総合商社と海外プロジェクト
- 第12回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第13回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るつぼ】【サラダ・ポウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフアーマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 多国籍企業の所有戦略【所有形態】【経営支配】
- 9回 多国籍企業の経営現地化【グローバル型】【人事現地化】
- 10回 輸入品の流通構造と企業戦略【SCM】【商品調達】
- 11回 地域産業と内なる国際化の実情【外国人労働者】
- 12回 人と情報のボーダレス化【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワークング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機(1)【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。
授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照らしながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) マキアヴェリィの倫理思想 【共和政とヴィルトゥ】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

アメリカの政治III 【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の形成と発展について、植民地期から南北戦争まで扱う。

教科書 /Textbooks

齋藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史』第二版(東京大学出版会 2012年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回英領アメリカ植民地の形成
- 第3回7年戦争と反英抗争
- 第4回独立革命
- 第5回合衆国憲法の制定
- 第6回フェデラリストの時代
- 第7回ジェファソンの時代
- 第8回リパブリカン政権
- 第9回ジャクソンの時代
- 第10回市場革命と民主主義
- 第11回西部開拓と政党政治
- 第12回奴隷制の発展とセクシヨナリズム
- 第13回共和党の誕生
- 第14回南北戦争
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治I,II, IVであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 歴史

アメリカの政治Ⅳ【昼】

専門教育科目
専門科目
A群(地域研究科目)

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の政治発展について、南北戦争期から20世紀初頭までを扱う。

教科書 /Textbooks

齋藤眞、古矢旬『アメリカ政治外交史』第二版(東京大学出版会 2012年)
また、中野博文『ヘンリ・アダムズとその時代』(彩流社 2016年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回19世紀後半のアメリカ政治の発展
- 第3回南北戦争の終結
- 第4回再建の時代のはじまり
- 第5回再建の時代の終結
- 第6回共和党政権と南北戦争後の連邦秩序
- 第7回金びか時代とマシーン政治
- 第8回北部の改革運動
- 第9回19世紀国家秩序の動揺
- 第10回1893年不況とポピュリズム
- 第11回マッキンレー政権の政治
- 第12回改革の時代
- 第13回帝国と帝国主義
- 第14回19世紀アメリカ民主政の特徴
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治I,II, IIIであつかう内容や、国際関係史Iであつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治 歴史

国際関係史I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現在の国際関係を理解するために必要な歴史的な知識を提供するとともに歴史的なアプローチを紹介する。講義では、第二次世界大戦後のアメリカの外交戦略の発展を体系的に論じるとともに、とくに冷戦終結期とポスト冷戦期の外交に重点を置いて議論を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。ただし、J. L. Gaddis, Strategies of Containment (Oxford University Press, 2005) を基礎として講義をおこなう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【国際関係の史的発展】
- 第2回 国際政治史への接近視角【現実主義】【理想主義】
- 第3回 1945年の世界【ヤルタ協定】【ドイツ敗北】【ポツダム宣言】
- 第4回 封じ込めの形成【スターリン】【トルーマン】【原爆】
- 第5回 G・ケナンと長い平和【封じ込め】
- 第6回 NSC 68とアジアの激動【NSC 68】
- 第7回 朝鮮戦争の衝撃【朝鮮戦争】
- 第8回 核の恐怖【核兵器をめぐる国際政治】
- 第9回 ニュールック戦略【アイゼンハワー政権】【脱植民地化】
- 第10回 ケネディの時代とベトナム戦争【柔軟反応戦略】
- 第11回 デタント戦略【ニクソン政権】
- 第12回 レーガンのアメリカ【レーガン政権】
- 第13回 冷戦の終結【東欧革命】【ドイツ統一】【ソ連崩壊】
- 第14回 テロとの戦い【9 / 11】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ合衆国が中心なので、日本外交や旧植民地諸国の発展をあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができます。
授業開始前までに予め指定された資料に目を通し、授業終了後には資料で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治 歴史 冷戦 封じ込め ポスト冷戦

地域研究入門 (アメリカ) 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、アメリカ合衆国が現在にいたる経緯を概観し、歴史・政治・経済・外交・文化など各分野の現状についての基本的、総合的な理解を深める。特に、多民族・多民族社会としてのアメリカの特質を知るために、人種問題やその解決への努力にも注目する。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有賀貞『ヒストリカル・ガイド：アメリカ』山川出版社、2004年
和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年
ほか授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション～近年のトピック / 文献紹介
 - 第2回 19世紀のアメリカ～国土の開発・領土拡大と奴隷制
 - 第3回 19世紀のアメリカ～南北戦争の経緯
 - 第4回 19世紀のアメリカ～戦後処理とその後の黒人問題
 - 第5回 20世紀前半のアメリカ～移民史の概要
 - 第6回 20世紀前半のアメリカ～1920年代と禁酒法
 - 第7回 20世紀前半のアメリカ～大衆消費社会とメディア革命
 - 第8回 20世紀前半のアメリカ～大恐慌の発生
 - 第9回 20世紀前半のアメリカ～第二次世界大戦と戦後構想
 - 第10回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その1
 - 第11回 2010年の最もカレントなトピックについて (小テストを兼ねる) その2
 - 第12回 20世紀後半のアメリカ～戦争と人種問題
 - 第13回 20世紀後半のアメリカ～人種差別解決への努力
 - 第14回 20世紀後半のアメリカ～多文化主義の興隆とこれから
 - 第15回 まとめ
- その他、開講期間中に起こったニュース等に関連して、適宜その歴史的背景などの解説を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題 (小テスト) ...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくこと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。授業外学習については、授業中に指示する。初回の授業の前に特に準備することはない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究 (音声学・音韻論) 【昼】

担当者名
/Instructor

ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
				○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

The goal of the Phonetics portion of the course is to become able to hear sounds and describe them using articulatory descriptions and transcriptions, including using the International Phonetic Alphabet (IPA). Another goal will be to experiment, insofar as is possible, with using digital technology to also look at acoustic representations of speech. The goal of the Phonology portion of the course is to become able to correctly identify allophones and phonemes of any language, although our major focus will be on English phonology. This is a skill that takes practice and throughout the course we will be constantly working on improving our ability to use phonetic principles to guide us to the most economic and elegant solutions to phonology problems. Our ultimate goal is to understand the range of possibilities for differences in sound and what differences in sound produce differences in meaning in language.

Put in more compact form, the goals of this course are:

- 1) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
- 2) To understand an acoustic sound wave
- 3) Identify the phones (sounds) of English
- 4) Learn what a phoneme is and how they differ from phones
- 5) Learn to solve phonology problems

教科書 /Textbooks

Yavas, Mehmet. (2011). Applied English Phonology. Hoboken, NJ: Wiley-Blackwell.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to Phonetics, Get to know other students
2. Manners of articulation for consonants
3. Manners of articulation for vowels
4. Phonology; IPA of English consonants
5. In-class transcription practice
6. The consonants of English
7. The vowels of English
8. Acoustic phonetics
9. Acoustic phonetics
10. Syllables
11. Stress, sentence rhythm, intonation
12. States of the glottis; In-class transcription practice
13. Structural factors and contrastive analysis
14. Spelling and pronunciation
15. Course overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%; Problem Sets (Homework): 50%; Final exam: 15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Pre-class preparation: A general introduction to Linguistics course would be a useful, but not necessary, preparation for this class. You should be able to speak and understand English at an intermediate level to follow the English lectures.

Follow-up activities: You will be able to use phonological analysis in any future linguistics projects that you may want to do.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Phonetics, Phonology, English, Linguistics, Spelling, Pronunciation

アメリカの現代文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
				○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃を【ロスト・ジェネレーション】の世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingway、そして【ユダヤ系文学】、【黒人文学】、第二次世界大戦後の【ポストモダニズムの文学】を読んで現代アメリカ文学への理解を深めていきたい。

【ロスト・ジェネレーション文学】

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)

F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)

【難民問題の文学】

John Steinbeck: The Grapes of Wrath 『怒りのぶどう』(講談社文庫)

【ユダヤ系文学】

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)、

【黒人文学】

Richard Wright: Native Son 『アメリカの息子』(ハヤカワNVブックス)

【ポストモダニズム文学】

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)

Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』

教科書 /Textbooks

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 『日はまた昇る』(集英社文庫)

F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 『グレート・ギャツビー』(中央公論新社)

J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 『ライ麦畑でつかまえて』(白水Uブックス)

Richard Wright: Native Son、【ユダヤ系文学】、【黒人文学】【ポストモダニズム】(絶版なので資料配付)

Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(資料配付)

Dennis Johnson: Jesus' Son 『ジーザス・サン』(資料配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【国籍離脱者Exile】 【Hard-boiled】
- 2回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 【ロスト・ジェネレーション】
- 3回 パリ、スペイン・パンプローナ「牛追い祭」と闘牛のシーン(映画・ビデオ)で鑑賞。
- 4回 John Steinbeck: The Grapes of Wrath 【難民問題の始まり】
- 5回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【The Jazz Age】
- 6回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【Gatsby's Dream】
- 7回 F・S Fitzgerald: The Great Gatsby 【American Dream】日本の【成金】との比較
- 8回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【ユダヤ系作家】 【Soft-boiled】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 9回 J.D. Salinger: The Catcher in the Rye 【禅仏教】 【Angry Young Men】映画Scent of A Woman東部の名門寄宿高校
- 10回 Richard Wright: Native Son 【黒人作家】 【エリソン】 【ポールドウィンら黒人作家】
- 11回 Richard Wright: Native Son 【Black Power】 【旧約聖書・ヨブ記】
- 12回 ポストモダニズムの文学(1) Ken Kesey: One Flew Over the Cuckoo's Nest 【サイケデリック・カルチャー】
- 13回 ポストモダニズムの文学(2) Joseph Heller: Catch-22 【ギラン・バレー症候群】 【Catch-22的状况とは】
- 14回 ポストモダニズムの文学(3) Robert Newton Peck: A Day No Pigs Would Die 『豚の死なない日』(白水社Uブックス)
- 15回 ポストモダニズムの文学(4) 【ブラックユーモア】 【シュールリアリズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(20%)、レポート(50%)と学期末試験(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アメリカの現代文学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で準備することは、テキストを読むこと、さらに、授業中指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの現代文学 【昼】

担当者名 /Instructor 田吹 長彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

イギリスの現代文学で、現代社会の一面を如実に描写し、巷間に流布した作品を取り上げて、詳しく解説する。

教科書 /Textbooks

プリントを配付してテキストとして使う

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡沢 武『英詩の心』篠崎書林。○石井 正之助『英詩珠玉選』大修館書店。○斎藤 勇『英詩概論. 増訂新版』 研究社出版。○安斎 七之介『詩とその鑑賞』篠崎書林。○尾島 庄太郎『英詩の味わい方』 研究社出版。○石井白村『英詩韻律法概説』篠崎書林。○新井 明『英詩鑑賞入門』研究社出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Part I. 作品(英詩)の読み方・鑑賞方法について、原文とその解説を英文で読みながら解説する。

- [1] 英文学史における現代イギリス文学の位置を解説し、授業の概要・方法について説明する
- [2] Terence Hards: Hansey
- [3] Edmund Blunden: Report on Experience
- [4] Blunden, Report on Experience の続き、
およびMidnight Skaters
- [5] Norman Cameron: The Compassionate Fool
- [6] Thomas Hardy : Last Words to a Dumb Friend
- [7] Walter de la Mare: The Children of Stare
- [8] The Children of Stareの解説の続き。

Part II. (Part Iで学んだ解説方法をもとに現代詩を読みつつ、解説する)

- [9] Walter de la Mare: The Railway Junction
- [10] Dylan Thomas: Do Not Go into That Good Night
および Fern Hill
- [11] Wilfred Owen: Futility
Arms and the Boy.
- [12] T.S. Eliot: The Hollow Men
The Naming of Cats
The Macavity: the Mystery Cat
- [13] T.S. Eliot: The Rum Tum Tugger. The Macavity: the Mystery Cat
- [14] Rupert Brooke: The Great Lover
- [15] 第1学期講義の総括、および質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の成績(90%)、出席状況・受講状況(10%)。(授業日数の2/3以上の出席は必須条件)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストは英文なので、授業の前に原文を読んで予習をして、講義ノートを必ず作成すること。また、授業後は内容を整理して、要点をまとめること。特に事前に講義テキストの予習を済ませておくことと理解に役立つ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学における現代詩の分野は英語圏ばかりでなく、わが国の現代社会をも投射したものである。イギリス社会に潜在する、ものの考え方や見方の根幹をなすものでもある。これらの素養に培われた人の心や資質は政治・経済・科学などあらゆる社会活動において大きく作用する。イギリス社会の深層を描く現代詩を探求することは、英語を学ぶわれわれ日本人にも広い視野や深い洞察力・見識をもたらすことが多い。なお講義日程の消化状況によって、別のテーマを加えて試験範囲に入れることもある。

イギリスの現代文学 【昼】

キーワード /Keywords

イギリス文学、英語の読み方。イギリスの現代思想・社会。人間の心と資質。人間はいかに生きて来たか。どのようにして現代の本質を洞察し、未来を予測するか。

アメリカの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代の【ピューリタニズム】と【アメリカの独立】の時代を見事に描いたNathaniel Hawthorneの文学、【アメリカ民主主義】の讃歌と西洋文明の挽歌を歌ったHerman Melville、民主主義の国アメリカの新しい、【独立心】の強い女を描いたHenry JamesのDaisy MillerやThe Portraite of a Ladyを読んでアメリカ文学の古典への理解を深めていきたい。

教科書 /Textbooks

Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）
Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）
Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）
Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
Henry James: The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Nathaniel Hawthorne: Short Stories 『ホーソン短編集』（岩波文庫）
 - Nathaniel Hawthorne : The Scarlet Letter 『緋文字』（岩波文庫）
 - Herman Melville: Moby Dick or the white whale 『白鯨』（新潮文庫）
 - Henry James: Daisy Miller 『デイジー・ミラー』（新潮文庫）
 - The Portraite of a Lady 『ある婦人の肖像』（岩波文庫）
- 参考文献等は図書館の指定図書コーナーに開架し、さらにまた、その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】 映像
- 2回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【ピューリタニズム】 映像
- 3回 Nathaniel Hawthorne: Short Stories 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】 映像
- 4回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】 の文学・映像
- 5回 Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letter 【超絶主義】 の文学・映像
- 6回 NHKグレートブックス・シリーズ「緋文字」のビデオをみて「緋文字」の現代的意味を探る。
- 7回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】 Powerpointによる解説
- 8回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【ゾロアスター教】 【拝火教】 Powerpointによる解説
- 9回 Herman Melville: Moby Dick or the white whale 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】 映像
- 10回 Henry James: Daisy Miller 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】 映像
- 11回 Henry James: Daisy Miller 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】 映像
- 12回 Henry James: The Portraite of a Lady 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】 映像
- 13回 Henry James: The Portraite of a Lady 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】 映像
- 14回 Henry James: The Portraite of a Lady 【結婚・離婚と自己責任】 映像
- 15回 まとめ・Jamesの映像『金色の嘘』『鳩の翼』

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (30%)、レポート (40%) と学期末試験 (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義の準備として、テキストを読むこと、授業中に指示した参考書等を読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【大英帝国植民地】 【マサチューセッツ・ボストン】 Nathaniel Hawthorne 【ピューリタニズム】 【自由主義思想】 【Salem魔女裁判】 【ピューリタニズム】 【啓蒙主義思想】 【超絶主義】 『緋文字』の現代的意味 【アメリカ民主主義】 【バーバリズム】 【ゾロアスター教】 【拝火教】 【白鯨とは何なのか】 【ヨブ記】 【異端】 【19世紀の女性】 【Independent】 【自由とは】 【慣習】 【因習】 【しきたり】 【Freedom】 【自由恋愛】 【民主主義アメリカの新しい女性】 【自立した女性】 【旧世界の因習】 【選択】 【人生の苦しみ】 【結婚・離婚と自己責任】

イギリスの18-19世紀文学 【昼】

担当者名 虹林 慶 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

18、19世紀のイギリス文学に関する基礎的知識を提供し、時代あるいは作家毎に、代表的な作品の抜粋に触れる。テキスト理解を含めた内容を提供することで、イギリス文学史形成のダイナミズムを理解するだけでなく、重要な文人たちについての興味を拡充していくきっかけを提供することが目標である。

教科書 /Textbooks

授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01) イントロダクション
- 02) 18世紀の小説(スウィフト、デフォー、など)
- 03) 18世紀の小説(フィールディング、リチャードソンなど)
- 04) 18世紀の詩(ポープ、ジョンソンなど)
- 05) ロマン派の詩1(ワーズワース、コールリッジなど)
- 06) ロマン派の詩2(バイロン、シェリー、キーツなど)
- 07) 19世紀の小説1(オースチン、スコット、ブロンテ姉妹など)
- 08) 19世紀の散文1(カーライル、ラスキンなど)
- 09) 19世紀の詩1(テニソン、ブラウニングなど)
- 09) 19世紀の小説2(ディケンズ、サッカレーなど)
- 10) 19世紀の散文2(モリス、ベーター)
- 11) 19世紀の詩2(ロセッティ、スウィンバーンなど)
- 12) 世紀末の小説(ハーディー、メレディス、ワイルドなど)
- 13) 世紀末の散文、劇(ワイルドなど)
- 14) 世紀末の詩(ハーディー、ワイルドなど)
- 15) まとめ(20世紀の文学との繋がりについて)

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(小テスト、レポートを含む)40% 定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

英和辞書必携。出席を3分の2以上していない者は期末試験の受験資格が無い。また、授業の雰囲気を低下させる行為(私語、携帯端末の使用、授業内容と関係ない行為、居眠り等)をする者は、適時出席の取り消し、室外退去、減点を行うので留意されたい。

【事前・事後学習の内容】授業前に、指示された資料を読んでおくこと。授業後にはノートなどを見直し復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論 【昼】

担当者名
/Instructor

ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
				○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義はアメリカ文化を様々な視点から検討します。独立宣言、政治演説など、多数の歴史的資料を取り上げることを通して、アメリカが辿って来た道、そして現代における意義を検証していきます。この講義を通して、学生はアメリカに対する専門的知識を得る上で、アメリカ社会の動向に対して分析する力を身につけます。

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要なものは授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 【The Civil War】 and the 【Civil Rights Movement】
- 8回 The US System of 【Government】
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960s Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing 【Immigration】
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 30% 小テスト : 0% 期末試験 : 60% 課題 : 0% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

The course will be taught primarily in English with Japanese notes used to further student understanding of difficult content. Lecture notes will be provided to aid student review. The examination will primarily be administered in Japanese but will include some English vocabulary. Students are expected to read the English-language textbook chapter relating to each week's topic before class to gain historical background information so as to fully appreciate the lecture. Students are encouraged to familiarize themselves with the topics listed in the schedule above before the first class session and thoroughly review all class notes after the term finishes.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史I 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

明代に成立した伝奇小説である『三国志通俗演義』を通して、中国の社会と文化、経済と政治を包括的に学ぶ。三国志に描かれている人物の行動様式から、中国人がいかなる社会を構成し、いかなる経済を営んでいたかを、事例研究的に学ぶ。特に日本社会との相違点について論じる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。ビデオとプリントを中心教材とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
 山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
 山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
 山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(三国志と三国演義との違い)
- 第2回 桃園の誓い(農村部における定期市)
- 第3回 桃園の誓い(伝統中国の地方政治)
- 第4回 三顧の礼(経済の要としての古代荊州)
- 第5回 三顧の礼(古代中国の書物)
- 第6回 三顧の礼(伝統中国の葬礼)
- 第7回 三顧の礼(三顧の礼が意味するもの)
- 第8回 三顧の礼(関羽に代表される中国人の面子)
- 第9回 赤壁の戦い(曹操の華北と孫権の江南との経済的相違)
- 第10回 赤壁の戦い(受禅台を通して見た貴族制への移行)
- 第11回 五丈原(中原と五胡との歴史的関係)
- 第12回 五丈原(蜀の栈道を通して見た交通と経済)
- 第13回 五丈原(兵法家孔明の評価)
- 第14回 晋の三国統一の社会経済的意味
- 第15回 まとめの回(小説を通して見た伝統中国の諸様相)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ビデオは中国語で放送するが、日本語字幕が付く。「東洋史」を履修していることが好ましい。
 三国志のあらすじは小説などで事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会経済史II 【昼】

担当者名 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ『イ・サン』を通して中国・朝鮮のような官僚専制社会と日本のような共同体社会との相違点について論じる。また、朝鮮と中国・日本との関係に触れられた部分などを素材として、近世東アジア社会の外交関係と貿易関係について論ずる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。DVDと配布プリントを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。
山本進『環渤海交易圏の形成と変容』東方書店、2009年。
山本進『大清帝国と朝鮮経済』九州大学出版会、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(儒教社会としての中国と朝鮮)
- 第2回 中国や朝鮮の宮殿構造
- 第3回 中国や朝鮮の都市景観
- 第4回 清国使節団
- 第5回 中朝貿易
- 第6回 朝鮮における道遣い制の普及と銅銭不足
- 第7回 朝鮮の対中輸出品としての紅蔘開発
- 第8回 乱塵(商業独占権と特権商人の保護)
- 第9回 辛亥通共(乱塵の禁止)
- 第10回 中国・朝鮮・日本における火器の歴史
- 第11回 燕行使
- 第12回 中朝陸上交通路と沿辺都市の役割
- 第13回 承政院日記の洗草の意味するもの
- 第14回 朝鮮の対清外交
- 第15回 まとめの回(銀経済を維持した中国と銭経済に移行した朝鮮)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本史」や「東洋史」を履修していることが好ましい。
概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

2010年の冬以来、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」ととどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでのひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
- 2回 イギリス革命：ピューリタン革命(1)【イギリスの宗教改革】
- 3回 イギリス革命：ピューリタン革命(2)【ピューリタニズムと共和国】
- 4回 イギリス革命：名誉革命(1)【王政復古体制】
- 5回 イギリス革命：名誉革命(2)【権利章典】
- 6回 アメリカ革命：反英抗争(1)【植民地建設】
- 7回 アメリカ革命：反英抗争(2)【植民地の発展】
- 8回 アメリカ革命：独立革命(1)【課税への反対】
- 9回 アメリカ革命：独立革命(2)【「コモン・センス」と「独立宣言」】
- 10回 フランス革命：アンシャン・レジーム(1)【「社団」から「公衆」へ】
- 11回 フランス革命：アンシャン・レジーム(2)【政治的危機と経済的危機】
- 12回 フランス革命：89年革命(1)【全国三部会とバスティーユ占領】
- 13回 フランス革命：89年革命(2)【「人権宣言」と「1791年憲法」】
- 14回 ハイチ革命：米仏への影響
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験(100%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
				○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞って（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われてはいますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・ エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起	
第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義	【持続可能な開発（SD）】
第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって	【貧困概念】
第4回 アマルティア・センと社会・人間開発	【アマルティア・セン】
第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策	【一人っ子政策】
第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在	【インフォーマルセクター】
第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区	【スクオッタ居住区】
第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）	【資源配分】
第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など	【森林破壊】
第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に	【廃棄物管理問題】
第11回 保健・医療問題 ～感染症、下痢を中心に	【感染症】
第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方	【農業・漁業】
第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA	【ODA】
第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より	【NGO】
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴しててください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、自らの経験を通して一時資料を収集するフィールドワークのエッセンスを学ぶ。

研究対象地域を実際におとずれるフィールドワークを中心テーマとし、「当たり前を疑い、他者を理解する」という姿勢を身につける。自分と慣れ親しんだ環境とは異なる地域や文化に住む「知らない人々」、また同じ環境にいたっていた「知っているつもりの人々」を理解する方法のひとつとして、フィールドワークを活用できるようにすることが、本講義の狙いである。

講義では人類学を主な素材として、フィールドワークの理論と手法、実際、困難、限界、楽しさのエッセンスを紹介し、議論する。理解の助けとするために、異文化共同体におけるフィールド研究の具体的な事例を適宜取り上げる。本講義の受講によって、自らの身の回りで起こることに興味を持ち、当事者として自分自身も変化していくフィールドワークの楽しさ・苦しさを知ってほしい。

教科書 /Textbooks

なし 適宜レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『相克の森』2006 熊谷達也
 - 『エビデミック』2007 川端裕人
 - 『フィールドワーク-書を持って街へ出よう』2006 佐藤郁哉
 - 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝
 - 『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地
- その他講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN
- 第2講 フィールドワークの理論・手法(1)【見る聞く話す】
- 第3講 フィールドワークの理論・手法(2)【調査対象】
- 第4講 フィールドワークの理論・手法(3)【普遍主義と文化相対主義】
- 第5講 フィールドに行く(1)【異文化の歴史】
- 第6講 フィールドに行く(2)【異文化の慣習】
- 第7講 フィールドに行く(3)【異文化の現在】
- 第8講 フィールドに行く(4)【比較と検討】
- 第9講 フィールドワークと社会実践(1)【国際協力・環境保全】
- 第10講 フィールドワークと社会実践(2)【国際紛争・真実和解委員会】
- 第11講 フィールドワークと社会実践(3)【個人的葛藤とその解決】
- 第12講 フィールドワークと社会実践(4)【議論と実践】
- 第13講 当事者としての調査者(1)【調査の責任】
- 第14講 当事者としての調査者(2)【共同体の横断】
- 第15講 まとめ

題目や内容は、理解度にあわせて変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小論文・レポート80%
授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク 野外調査 人類学

環境社会学【昼】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

自然環境と人間社会との複雑で深い相互関係について、主に森林と人間との関係性に注目し、歴史や文化、産業やコミュニティといった視点から、農山村等の事例を用いながら考えていく。各回で出された問いについて、自分なりの考察を行うとともに、自然と人間の関係について重要な課題を発見し、それらを今後とも追求していける力を備えることが目標である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回で、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○嘉田由紀子『環境社会学』岩波書店
○関礼子ほか『環境の社会学』有斐閣
その他、各回のテーマに応じて、そのつど紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 本講義の枠組み
- 2回 資源採取と産業
- 3回 中国の自然・農業・食
- 4回 種の多様性と文化
- 5回 自然を表す言語 1【語彙】
- 6回 自然を表す言語 2【和歌】
- 7回 日本の森林文化
- 8回 植物伝播の歴史
- 9回 伝統工芸と日本文化
- 10回 農山村社会 1【村落と生業】
- 11回 農山村社会 2【村落の組織】
- 12回 農山村社会 3【観光化】
- 13回 都市と農山村
- 14回 北九州の森林問題
- 15回 まとめと質疑応答

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート...50% 日常の授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に、配布する資料を予習し、また学期を通して、各回で紹介する文献を読み進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシアの歴史と社会 【昼】

担当者名 渡邊 克義 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ロシアの歴史、社会、文化について基礎的知識が身につくよう、授業を展開する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ロシア黎明期
- 第2回 ロシア帝国(1)
- 第3回 ロシア帝国(2)
- 第4回 日露戦争、ロシア革命
- 第5回 ソ連邦史(1)
- 第6回 ソ連邦史(2)
- 第7回 映画「地下水道」から見えるもの(1)
- 第8回 映画「地下水道」から見えるもの(2)
- 第9回 映画「地下水道」から見えるもの(3)
- 第10回 映画「灰とダイヤモンド」から見えるもの(1)
- 第11回 映画「灰とダイヤモンド」から見えるもの(2)
- 第12回 映画「灰とダイヤモンド」から見えるもの(3)
- 第13回 映画「大理石の男」から見えるもの(1)
- 第14回 映画「大理石の男」から見えるもの(2)
- 第15回 映画「大理石の男」から見えるもの(3)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

好奇心旺盛な学生の参加を期待します。

キーワード /Keywords

ロシア・ソ連邦通史
ロシア・ソ連の対外政策

政策調査論【昼】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。
人間同士のコミュニケーションが多種多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築する、具体的には社会科学的分析手法を体系的に学ぶ授業となります。
分析手法を大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確にするのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことをそれぞれダイナミックに扱っていきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中道寿一ほか(2011)『政策研究：学びのガイダンス』福村出版
 - 佐藤郁哉(2002)『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』新曜社
 - 小池和男(2000)『聞きとりの作法』東洋経済新報社
 - 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
 - 谷岡一郎(2007)『データはウソをつく：科学的な社会調査の方法』筑摩書房
 - 増山幹高・山田真裕(2004)『計量政治分析入門』東京大学出版会
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【演繹と帰納】【理論と実証】
- 2回 分析方法を知る前に【リサーチ・クエスション】【因果関係】
- 3回 質的な分析(1) フィールドワークにでかけよう
- 4回 質的な分析(2) 観察結果の比較【参与観察】
- 5回 質的な分析(3) 聞きとりの技法
- 6回 質的な分析(4) 分厚い記述・薄い記述
- 7回 質的研究と量的研究の「差地点」
- 8回 量的な分析(1) 数値データの利用と構築I【集合データ】【個票データ】【操作化】
- 9回 量的な分析(2) 数値データの利用と構築II【社会調査】【キャリアオーバー効果】【ダブル・バーレル】
- 10回 量的な分析(3) 計量的なデータ分析I【データの整理】【視覚化】
- 11回 量的な分析(4) 計量的なデータ分析II【記述統計量】【度数分布】
- 12回 分析方法の選択
- 13回 「政策を知る」ために(1) 法と政策
- 14回 「政策を知る」ために(2) 政策とは何か
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加・貢献度合い40%、課題60%
(遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政策科学入門」「政策入門演習I」で学んだことをふまえて、本授業では色々な分析方法を扱っていきます(「政策科学入門」「政策入門演習I」を履修済みであることが受講条件ということではありません)。
授業外学習について、事前学習は特に必要ありませんが、授業時間中も含め2回~3回の課題(小テストを含む)を出す予定ですので、授業後はレジュメを見直すといった復習や次の授業とのつながりはどこか、といった作業を随時行うことをおすすめします。
現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2013年度以降、1年次の必修となったこの科目は、毎回の出席が大前提の講義となります。2年次から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。2012年度以前に入学された方にとっては選択必修の科目(政策理論科目)のひとつとなりますが、基本的に授業は積み上げ方式、すなわち前回以前の内容を受講生の共通理解として進めていきますので、休まず受講することが肝要です。

政策調査論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級英語 A 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in short English-language presentations on topics to be chosen by the students.

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: A Debaters Handbook、Debbie Newman (編集), Trevor Sather (編集), Ben Woolgar (編集) Routledge; 19版 (2013/9/27)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Supplementary materials to be provided by instructor. Students should use library references and resources to prepare for class debates.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory (Textual/Source Study)
- 3.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) A
- 4.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) B
- 5.Philosophy/political theory (Argumentation and Debate) C
- 6.International relations (Textual/Source Study)
- 7.International relations (Argumentation and Debate) A
- 8.International relations (Argumentation and Debate) B
- 9.International relations (Argumentation and Debate) C
- 10.Social, moral, and religious (Textual/Source Study)
- 11.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) A
- 12.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) B
- 13.Social, moral, and religious (Argumentation and Debate) C
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (50%) Presentation and Participation (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

For class preparation students should read all assigned materials before meetings.

For review students should apply the results of class discussions to their individual topics. Students should continue to pursue tasks in relation to their own topics for presentation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

上級英語 B 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic-focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers. The course will culminate in a 70-minute English-language class discussion on a topic to be chosen by the student body.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2. The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3. The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4. The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5. The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6. The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7. The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8. The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9. Capital Punishment (Textual/Source Study)
10. Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11. The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12. The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13. The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14. The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15. Closing Discussion: Student-Selected Topic

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments (50% X 2: 100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
				○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといつてよい。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④移住政策、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する(あるいは直面している)政策課題について、先進的取り組みを含め考えていくことにしたい。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になる。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通じて考えていただきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材(レジュメおよびリーディング・テキスト)を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』(学芸出版社、2001年)
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』(学陽書房、2007年)
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』(農村漁村文化協会、2005年)
- 大野晃『限界集落と地域再生』(高知新聞社、2008年)
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』(エルダーサービス、2010年)
- 大西隆ほか『集落再生-「限界集落」のゆくえ』(ぎょうせい、2011年)
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?』(ちくま書房、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想(青森市、富山市など)
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」条例
- 7回 限界集落(3)-限界集落の再生、「集落支援員制度」等の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化
- 10回 限界コミュニティとコミュニティ再生
- 11回 北九州市における超高齢コミュニティとその対策
- 12回 フードデザート、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 移住政策
- 14回 小さな自治体は消滅するのか?-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない!!

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。

受講者調整の関係から第1回目の講義にはなるべく参加するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)、社会の担い手

中国歴史社会研究I 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。Iでは主として政治・経済・国際関係の実態と思想との整合性について述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中国や韓国の子供観・文字学習と千字文
- 第3回 鶏肋の意味
- 第4回 朝鮮の秩序意識・大陸における面子の重要性
- 第5回 饅頭・儒教と「孝」
- 第6回 ヨンセンと人間関係
- 第7回 冊封体制・明の使節
- 第8回 満漢全席・食器
- 第9回 料理
- 第10回 「忠」と「孝」との相克
- 第11回 衣装と服制
- 第12回 白米・貨幣
- 第13回 上司の条件
- 第14回 東アジアにおける銀の流通
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国歴史社会研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 進 / Yamamoto Susumu / 中国学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

韓国ドラマ「大長今(宮廷女官チャングムの誓い)」を通して、前近代東アジアの政治・経済・社会・文化・国際関係について学ぶ。ドラマの舞台は15世紀の朝鮮であるが、当時の朝鮮は漢字文化圏の一部であった。朝鮮(韓国)での漢字文化受容の在り方を通して、中国文化の普遍性について考察する。IIではこれまでこの地域の普遍的な思想と考えられてきた「儒教」が、実際には地域の社会的・文化的特性に応じて、固有の変化を遂げていたことを述べる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。毎回ドラマ1話を見せ、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本進『清代社会経済史』創成社、2002年。
 山本進『清代の市場構造と経済政策』名古屋大学出版会、2002年。
 山本進『清代財政史研究』汲古書院、2002年。
 山本進『明清時代の商人と国家』研文出版、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 医女の歴史・中国の年号を朝鮮で用いた理由
- 第3回 儒教の経典
- 第4回 復讐と報恩・ヨンセンの面子
- 第5回 東洋医学・己卯士禍
- 第6回 華佗
- 第7回 脚気
- 第8回 宮廷の構成
- 第9回 胡椒の流入・韓国人と漢字
- 第10回 裁判制度・密貿易
- 第11回 親孝行
- 第12回 大長今の称号
- 第13回 チャングムの時代の東アジア儒教(朱子学の伝播)
- 第14回 チャングムの時代の東アジア外交(漢字文化圏の一体性)
- 第15回 まとめの回

成績評価の方法 /Assessment Method

- 第1回小テスト40%
- 第2回小テスト30%
- 第3回小テスト30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

概説書等を通して高等学校の世界史レベルの基礎知識を事前に学んでおくこと。授業後は小テスト対策も兼ねてレジュメ・口頭説明の内容を再確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ経済【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

かつて10%を超えていた失業率も大幅に低下し、好調な回復を続けるアメリカ経済ですが、日本の輸出もこれに引っ張られて順調に推移しています。こうした経済の安定を踏まえて、アメリカの中央銀行であるフェッドのイエレン議長は、昨年12月、ついにFFレートの目標値引き上げに踏み切りました。12月に大統領選挙を控える今年のアメリカ経済は、日本経済にとっても目の離せないものになるでしょう。他方、アメリカは貧富の格差や財政赤字などの構造的な問題も抱えています。こうした問題に任期最後の年のオバマ大統領がどのように対処していくのかも注目すべき点です。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済と比較しながら分かりやすく説明します。経済学の前提となる知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

教科書 /Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中島精也『傍若無人なアメリカ経済 - アメリカの中央銀行・FRBの正体』角川新書、2015年9月。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 アメリカの産業と所得
- 2 アメリカの所得分配と社会保障
- 3 アメリカ家計の消費と貯蓄
- 4 アメリカの社会階層と失業
- 5 アメリカ企業と収益
- 6 アメリカ企業と投資
- 7 アメリカ政府と税制
- 8 アメリカの政府支出と財政
- 9 アメリカの通貨制度
- 10 アメリカの金融システム
- 11 アメリカ経済と金利
- 12 アメリカの国際収支
- 13 アメリカ経済と為替レート
- 14 アメリカ経済と物価
- 15 アメリカの経済成長と景気

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題が2問出題されます。

試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私は福岡大学教授(経済学部・大学院経済学研究科)なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール(yamazaki@cis.fukuoka-u.ac.jp)に送ってください。

キーワード /Keywords

World Largest Economy 消費大国 サービス経済化 Fed 大統領選挙 経常収支赤字 所得格差 投資銀行 ファンド 住宅投資 基軸通貨

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介 (2012)、『環境経済学をつかむ 第2版』、有斐閣、2,484円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木 (2008)、『環境経済学をつかむ』有斐閣
 時政・薮田・今泉・有吉編 (2007)、『環境と資源の経済学』勁草書房○
 日引 聡、有村俊秀 (2002)、『入門 環境経済学』、中公新書○
 マンキュー (2005)、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社○
 R. K.ターナー他 (2001)、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN : 環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか? (1) 【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか? (2) 【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンス】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネット曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (12回) ...40%、課題...10%、期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。
 講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
 経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『(仮題)海外子会社』創成社(2016年出版予定)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論1において講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『(仮題)海外子会社』創成社、2016年出版予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでおくことを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
							○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。

1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』(有斐閣・2005年)
 山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成28年版』(有斐閣・2015年)
 ※ 基本的に配布するレジユメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』(有斐閣・2010年)(図書館蔵書:○)
 笹倉秀夫『法学講義』(東京大学出版会・2014年)(図書館蔵書:○)
 ※ このほか、講義中に板書・レジユメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か(1)【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か(2)【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か(3)【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法(1)【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法(2)【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法(3)【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法(1)【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法(2)【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民法(1)【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民法(2)【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況(進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある)(全体の30%)
 2. 講義全体の内容についての期末テスト(全体の70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。
- 【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。
- 【諸注意】
- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
 - ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアドレス等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学総論【昼】

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

目標

- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
- ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育,中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 (1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則 (2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項 (3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項 (4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項 (1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項 (2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項 (3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み (1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み (2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジユメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) グローバルな人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
 グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。そうした中で、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
 授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(課題)・・・15% 期末試験・・・85%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 多国籍企業の所有戦略【所有形態】【経営支配】
- 9回 多国籍企業の経営現地化【グローバル型】【人事現地化】
- 10回 輸入品の流通構造と企業戦略【SCM】【商品調達】
- 11回 地域産業と内なる国際化の実情【外国人労働者】
- 12回 人と情報のボーダレス化【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワーキング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機(1)【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1)戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2)アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【マーシャル・プラン】【封じ込め戦略】【日本の経済復興】
11. 脱植民地化と社会主義経済の苦闘【東欧の共産化】【経済の政治化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ベトナム戦争】【ニクソン・ショック】【日米経済摩擦】
13. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
14. 世界金融危機と日本経済【国際金融規制】【貿易収支】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 /YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以来、数々の困難を乗り越えながら、貿易立国として発展反映を遂げてきたが、近年少子高齢化などの影響で国内の需要が伸び悩み、広く海外に需要を求めざるを得ない状況になっている。一方で、ビジネスのボーダレス化が加速度的に進んでいる。従い、このようなボーダレス社会に対応し活躍できる、智慧や交渉力・発想力などを持った人財の育成が急務である。この講義では①国際貿易に関わる基礎的な智慧を学ぶ。②その智慧を活かし、国際貿易をめぐる歴史や現状の理解に努める。③貿易自由化の進展とその影響について学ぶ。④国際貿易における諸課題について、自分で考え、交渉や議論の出来る力を養う。⑤同時に、国際舞台で活躍する醍醐味や面白さを講義やDVD映像を通して、追体験する。担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験、人脈や智慧を駆使した現場感覚に満ちた実践的な講義を行うので、受講生諸君は旺盛な知的好奇心を持って、鋭意受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリント等を事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のDVD等を視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志 「海外直接投資とアジアの貿易循環」 ふくろう出版 (2007年) ○
小川雄平 「新版 貿易論を学ぶ人のために」 世界思想社
藤井正嗣 「英語で学ぶMBAのシークス」 NHK出版 ISBN 978-4-14-039550-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction, 国際貿易とは
- 2回 国際貿易の流れ(輸出入、三国間)
- 3回 国際貿易の決済と外国為替
- 4回 日本の貿易と経済発展
- 5回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 6回 日本の国際貿易の現状・課題と国際収支
- 7回 国際金融～IMF体制等
- 8回 戦後の貿易を巡る国際的枠組み
- 9回 '90年代以降のアジアとの生産分業と日本の貿易の進展
- 10回 FTA/EPA等の国際貿易の動き
- 11回 アジア太平洋地域の自由貿易体制 (TPP, FTAAPP等)
- 12回 経済のグローバル化のMeritとDemerit
- 13回 直接投資の増大とそれによる貿易拡大
- 14回 ボーダレスに活躍できる人財に求められる能力
- 15回 前期のまとめ

各講義の前半に、前回の講義の質疑・討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・ 40%
課題・・・ 20%
期末レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず読み、内容を咀嚼すること。
講義中にも、自分自身で考え、積極的に質疑・討論に参加すること。
マスメディアやインターネット等の国際貿易に関する報道や情報に常に関心を持ち、それらを検証し、考え、活用する力を身に付けるよう努めること。

国際貿易論I 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合商社三井物産株式会社の国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国、カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務、そしてその後の教育・国際貢献活動等を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際貿易での活躍の仕方について、当事者意識をもって学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性・違い、信用・信頼、互助共生、現場主義、発想の転換、経営理念、Critical thinking

国際貿易論II 【夜】

担当者名 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で国内の需要が伸び悩み、広く海外に活路を求めざるを得ない状況になっている。一方で、ビジネスのボーダレス化が加速度的に進んでいる。従い、このようなボーダレス社会に対応し活躍できる、智慧や交渉力・発想力を持った人材の育成が急務である。この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じた貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、国際貿易を巡る歴史や現状を理解し、④その対応について受講生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論を進められる力を養って行く。また、⑤アジアに近い九州の特性を活かした貿易のあり方についても考える。国際貿易論IIでは、特に、国際貿易論Iで学んだ智慧を活かして、より実践的に諸課題について考える。担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験、人脈、智慧を駆使した現場感覚に満ちた実践的な講義を行うので、受講生諸君は旺盛な知的好奇心を持って鋭意受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリント等を事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のDVD等を視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志 「海外直接投資とアジアの貿易循環」 ふくろう出版 (2007年) ○
小川雄平 「新版 貿易論を学ぶ人のために」 世界思想社
藤井正嗣 「英語で学ぶMBAのシックス」 NHK出版 ISBN 978-4-14-039550-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction、前期のおさらい (日本が国際貿易で目指すもの)
- 2回 国際貿易における人、物、金の流れと課題
- 3回 日本の金融政策の現状と日本銀行の役割
- 4回 日中韓FTAと互惠関係
- 5回 TPP (環太平洋経済連携協定) 交渉の進展
- 6回 TPPの基本合意と問題点
- 7回 日米中韓の二国間FTA交渉
- 8回 その他の国や地域とのFTA/EPAの進展
- 9回 国際自由貿易協定の九州経済に対する影響
- 10回 国際貿易と外交政策
- 11回 東北アジアの発展とロジスティックス
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易 (特に対中東・米国・中国・ロシア)
- 13回 環境・水事業・交通システムの輸出
- 14回 その他、今後の国際貿易における輸出有望製品・サービス
- 15回 後期まとめ

各講義の前半に、前回の講義の質疑・討論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・ 40%
課題・・・ 20%
期末レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際貿易論II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず読み内容を咀嚼すること。
講義中にも、自分自身で考え、積極的に質疑・討論に参加すること。
マスメディアやインターネット等の国際貿易に関する報道や情報に常に興味を持ち、それらを検証し、考え、活用する力を身に付けるよう努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合商社三井物産株式会社の国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国、カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務、そしてその後の教育・国際貢献活動等を通して学んだ智恵を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際貿易での活躍の仕方について、当事者意識をもって学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性・違い、信用・信頼、互助共生、現場主義、発想の転換、経営理念、Critical Thinking

教育制度論 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 (1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則 (2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項 (1) 機会均等、学校教育における中立性等
- 4回 学校制度の基本的事項 (2) 義務教育
- 5回 学校制度の基本的事項 (3) 学校体系
- 6回 学校制度の基本的事項 (4) 就学
- 7回 教科書に関する制度 教科書、副教材
- 8回 教員制度の基本的事項 (1) 教員免許法制、公務員としての教師
- 9回 教員制度の基本的事項 (2) 教員の指導力、研修
- 10回 教員制度の基本的事項 (3) 教員の待遇、福利厚生
- 11回 学校関係者による支援の制度 地域住民の学校への参画
- 12回 教育行財政の仕組み (1) 中央教育行政、地方教育行政
- 13回 教育行財政の仕組み (2) 教育委員会と学校
- 14回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジユメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 学校における教育課程編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) 人の国際移動と教育
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 市民性教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特になし。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
【必要な授業外学習について】
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（4）【全体主義と思考能力・前半】
- 10回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力・後半】
- 11回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 12回 古代世界の公共空間（1）【ホメロス】
- 13回 古代世界の公共空間（2）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（3）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（4）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。
e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2015年度実績 オノマトペ (大阪大学准教授 秋田 喜美氏)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
- 集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
- 事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
- 事後学習：担当教員ごとのレポートの提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		
		共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観 3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立
- 6回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界 2【変身する身体】
- 8回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 3【シミュレーバー症例】
- 12回 身体・家族・社会 4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制 1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制 2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制 3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

(不定期に授業内容に関わる作業をもらい、期末テストの評価点に反映させる場合がある。そのため、休めば休むほど点数が減っていく可能性があるので注意してほしい。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

戦争論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1) 安全性と有効性
- 10回 キャンプ実習についての講義(2) 野外炊飯
- 11回 キャンプ実習についての講義(3) テント設営
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点のを見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者同士の議論を経て、より完成度の高いレポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

岡本亮輔 2015 『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書（780円＋税）

本年度は現代社会の宗教性をテーマにした文庫を取り上げます。宗教と観光に興味があると、一層興味深く読むことができます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか（編）2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会（編）2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの探し方
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業は必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

【授業外学習について】

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集など、妥協せずに課題に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。

レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジюмеを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
本年度は思想上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(レポート作成)...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本基礎演習に履修登録済みの2年生以上であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・内容については7月初頭に提示する予定)。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50 %
議論への参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)【コミュニケーションを実践する】
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)【ホスピタリティを実践する】
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(1)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(2)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(3)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(4)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(5)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグラウンドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
本年度は思想上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(レポート作成)...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による教養基礎演習Iの続きである。参加予定者には、1学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・内容については12月下旬に提示する予定)。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たリーダーシップスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 AI 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本演習に履修登録済みの2年生以上であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

AI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

言語問題と多文化との共生について考える：

本演習では、多文化の共生に興味がある学生を対象とします。本年度は言語的な少数派との共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします（受講者の人数によっては、関心に依りて変更する場合があります）。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べる事が求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心して下さい。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学び、自分で立てた問いに取り組むのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
(候補：松原好次ほか『言語と貧困』、杉野俊子ほか『言語と格差』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 本の読み方について（講義）
- 第3回 議論のしかたについて（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

教養演習 AI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業で受講者の関心を確認したうえで、読む文献を調整します。したがって履修を希望する場合は、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

【授業外学習について】

輪読の準備や、レポートの準備だけでも最低限の時間が必要です。関連する文献にも積極的に目を通し、妥協せず取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「現代社会と文化」「政治のなかの文化」（または「異文化理解の基礎」）を履修済み、または履修中の学生は、理解が深まると思います。受講してなくても、このようなテーマに興味がある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、言語問題

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 1学期 / 1学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。	
			教養演習 A I	GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

小林担当の「教養演習 A II」とセットで履修することを希望します。

この演習は1年生、3年生との合同演習です。

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIを履修済みであることが望ましい。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 演習 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得た企画力や実践力を、授業や実習で活用すること
スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。
なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに報告用レジューメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジューメや報告の改善に取り組むこと。毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習 A I」とセットで履修することを希望します。
A Iを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AIIの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジユメを準備すること。
「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class Format クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回～第 14 回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 A II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：教養演習 A I 復習。
- 第 3 回：教養演習 A I 復習。
- 第 4 回：視聴およびディスカッション。
- 第 5 回：視聴およびディスカッション。
- 第 6 回：視聴およびディスカッション。
- 第 7 回：視聴およびディスカッション。
- 第 8 回：視聴およびディスカッション。
- 第 9 回：視聴およびディスカッション。
- 第 10 回：視聴およびディスカッション。
- 第 11 回：視聴およびディスカッション。
- 第 12 回：視聴およびディスカッション。
- 第 13 回：視聴およびディスカッション。
- 第 14 回：視聴およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AII履修済みの学生を優先する。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Years クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考へることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による 1 学期教養演習の続きである。参加予定者には、1 学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については12月下旬に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画（1）リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画（2）安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画（3）プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画（4）野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画（5）テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画（6）グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画（7）ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施（1）
- 13回 キャンプ実習の実施（2）
- 14回 キャンプ実習の実施（3）
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たリーダーシップスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

小林担当の「教養演習 AI・ AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。

AI・ AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。

この演習は1年生、2年生との合同演習です。

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

言語問題と多文化との共生について考える：

本演習では、多文化の共生に興味がある学生を対象とします。本年度は言語的少数派との共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします（受講者の人数によっては、関心に応じて変更する場合があります）。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学び、自分で立てた問いに取り組むのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：松原好次ほか『言語と貧困』、杉野俊子ほか『言語と格差』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 本の読み方について（講義）
- 第3回 議論のしかたについて（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業で受講者の関心を確認したうえで、読む文献を調整します。したがって履修を希望する場合は、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
 - ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- 【授業外学習について】
輪読の準備や、レポートの準備だけでも最低限の時間が必要です。関連する文献にも積極的に目を通し、妥協せず取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「現代社会と文化」「政治のなかの文化」（または「異文化理解の基礎」）を履修済み、または履修中の学生は、理解が深まると思います。受講してなくても、このようなテーマに興味がある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、言語問題

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI(防衛セミナー)【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教養演習科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講（1・2学期受講）が望ましい。

BI（1学期）では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館(NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
 議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本演習に履修登録済みの3年生・4年生であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム(1)
- 3回 コミュニケーションゲーム(2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画(2)安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画(3)プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画(1)野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画(2)安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画(3)プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務）... 80% レポート... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得た企画力や実践力を、授業や実習で活用すること
スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習Ⅱ(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description
ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks
コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
授業開始前までに報告用レジューメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジューメや報告の改善に取り組むこと。毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。
小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 B II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による 1 学期教養演習の続きである。参加予定者には、1 学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については12月下旬に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AI、AII、BI履修済みの学生を優先する。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BⅡ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 B II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①教育実習 1 を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然学のまなざし	ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。
授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、まず最初に現在の地球の構成としくみについて講義する。さらに、水の惑星地球の起源とその後の変遷史、特に地球生命の変遷史について、古い時代から順番に概説していく。授業の最後には、人類の起源と進化、人間圏の成立と地球環境問題等について概説し、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石） 【絶滅危惧】【多様性の保全】
- 6回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 9回 化石が語る魚類の進化（藪本） 【魚類化石】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義（下村） 【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（葦島） 【分類】【学名】
- 12回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 13回 タイトル未定 【進化のしくみ】
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

自然史へのいざない【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 学芸員による講義のうち、7回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業への参加（授業中の課題または小テスト含む）40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1回目の博物館見学は10月9日（日）、2回目は12月～1月に各自で自由見学。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。
- ・ 授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
- ・ 授業後は配布資料に沿って復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			くらしと化学
			CHM001F

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質（無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生物物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書 /Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講 -
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8%） / 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2 C3043

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著（丸善）¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
- 2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
- 3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
- 4) 3章補足 プリント (+14章一部) 界面とコロイド・ゲル (分子とマクロ物質の境界領域で)。
- 5) 5章 元素の80%は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足: 無機化合物、ガラス、コンクリート
- 6) 4章、12章: 酸・塩基、酸化・還元 - 電池
- 7) 4章、12章: 4章 炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章 電気ってなんだろう? - 発光と化学エネルギー -
- 8) 6章 有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
- 9) 11章 プラスチックってなんだろう? - 高分子の化学 -
- 10) 7章 生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
- 11) 9章、10章: 9章 私たちの食べているもの - 食品の化学 -
10章 毒と薬は同じもの? - 医薬品と毒物の化学 -
- 12) 8章 シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
- 13) 13章 原子力と電力の関係って? - 原子力と放射線の化学 -
- 14) 15章 環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な理解を確認する簡単レポート(演習、質問など) 20%、期末試験 80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、電池、化学反応

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられています。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、グループワーク等を通じて体験し、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。必要に応じてハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、グループ分け
2. 自己紹介、聴くスキル
3. 集団討議 (グループワーク)
4. 集団の心理
5. 伝えるスキル1「メンタルモデル・わかりやすい説明」
6. 伝えるスキル2「アサーション、S-BAR」
7. 集団討議 (グループワーク)
8. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成
10. レポート・ポスター作成
11. レポート・ポスター作成
12. ポスターツアー1
13. ポスターツアー2
14. ポスターツアー3
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】
※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作りに上げるものです。詳細は講義中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目です。
課題レポートおよびポスター作成のために、グループごとに時間外での調べ学習や打ち合わせなどの時間外学習が必須となります。

以下のルールに反した場合、平常点を減算とします。単純な欠席は平常点の減算対象となりません。

1. 私語，内職，意図的な睡眠 → 5点マイナス
2. グループワークやレポート作成に参加しない → 40点マイナス
3. グループミニレポートを提出しない場合，あるいは白紙であった場合 → グループ全員5点マイナス

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は、学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方/スケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	ENW001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学～環境ミュージアム等
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 10回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて (外部講師)
- 12回 小テスト (日高)
- 13回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 14回 環境問題に関するシンポジウム (外部講師)
- 15回 学生による環境問題への取り組み (421Lab・村江)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回の講義のうち、8回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
環境首都検定の成績 (30%)、小テスト (30%)、見学レポート (20%)、授業への参加・授業中の課題など (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境都市としての北九州 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ エコタウンは平日にしか見学できないため、9月30日(金)午後を実施する。自由参加だが事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
 - ・ 環境ミュージアム見学は11月27日(日)午後の予定。原則必須。
 - ・ 環境首都検定は北九州市が実施するもので12月11日(日)の予定。原則必須。
 - ・ 授業前、授業後に関連箇所を参考書にてチェックすること。
- * スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本の宗教事情を念頭におきながら、世界の代表的な諸宗教について講義する。毎回、前半はスライド（パワーポイント）で総覧し、後半はこれに対応するテキストを読みこむ形式ですすめる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回、テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。ただし、高校時代に用いた「世界史年表」と「世界史地図」はおおいに役立つので、手元においておきたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) はじめに 宗教の種類
- 2) 日本の神々
- 3) 世界の神々
- 4) 日本の宗教 神道
- 5) 中国の宗教 儒教と道教
- 6) インドの宗教 ヒンドゥー教
- 7) 仏教(1) 初期仏教から中国仏教まで
- 8) 仏教(2) 日本の仏教
- 9) ユダヤ教(1) 律法と預言
- 10) ユダヤ教(2) 流浪と迫害
- 11) キリスト教(1) イエスとパウロ
- 12) キリスト教(2) 宗教改革以後
- 13) イスラム(1) 預言者ムハンマド
- 14) イスラム(2) イスラムと近代
- 15) おわりに 現代社会と宗教

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- とくに予備知識は必要ないが、おしまいまでついてゆくには熱意が必要である。
なお次の点に注意のこと。
- 1) 講義前には、講義に集中するための心の準備をしっかりとすること。
 - 2) 講義後には、配付資料を熟読し、ポイントをつかむよう努めること。

私たちと宗教【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語はひかえる。

キーワード /Keywords

世界の宗教 行為とコトバ 人生観 死生観 宗教・法・国家

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		思想と現代	PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の拡がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想(1)【カフカ】
- 11回 文学の思想(2)【アウシュヴィッツ以後】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ヨナス】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めない。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのにはなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』 松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』 古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』 田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』 東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』 永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

言語とコミュニケーション【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員のレポートの提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルトゥガーズ「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司 劇的想像力について
4. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
5. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎 不在を追いかけて
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. ウォールター・デ・マリア わたしに電話をください
9. アネット・メッサジエ 聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 藤本由紀夫 環境と音とアート
12. 奈良美智 コドモの領分
13. 山口啓介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・50%
日常の授業への取り組み・・・10%
レポート・・・40%

芸術と人間【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業外学習

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。

そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・グローバル化と民主主義
- 第2回 「デモス」と「クラティア」について
- 第3回 二つの民主主義伝統について
- 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
- 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・民主主義論
- 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
- 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

社会学的思考 【昼】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進度の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢とミニテスト（またはレポート）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業に反映させることが望ましい。
私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1)授業開始前までに当日予定の章を予め読んでおくこと。
- (2)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (3)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科
 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのかを知り、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法と道徳について
- 第3回 生命の「自己決定」権？
- 第4回 行政活動と法治主義
- 第5回 犯罪とは何か
- 第6回 刑事裁判とはなんだろう？
- 第7回 性差別と暴力～セクシャル・ハラスメントとドメスティック・バイオレンス
- 第8回 家族とは何か
- 第9回 物とは何か
- 第10回 企業形態と法
- 第11回 民事訴訟とは何か
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう
- 第13回 雇用とは何か（雇用関係の成立，雇用関係の展開，雇用関係の終了）
- 第14回 国際社会と日本
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる（100%，④に注意）。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを1つ選び，レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がいつそう深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義に臨む際は、事前にレジюмеや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。
六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'16』信山社(1,000円)をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解読、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各单元ごとに課題を出すので提出すること。自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論
			RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてなくてはならない存在となっています。私たちの生活も、企業なしに考えることは困難です。顧客（消費者）として、企業で働く従業員として、地域住民として、投資家として、私たちは深く企業と関わって生きています。ですから、現代社会を生きる私たちにとって、「企業とは何か」あるいは「社会と企業とはどのようにつながっていくのか」と問いかけることは、大変重要な意味をもっていると言えます。

(1) 授業内容の概要

本授業では、企業について関心をもつことができるように、企業をさまざまな視点からとらえて、基本的な知識を身につけながら、社会と企業とについて考えていきたいと思います。

(2) 以下の6つの視点から企業をとらえることによって、社会と企業について考えていきます。

- ①財・サービスの提供機関としての企業、 ②「株式会社」としての企業、 ③「大企業」としての企業、
- ④「組織」としての企業、 ⑤「家」としての企業、 ⑥「社会的器官」としての企業

(3) 以下の内容を到達目標としています。

- ・ 企業についての基本的な知識を習得することができる。
- ・ 新聞やテレビ等の社会と企業に関する記事やニュースに、興味や関心をもてるようになる。
- ・ 現代社会および自分の進路についても、考えていくきっかけをもてるようになる。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ 2014年 ¥2,000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『ひとりで学べる経営学』文真堂 2009年 ¥1,900 ○
- ・ 三戸公『会社ってなんだ - 日本人が一生すごす「家」』文真堂 1991年 ○

企業と社会【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 現代社会と企業、現代企業をみる視点について
- 2回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(1) 経済的発展と生活の変化、大企業の実態について
- 3回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(2) 企業の戦略について
- 4回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(3) 企業の広告活動と国際化について
- 5回目 「株式会社」としての企業 企業形態の種類、株式会社の機能と構造について
- 6回目 「大企業」としての企業(1) 大企業の出現と支配構造について
- 7回目 「大企業」としての企業(2) 大企業の性格と機能について
(バーリ、チャンドラー、ドラッカーの大企業論を中心として)
- 8回目 「大企業」としての企業(3) 大企業のコーポレート・ガバナンスについて
(日本とアメリカにおける背景と特徴)
- 9回目 「大企業」としての企業(4) 会社は誰のものかについて
- 10回目 現代企業の組織と管理(1) 現代企業組織の基本構造、企業組織の諸形態について
- 11回目 現代企業の組織と管理(2) 組織設計の原理、管理の展開について
- 12回目 家としての日本企業(1) 日本型人事システムの特徴について
- 13回目 家としての日本企業(2) 日本的経営のとらえ方について
- 14回目 「社会的器官」としての企業(1) 企業の社会的責任と社会的貢献について
- 15回目 「社会的器官」としての企業(2) これからの企業像について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、プリントやミッツペーパー等の提出物(30%)、日常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。(なお、3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象となりません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業の前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後には、次の授業までに、教科書、講義で扱ったプリントや参考資料を用いて、ノートを整理しておくこと。
- (2) 欠席・遅刻・途中退席はしないようにすること。(やむを得ない事情や体調がすぐれない場合を除く)
- (3) 授業の進行を妨げるような行為(私語、携帯電話の使用等)は慎むこと。
- (なお、教育効果の向上や授業環境の適正化のために、座席指定を行う場合があります。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが企業をどのように捉え、どのように成長させたいと考えているのか。それは、これからの社会を決定づけるほどの大きな意味をもっています。社会と企業について、企業の基本から真面目に学びたい人に受講してほしいと考えています。

キーワード /Keywords

企業形態 大企業 経営者支配 組織 管理 日本的経営 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別と区別】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における差別の問題（4）【ナチズム】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【食糧問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

【事前・事後学習の内容】参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
現代社会と新聞ジャーナリズム			
SOC001F			

授業の概要 /Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやSNSが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う (社会部記者)
- 【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材 (社会部デスク)
- 【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 【第6回】デジタル時代の新聞 / 電子メディアへの挑戦 (メディアラボ部員)
- 【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える (報道センター記者)
- 【第14回】働く現場とは / (生活特報部デスク)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」(メディアを読み解く力)ならびに現代社会を解読する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回	韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回	セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか？ 危機管理とガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第8回	韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回	健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか？		担当：ソンミンホ・三宅
第10回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第12回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回	北九州市のフードバンク運動や食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回	まとめ～ガバナンスに関するグループワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
 定義が困難な理由について
 - ①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
 - ②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
 - ③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
 テロリズムの定義
 - ①911の特殊性と国土安全保障の考え方
 - ②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
 - ③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
 テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
 テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
 テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
 ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
 国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
 反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
 補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
 無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
 劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
 「大量」殺戮テロの始まり
 化学テロと生物テロ
 化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
 地下鉄サリン事件の概要
 サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
 地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
 911の特異性
 911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
 ビンラディンのプロファイル
 アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがち些細な事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』(NTT出版)
- 小熊英二『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫)
- ルース・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
- 網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
- 門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
- 鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 前近代東アジアの伝統世界
- 3回 日本の近代と国民国家の問題点
- 4回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 5回 新渡戸稲造の『武士道』
- 6回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 7回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 8回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 9回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 10回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 11回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 12回 「国語」とは何か
- 13回 網野善彦と日本史の多様性
- 14回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め教科書の該当箇所に目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。
事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
		戦後の日本経済	ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえた本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 生活意識と経済生活
- 第3回 将来像の「理想」と「現実」
- 第4回 「男は仕事、女は家事・育児」の大衆化
- 第5回 文化の担い手としての「団塊の世代」
- 第6回 戦後の人口問題と「経済成長」
- 第7回 「高度経済成長」の目的
- 第8回 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第9回 「高度経済成長」と人口流動
- 第10回 「高度経済成長」と北九州経済
- 第11回 「豊かさ」の象徴
- 第12回 テレビを通じた“モデル”の輸入
- 第13回 「理想的」な家族像の形成
- 第14回 「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第15回 「幸せ」の「理想」とそのルーツ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

戦後の日本経済【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史 HIS003 F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーダイズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファーソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドール・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』(1869年)を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義(山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
○中村彰彦『保科正之』(中公新書)
『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国ー産業革命からサッチャー改革までー』(ミネルヴァ書房、2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)
- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】
- (山崎)
- 第8回 イギリスとはどんな国か
第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのかー雇われ外国人たちを中心に
第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か
第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明ー

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球と近世・近代のアジア
- 第7回 対馬から見た日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体と樺太
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。
授業開始前までに指示したキーワードについて調べておくこと。
また、授業終了後に理解できなかった語句を辞書などで確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 中国の歴史と日本 -秦漢帝国と「漢委奴国王」金印-
 - 3回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 4回 後漢前期(2) -明帝-
 - 5回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 6回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 7回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 8回 後漢分裂と「三世紀の危機」
 - 9回 『三国志』の虚実
 - 10回 魏の曹操
 - 11回 呉の孫権
 - 12回 蜀の劉備
 - 13回 三国鼎立と邪馬台国
 - 14回 魏晋革命と三国統一
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。
本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 轟谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成①【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成②【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成①【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成②【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開①【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開②【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海【近代世界システム】
 - 15回 まとめ【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 農業立地論
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 日本農村の構造的変化
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 中心地理論
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 都市システム
- 第10回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 工業立地論
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 空間分業
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 産業集積の理論
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 産業集積の実態

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地誌学	GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) フランス・イタリア地誌
- 第7回 欧米地誌(6) ベネルクス地誌
- 第8回 欧米地誌(7) アメリカ合衆国地誌
- 第9回 日本地誌(1) 日本の自然・人文環境
- 第10回 日本地誌(2) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(3) 干拓地域の変容、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(4) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(5) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(6) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(7) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 宮内 紀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

日本国憲法についての講義である。
1.憲法は何のために存在するのか
2.どのようなことが人権として保障されているのか
3.どのような統治の仕組みになっているのか
という3点を15回の講義を通じて解説する。

基本的には各回、
①憲法で約束されていることは何か
②どこまで保障されているのか
③現在、どのような問題がおこっているのか
という3点について講義をおこなう。

判例や新聞記事などを取り上げる。

レジュメ・資料を配布したうえで、指定教科書を用い、講義をおこなう。

教科書 /Textbooks

倉持孝司・小松浩編著『憲法のいま-日本・イギリス』(2015年、敬文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

日本国憲法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回憲法とはなにか(教科書第I部総論第1章)
- 第3回憲法の歴史(教科書第I部総論第3章)
- 第4回象徴天皇制と国民主権(教科書第III部統治第1章2,第2章)
- 第5回平和主義(教科書第III部統治第9章)
- 第6回人権論(1)総論(教科書第II部第1章)
- 第7回人権論(2)法の下での平等(教科書第II部第3章)
- 第8回人権論(3)思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由(教科書第II部第4章)
- 第9回人権論(4)表現の自由(教科書第II部第5章)
- 第10回人権論(5)経済的自由(教科書第II部第6章)
- 第11回人権論(6)社会権(教科書第II部第8章)
- 第12回統治の仕組み(1)三権分立・国会(教科書第III部統治第3章)
- 第13回統治の仕組み(2)内閣(教科書第III部統治第4章)
- 第14回統治の仕組み(3)裁判所(教科書第III部統治第5章)
- 第15回講義まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験100%
- ただし講義態度が悪い者は講義妨害をおこなったとして定期試験での獲得点数から減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 事前学習:シラバスに記載された教科書の指定ページを読んでおくこと。
- 講義中:講師の口頭での説明をたくさんメモすること。板書だけを書き写すだけでは十分ではない。
- 事後学習:①講義中のメモ、レジюме内容と教科書を読み返し、どのような内容であったのか思い出すこと。
②すべてをまとめた清書ノートを作ることを薦める。
- 講義中のルール:
 - ①本講義には公欠はない。
 - ②講義開始後30分以降の退出・入室は認めない。
 - ③ほかの学生の受講を妨害するような行動は減点対象とする。
 - ④講師は当日講義回のレジюмеしか持ってこない。休んだ分を後で渡すことはしない。
 - ⑤指示されなくともメモは取ること(繰り返しアナウンスはしない)
- ※そのほかルール説明は第1回講義でおこなう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 日本国憲法の講義は条文を覚えることが重要なものではありません。

日本国憲法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

何がどこまで保障されているのか、そして今どんな問題が起きていて、本来ならどうあるべきなのかといったことを「考える」ことが重要です。

難しく聞こえるかもしれませんが、憲法は国の基本法です。あなたがどんな風に暮らしていきたいかということを考えた先に、実は憲法があるのです。

決まったことを疑いもなく受け入れるのではなく、なんでだろう、これって本当にいいのかな、どうあるべきなのかということを考えるきっかけになればと思います。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

【事前・事後学習】

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルスII	PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。授業終了後には、提出課題への取り組み、学んだ内容に関する実践的復習などを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
 この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks
 授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 - 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
 - 4回 (講義)ストレッチの理論
 - 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
 - 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
 - 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
 - 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
 - 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 - 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 - 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
 - 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
 - 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
 - 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
 - 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
3. 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
4. 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
5. ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
6. 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
7. 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
8. 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
9. 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
10. 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
11. 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
12. 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
13. 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
14. 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
15. 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム (1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム (2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム (3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
 - 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
 - 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
 - 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
 - 6回 サービスの基礎練習
 - 7回 ボレーの基礎練習
 - 8回 スマッシュの基礎練習
 - 9回 ルールの説明
 - 10回 戦術の説明・実践
 - 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
 - 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 運動のできる服装とシューズを準備すること。
 授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
 - 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
 - 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
 - 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
 - 6回 サーブカット練習
 - 7回 アタック練習(1) <サイド>
 - 8回 アタック練習(2) <センター>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 チーム練習
 - 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
 - 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
 - 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
 - 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいの学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.クランボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス【1】【2】【3】【4】
- 2回 一皮むける経験【1】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【1】【2】【3】【4】
- 4回 傾聴【1】
- 5回 アサーション・トレーニング【1】
- 6回 アイデンティティ【1】【2】
- 7回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】【4】
- 8回 ダイアログとワールドカフェ【1】
- 9回 未来の仕事を創り出すゲーミフィケーション【1】【2】
- 10回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】【4】
- 11回 企業団体研究【1】【3】
- 12回 計画された偶発性【1】【2】【3】【4】
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 15回 本授業の統括【1】【2】【3】【4】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【事前学習・事後学習】
授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。	
			コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思っております。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会 (NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社 (JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社 (JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠工ネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習・事後学習】

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

※履修者が教室のキャパシティを超えた場合、履修者調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提をしています。したがって、サービスラーニングを受けて入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動してもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどに関する「事前レポート」（1500字程度）を課し、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。受講者に対しては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って講義に望むことを求めます。さらに本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2016年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II	CAR281F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2016年1月現在の対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
本学教員と外部講師とによるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 ジェンダーチェック 【ジェンダー・バイアス】
- 3回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 4回 トランスジェンダー 【性同一性障害】 【性別違和】
- 5回 性的自立とリアリティ・ヘルス / ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 6回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 7回 セクシュアル・ハラスメント【パワー・ハラスメント】 【アカデミック・ハラスメント】 【ホスピタル・ハラスメント】 【実習ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力とトラウマ 【PTSD】 【少年の性被害】 【強姦神話】
- 10回 トラウマの影響（「漂流少女」の事例を通して） 【二次被害】 【性依存】 【危機介入】
- 11回 性暴力裁判に見る二重基準（売春婦と主婦のケースから） 【フェミニスト・カウンセリング】
- 12回 メディアと性表現、性の商品化 【風俗営業法】 【児童買春・児童ポルノ禁止法】
- 13回 日本における公娼制度と売春の歴史 【からゆきさん】 【売春防止法】 【婦人保護施設】
- 14回 世界の売買春をめぐる動向 【セックスワーク】 【売春の合法化】 【性的自己決定】
- 15回 これまでの振り返り

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、課題60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、シラバスに記載するキーワードについて調べておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

本年度は、前半の講義を、主に会計学の視点からホスピタリティを検討する。最初の講義2、3回は「会計とは何か、会計にはどのような報告書があるか」などの説明を交えて、徐々に、会計・経営の視点から「ホスピタリティとは何か」を考える講義にする予定である。ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行していて、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった<関係性>を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の会計・経営・社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。前半の「ホスピタリティと会計」の講義を西澤健次が担当し、後半の「ホスピタリティと経営・実務等」については、外部講師の西澤律子が担当する。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティと会計・経営のつながりを考える。
2. ホスピタリティという言葉の多義性について考える。
3. 今後、企業経営において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. 会計学・経営学・ホスピタリティ論に関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. 会計とホスピタリティの関係について、問題意識を持つこと。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計(仮題)』国元書房
講義の際、レジユメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「財務会計講義」桜井久勝著(中央経済社)
- 「財務会計・入門」桜井久勝:須田一幸著(有斐閣)
- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」服部勝人著(丸善株式会社)
- 「ホスピタリティ原論」山本哲士著(文化科学高等研究院出版局)
- 「真実の瞬間」ヤン・カールソン著(ダイヤモンド社)

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【会計とホスピタリティ】【授業の進め方】【学習目標】
- 2回 会計とは何か 【貸借対照表】【損益計算書】【その他の企業情報】
- 3回 企業会計とホスピタリティ 【日本の経済状況の変遷】【会計公準】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティとおもてなし 【主語の論理】【述語の論理】
- 6回 企業不正と従業員満足度【ES】
- 7回 従業員満足度と従業員教育【顧客満足度】
- 8回 企業不正とホスピタリティと会計 【偽装問題】【トレーサビリティ】
- 9回 ホスピタリティと会計 【資本循環】【商品の会計】【資本の会計】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 20%

期末試験の成績 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、シバスを持参のこと。

この科目は本年度限りである。講義担当者が会計学の研究者であり、会計におけるホスピタリティを実験的に行うものであることを了解の上、履修して下さい。経営・会計とホスピタリティの関係を哲学的に理解することを目的としています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

「事前学習・事後学習」

事前に、教科書を読んでくること、事後に、授業を通して関心を持った事柄についてさらに勉強・研究すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅲ (まなびと講座 A) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力や知識を獲得することを目的とします。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いです。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。また、各大学からの受講生と一緒に学びます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1日目 ～多様な価値観を感じる～【自分】
 - 第2日目 ～地球は小さく偉い～【グローバル】
 - 第3日目 ～みんなが住みやすい社会～【ローカル】
 - 第4日目 ～「食べる」から自分を考える～【自分】
 - 第5日目 ～微力だけど無力ではない私たちが考える「素敵な未来に向けての第一歩」～【アクション】
- ※各日程ともに10:30～16:00(休憩含む)で開講されます

【2015年度実績】

- 第1日目 提供；北九州市立大学 テーマ；ESD理解
- 第2日目 提供；九州女子大学 テーマ；グローバルな視点で地球を学ぶ、1つしかない地球
- 第3日目 提供；九州栄養福祉大学 テーマ；ローカルな視点で社会を学ぶ、みんなが住みやすいまち
- 第4日目 提供；西南学院大学 テーマ；食から自分を考える、豊かに楽しく食べること
- 第5日目 提供；北九州まなびとESDステーション テーマ；微力だけど無力でない私たちが考える未来

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

教養特講III (まなびと講座A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションやフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 山田 寛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 国1 - 1 . 国1 - 2 . 再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1-3・国
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-4・再履

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
			情報表現
			INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。	
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。	
			情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

事前学習：指定された範囲の予習

事後学習：授業で扱った内容の復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文を通して、文法能力に加えてとくに読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

事前事後学習については授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教科書の予習を完了し、授業終了後は授業における学習内容の復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 末末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、文法能力に加えてとくに読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

未定。指定する場合には、大学生協の教科書リストに掲載する。
適宜プリントなどを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テストを含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語II (国 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
初回授業に必ず出席すること。

事前事後学習については授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 Chapter 14

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 55% 小テスト(3回)... 30% 日常の授業への取り組み... 15%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。
なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回UK, The Cost of Going Green
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語Ⅲ (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Fun Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Travel-Introductions
- 第 3 回 Travel-Building Skills
- 第 4 回 Travel-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Shopping-Introduction
- 第 7 回 Shopping-Building Skills
- 第 8 回 Shopping-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Movies-Introduction
- 第 11 回 Movies-Building Skills
- 第 12 回 Movies-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2～3ページを終わらせておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: English as an International Language I
- 第 3 回: English as an International Language II
- 第 4 回: Demographic Change I
- 第 5 回: Demographic Change II
- 第 6 回: Class Presentations I
- 第 7 回: Ethics in Sport I
- 第 8 回: Ethics in Sport II
- 第 9 回: Global Warming I
- 第 10 回: Global Warming II
- 第 11 回: Class Presentations II
- 第 12 回: Beauty and Self Image I
- 第 13 回: Beauty and Self Image II
- 第 14 回: Animals as Food I
- 第 15 回: Class Presentations III

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As instructed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy dicussing in English together

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語IV (国 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description
 We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.
 In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks
 None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 回Egypt, Sisters of the Revolution
 - 2 回Nigeria, the Legacy of Empire
 - 3 回Africa, End of the Elephant
 - 4 回Africa, The Curse of Gold
 - 5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
 - 6 回Libya, The Gaddafi Years
 - 7 回Kenya, School of Olympic Dreams
 - 8 回UK, Getting the Balance Right
 - 9 回Asia, The Spratly Islands
 - 1 0 回UK, The Parent Trap
 - 1 1 回Japan, Sayonara Baby
 - 1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
 - 1 3 回Australia's Hidden Valley
 - 1 4 回European Union, Joining the Club
 - 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語IV (国 1 - A) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語Ⅳ (国 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

First Class Service 2: :Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Orientation
Week 2: Answering the phone
Week 3: Where are you from?
W4: Saying sorry
W5: Suggesting alternatives
W6: Choosing options
W7: Directions
W8: Recommendations
W9: Ordering in restaurants
W10: Transportation
W11: Reading manuals
W12: Repeating information
W13: Apologizing
W14: Explaining rules
W15: Thanking customers/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance - 20%
Homework - 20%
Presentation - 2 X 15%
Final exam - 20%
Participation - 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語IV (国 1 - B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (国 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: English as an International Language III
- 第 2 回: English as an International Language IV
- 第 3 回: Demographic Change III
- 第 4 回: Demographic Change IV
- 第 5 回: Class Presentations IV
- 第 6 回: Ethics in Sport III
- 第 7 回: Ethics in Sport IV
- 第 8 回: Global Warming III
- 第 9 回: Global Warming IV
- 第 10 回: Class Presentations V
- 第 11 回: Beauty and Self Image III
- 第 12 回: Beauty and Self Image IV
- 第 13 回: Animals as Food II
- 第 14 回: Animals as Food III
- 第 15 回: Class Presentations VI

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Critical thinking

英語V (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力を伸ばすことをテーマとする。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ (1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに教科書の予習を完了し、授業終了後は授業における学習内容の復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (国2-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 国2 - B / 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語V (国 2 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (3rd Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

英語V (国 2 - C) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡邊 嘉則 / WATANABE YOSHINORI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEIC受験を前提にした、英語リスニングとリーディングの能力をさらに伸ばすことをテーマとする。時事英語を教材として、語彙力を伸ばし、迅速な内容把握ができるよう努める。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 課題・小テスト ... 30% 期末試験 ... 40%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週、指示する予習・復習をして、授業に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 (3rd Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取組み ... 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

英語VI (国 2 - B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 国 2 - C / 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VI (国 2 - C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: English as an International Language I
- 第 3 回: English as an International Language II
- 第 4 回: Demographic Change I
- 第 5 回: Demographic Change II
- 第 6 回: Class Presentations I
- 第 7 回: Ethics in Sport I
- 第 8 回: Ethics in Sport II
- 第 9 回: Global Warming I
- 第 10 回: Global Warming II
- 第 11 回: Class Presentations II
- 第 12 回: Beauty and Self Image I
- 第 13 回: Beauty and Self Image II
- 第 14 回: Animals as Food I
- 第 15 回: Class Presentations III

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Laos, the Amazon of Asia
- 3 回China's Dirty Secrets
- 4 回China, Beyond the Lost Horizon
- 5 回UK, The Cost of Going Green
- 6 回Philippines, Living with Slums
- 7 回Indonesia, Rainforest Warriors
- 8 回Indonesia, Paper Tiger
- 9 回Thailand, Red and Yellow
- 1 0 回UK, The Generation Game
- 1 1 回UK, Snatched Kids
- 1 2 回UK, The Great British Wedding
- 1 3 回UK, Tax the Fat
- 1 4 回USA, City of the Century
- 1 5 回Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語VII (国 2 - B) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語VII (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2～3ページを終わらせておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語VIII (国 2 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

Communication and Critical Thinking

教科書 /Textbooks

In Focus 2 (Cambridge University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: English as an International Language III
- 第 2 回: English as an International Language IV
- 第 3 回: Demographic Change III
- 第 4 回: Demographic Change IV
- 第 5 回: Class Presentations IV
- 第 6 回: Ethics in Sport III
- 第 7 回: Ethics in Sport IV
- 第 8 回: Global Warming III
- 第 9 回: Global Warming IV
- 第 10 回: Class Presentations V
- 第 11 回: Beauty and Self Image III
- 第 12 回: Beauty and Self Image IV
- 第 13 回: Animals as Food II
- 第 14 回: Animals as Food III
- 第 15 回: Class Presentations VI

成績評価の方法 /Assessment Method

Class projects and homework assignments

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (国 2 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

We will study political, social and environmental issues from around the world. The content comes from documentary videos shown on British and Australian TV.

In addition to enhancing their understanding of these issues, students will also improve their ability to read newspapers and listen to news in English.

教科書 /Textbooks

None. The instructor will design and distribute all materials.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Egypt, Sisters of the Revolution
- 2 回Nigeria, the Legacy of Empire
- 3 回Africa, End of the Elephant
- 4 回Africa, The Curse of Gold
- 5 回Zimbabwe, Blood Diamonds
- 6 回Libya, The Gaddafi Years
- 7 回Kenya, School of Olympic Dreams
- 8 回UK, Getting the Balance Right
- 9 回Asia, The Spratly Islands
- 1 0 回UK, The Parent Trap
- 1 1 回Japan, Sayonara Baby
- 1 2 回New Zealand, Adrenalin Nation
- 1 3 回Australia's Hidden Valley
- 1 4 回European Union, Joining the Club
- 1 5 回Student Presentations.

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Reading and listening to news.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Politics; development; environment; international relations; social studies.

英語VIII (国 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor マイケル・バーグ / michael berg / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks
First Class Service 2: Student Text with Audio CD, ISBN 9789814319947

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Orientation
- Week 2: Answering the phone
- Week 3: Where are you from?
- W4: Saying sorry
- W5: Suggesting alternatives
- W6: Choosing options
- W7: Directions
- W8: Recommendations
- W9: Ordering in restaurants
- W10: Transportation
- W11: Reading manuals
- W12: Repeating information
- W13: Apologizing
- W14: Explaining rules
- W15: Thanking customers/final review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Attendance - 20%
- Homework - 20%
- Presentation - 2 X 15%
- Final exam - 20%
- Participation - 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅸ (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

時事的な英文記事や学術的な英文などを用いて、言語運用能力に磨きをかけることを目的とする。あわせて、関連する文化的事象についての理解を深めていくことも目的とする。

教科書 /Textbooks

配布プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【授業参加者の意見などを踏まえて変更される場合があります。】

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Pre-test
- 3回 時事英語①
- 4回 アカデミックリーディング①
- 5回 グループワーク①
- 6回 グループワーク②
- 7回 時事英語②
- 8回 アカデミックリーディング②
- 9回 グループワーク③
- 10回 グループワーク④
- 11回 時事英語③
- 12回 アカデミックリーディング③
- 13回 グループワーク⑤
- 14回 グループワーク⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験あるいは期末課題...30%、平常の学習状況...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容などについて話しあいますので、初回授業に必ず出席すること。

事前事後学習については授業内で説明するか北方Moodle上に情報を掲載するので、各自でその指示に従うこと。

英語IX (英中国 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

言語に関するエッセイを読みながら、英語の読解力の向上だけでなく、言語そのものに対する理解を深めることを目標とする。毎回、一人ないし、二人の担当者が教科書の内容をレポートしながら授業を進めていく。他の受講者は、十分に予習をし、積極的にディスカッションに参加することが、求められる。また、授業で扱ったテーマに関して、受講生にプレゼンテーションをしてもらう予定である。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに掲載する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 4
- 7回 Chapter 5
- 8回 Chapter 5
- 9回 Chapter 6
- 10回 Chapter 6
- 11回 Chapter 7
- 12回 Chapter 7
- 13回 Chapter 8
- 14回 Chapter 8
- 15回 プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート...50% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：指定された範囲の予習
事後学習：授業で扱った内容の復習

英語X (英中国 3 年) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国 3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
 Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第 10 回 Humanity-Introduction
- 第 11 回 Humanity-Building Skills
- 第 12 回 Humanity-Essay Composition
- 第 13 回 Presentation
- 第 14 回 Composition
- 第 15 回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに2~3ページを終わらせておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語XII (英中国 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

New Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Composition
- 第15回 Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。Project Bookは宿題です。講義終了後、次回講義までに 2～3 ページを終わらせておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国1 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国1 - C
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国 1 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 戦兵 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 葉 言材 / ye yancai / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 遊走中国』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国2 - A
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 張 岩紅 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2 - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 張 岩紅 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国2 - B
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英国済営比人3年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1学期
- 第1回 単語練習、聴解練習
 - 第2回 会話、作文練習
 - 第3回 場面の体験
 - 第4回 単語練習、聴解練習
 - 第5回 会話、作文練習
 - 第6回 場面の体験
 - 第7回 単語練習、聴解練習
 - 第8回 会話、作文練習
 - 第9回 場面の体験
 - 第10回 単語練習、聴解練習
 - 第11回 会話、作文練習
 - 第12回 場面の体験
 - 第13回 単語練習、聴解練習
 - 第14回 会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 単語、聴解練習
 - 第2回 会話、作文練習
 - 第3回 場面の体験
 - 第4回 単語、聴解練習
 - 第5回 会話、作文練習
 - 第6回 場面の体験
 - 第7回 単語、聴解練習
 - 第8回 会話、作文練習
 - 第9回 場面の体験
 - 第10回 単語、聴解練習
 - 第11回 会話、作文練習
 - 第12回 場面の体験
 - 第13回 単語、聴解練習
 - 第14回 会話、作文練習
 - 第15回 場面の体験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表30% 定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習する必要がある。
できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英国済営比人 3年 /British Business and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』[改定版]王占華・劉慶 駿河台出版社、補充プリント

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『中国語学概論』(改訂版)王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について これまで習った内容の復習
- 2回 面接、【動詞と時量】
- 3回 電話を掛ける【呼び方】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 ホームページのアドレスと電子メール【開始+動詞】
- 6回 約束【全面否定・肯定】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 空港への出迎え【願望】
- 9回 食事に招待する【比況表現】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 町を見物する【軽量表現】
- 12回 空港見送り【仮定表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 ホテルの予約【起点・終点】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心とする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎を習得した学生を対象に、やや複雑な文章や長文の読解、作文を教授学習する。なお、「聴く」、「話す」、「読む」、「書く」四つの能力を総合的にバランスよく基本的な表現方式を実習し、一場面ずつ簡単なビジネス中国語を身に付け、将来の就職に役に立つように気を配る。それと同時に、日本で同じ場面で中国（台湾・香港などを含む）の観光客を接客する際における活用方法も勉強する。また、中国語検定試験・中国語HSK試験などの能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『就職に役立つ中国語』 [改定版] 王占華・劉慶 駿河台出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『中国語学概論』 (改訂版) 王占華 他 駿河台出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の目標と進め方について、1学期習った内容の復習
- 2回 税関で【結果補語1】
- 3回 タクシーに乗る【距離表現】
- 4回 復習、中間小テスト
- 5回 チェックイン【受身主語文】
- 6回 道をたずねる【連鎖表現】
- 7回 復習、中間小テスト
- 8回 両替【等分表現】
- 9回 レストランで食事する【結果補語2】
- 10回 復習、中間小テスト
- 11回 サンプルを送る【比較表現】
- 12回 列車の乗車券を買う【強調表現】
- 13回 復習、中間小テスト
- 14回 おみやげを買う【疑問詞の非疑問用法】
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の小練習...50% 期末試験...50%。(就職活動・教育実習による欠席分について相談可。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書が実用的な内容で、それほど難しくないが、この授業を通じ、社会人として基礎的な中国語の運用能力を身に付けてもらいたい。従って、積極的な予習と「聴く」「話す」を中心にする反復練習を望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「外国語は用いる時になってはじめてその重要さを感じるものだ。」実力としての中国語運用能力を身につけておこう。
「外国語は単なる知識ではなく、能力である。」車の免許をとるために、いくら理論的な条文を暗記しても、路上練習をしなければ運転できない。「一回の実践は百回の丸暗記に勝る」。

キーワード /Keywords

中国語の実用会話 中国語基礎コミュニケーション能力 中国語資格試験 中国事情 中国文化

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典（必携）
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

初級段階で必要な文法や基本文型、語彙を学習し、同等レベルの作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第13課 どこで習っていますか？【かしまった丁寧形①】
- 4回 第14課 暑くありませんか？【かしまった丁寧形の否定表現】
- 5回 フリーターキング
- 6回 数詞のまとめ
- 7回 第15課 誕生日はいつですか？【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 8回 第16課 どこに住んでいますか？【指定詞以外の打ち解けた丁寧形】
- 9回 復習とフリーターキング
- 10回 第17課 先生いらっしゃいますか？【特殊な尊敬語】
- 11回 第18課 何をお探しですか？【打ち解けた丁寧形の尊敬表現】
- 12回 第19課 何をしましたか？【過去形】
- 13回 復習とフリーターキング
- 14回 何を召し上がりますか？【好みを言ってみよう】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 国1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『暮らしの単語集 韓国語』 野間秀樹（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 【基本母音】
2. 【基本子音】
3. 【激音と濃音】
4. 【合成母音字】
5. 【終声①】 【終声②】
6. 発音のルール【連音化】 【濃音化】
7. 発音のルール【激音化】 【鼻音化】
8. その他の発音法則
9. 【指定詞の丁寧形】
10. 【指定詞の丁寧形・疑問と否定】
11. 自己・物を紹介する時の表現（～といいます）
12. 【存在詞のうちけた丁寧形】 【場所を表す単語および助詞】
13. 【存在詞のうちけた丁寧形・疑問】 【時を表す単語および助詞】
14. 【存在詞のうちけた丁寧形・否定】 【位置を表す単語および助詞】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・20%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・30%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 国 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

日常生活程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『暮らしの単語集 韓国語』 野間秀樹（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 前期のまとめ
2. 【指示代名詞】【疑問代名詞】
3. 【指定詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
4. 【動詞のうちとけた丁寧形】【数詞①】
5. 【数詞②】
6. 【一週間の予定】
7. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・疑問と否定】
8. 【目的表現】
9. 【動詞・形容詞の変則活用】【尊敬表現】
10. 【動詞と形容詞のうちとけた丁寧形・過去】
11. 【願望表現】
12. 【接続表現】【確認表現】
13. 【意思表現】【推測表現】
14. 【進行や状態の継続表現】
15. 【並列表現】【比較表現】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・20%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・30%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 国2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	● 朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ
		KRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 用言活用の基本について
- 3回 第1課 食べ方がけっこう違いますね。【動詞の現在連体形】
- 4回 第2課 韓国へ行ったことがありますか？【動詞の過去連体形】【経験を述べる】
- 5回 第3課 卒業したら何をしますつもりですか？【動詞の未来連体形】【予定を述べる】
- 6回 復習とフリートーキング
- 7回 第4課 背の高い男は誰ですか？【形容詞の現在連体形】
- 8回 第5課 お忙しいところすみません。【～のですが、～のに】
- 9回 第6科 熱いから気をつけてください。【H不規則活用】【理由】
- 10回 第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。【C不規則活用】【義務】
- 11回 復習とフリートーキング
- 12回 第8課 風邪はすっかり治ったんですか？【A不規則活用】【理由②】
- 13回 第9課 A型とO型はどう違いますか？【E不規則活用】
- 14回 第10課 赤い色はありませんか？【O不規則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『楽しくできる韓国語初級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 前期の復習
- 3回 第11課 私もメール送ります。【話者の意思・約束】
- 4回 第12課 あそこは何と書いてありますか？【完了状態の継続】【禁止】
- 5回 第13課 雨が降りそうですね。【過去・現在・未来の推量】
- 6回 復習とフリートーキング
- 7回 第14課 新年の挨拶をした後、お墓参りに行きます。【～する前に、～した後に】
- 8回 第15課 辛くして食べるほうです。【傾向を述べる】
- 9回 第16課 日本にいらしてからどれくらいになりましたか？【時間の経過】
- 10回 復習とフリートーキング
- 11回 第17課 こうすれば探しやすいです。【-기 名詞化】
- 12回 第18課 運転お上手でしょうね。【推測・予測、～するとき】
- 13回 第19課 私がお持ちしましょうか？【～てあげる・～てくれる】
- 14回 第20課 何を召し上がりますか？【意思・話者の願望】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事などを報告してもらい、自然な日常会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 7回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 8回 魚は焼かないでください。【決まりを言う】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 14回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 国 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅷ	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

毎回、先週の出来事を報告してもらい、自然な会話に慣れるよう心懸ける。日常生活の様々な場面で使える実用的な会話を中心に暗記や発話の練習を反復し、またペアなどを組んで応答練習を多く行う。この際は、受講者自らの表現による会話なども演じさせ、実際に自分の言葉で表現できるよう訓練していく。学習事項にこだわらず、その時期の韓国の若者の流行語なども紹介し、朝鮮語の表現をより豊かにしたい。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『ちょこっとチャレンジ! 韓国語』、白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 ファンの集いへ行ってみたんすけど。【感想を言う】
- 3回 ファンの集いへ行ってみたんすけど。【感想を言う】
- 4回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 5回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 6回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 7回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 8回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 9回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 10回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 11回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 12回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 13回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 14回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (発表・課題・小テスト・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、先週のできことを報告してもらおう。
予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので、必ずノートを作ること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜澈 『ウリマル』、白帝社（2006年2月）、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己紹介【講読】
- 3回 自己紹介【作文】
- 4回 私の家【講読】
- 6回 私の家【作文】
- 7回 私の学校【講読】
- 8回 私の学校【作文】
- 9回 病院と薬局【講読】
- 10回 病院と薬局【作文】
- 11回 手紙【講読】
- 12回 手紙【作文】
- 13回 趣味【講読】
- 14回 趣味【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50%（作文・小テスト・課題・態度）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II KRN311F	

授業の概要 /Course Description

日常の身近なできごとをテーマにした様々な文章を読むことを通して、読解力を身につけることを目標とする。同時にテーマに沿った応用作文の練習を多く行い、文章力の養成を目指す。学習事項にこだわらず、慣用句や韓国独自の表現なども紹介し、韓国語による文章力をより高めていきたい。授業中の言葉は原則として朝鮮語を使う。

教科書 /Textbooks

曹喜淑 『ウリマル』、白帝社 (2006年2月)、2,600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 映画【講読】
- 3回 映画【作文】
- 4回 地下鉄【講読】
- 5回 地下鉄【作文】
- 6回 感想文【講読】
- 8回 感想文【作文】
- 9回 日記【講読】
- 10回 日記【作文】
- 11回 試験【講読】
- 12回 試験【作文】
- 13回 韓国と日本【講読】
- 14回 韓国と日本【作文】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻、私語、無断欠席などで注意さらた場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (作文・小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、訳を作成してもらうので必ず辞書を持参すること。
予習の課題が多いのでノートを作ること。
テキストに出る文型や語句を覚えること。
授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく文章を作りましょう！

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を基本としながら、適宜プリントを配布する予定。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自己紹介とウォーミングアップ
- 3回 第1課 紹介①
- 4回 第1課 紹介②
- 5回 第2課 旅行①
- 6回 第2課 旅行②
- 7回 第3課 予約①
- 8回 第3課 予約②
- 9回 第4課 案内①
- 10回 第4課 案内②
- 11回 第5課 ショッピング①
- 12回 第5課 ショッピング②
- 13回 第6課 交通①
- 14回 第6課 交通②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み... 40% 期末試験またはレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

『できる韓国語 中級II』（李志暎他、DEKIRU出版、2,500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）、『韓国語上級表現ノート』（前田、明石書店、1890円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第7課 キャンセル①
- 3回 第7課 キャンセル②
- 4回 第8課 新聞①
- 5回 第8課 新聞②
- 6回 第9課 伝達①
- 7回 第9課 伝達②
- 8回 第10課 食事①
- 9回 第10課 食事②
- 10回 第11課 電話①
- 11回 第11課 電話②
- 12回 第12課 文化①
- 13回 第12課 文化②
- 14回 第13課 美容室①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロシア語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前日或は当日に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること、授業終了後もその日に習ったことの復習をすること。2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備すること。
最初の2 - 3回の授業でアルファベットの文字や読みを学習するので、特にこの時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前日或は当日に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること、授業終了後その日に習ったことの復習をすること。2 - 3回毎に1回の割合で和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備すること。
この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 < ГИПНО'З > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業への参加度 ... 50 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロシア語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211 F

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 2回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 3回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 4回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 5回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 6回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 7回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 8回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 9回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 10回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 11回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 12回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 2回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 3回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 4回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 8回 第9課② 【買い物】、【値段】 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 10回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 11回 第10課①【モスクワの町】
- 12回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 13回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 14回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題 ... 30% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語 I	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょうか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ドイツ語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ドイツ語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って進み、1学期は第11課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 アルファベを発音する、発音と綴り字
- 2回 挨拶をする
- 3回 名前、国籍、職業を言う
- 4回 主語人称代名詞、動詞 *être* の直説法現在
- 5回 年齢を言う、家族を語る
- 6回 名詞の性と数、不定冠詞、動詞 *avoir* の直説法現在、否定文
- 7回 好きなものを言う、定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
- 8回 持ち物を言う、指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形
- 9回 友達について話す、形容詞
- 10回 尋ねる、疑問代名詞、疑問副詞
- 11回 近い未来、近い過去のことを語る、前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞 *y*
- 12回 時間、天候を言う、疑問形容詞、非人称構文
- 13回 数量を表わす、部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 *en*
- 14回 紹介する、補語人称代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)
事前学習: テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習: 毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って2学期は第12課から第21課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 一日を語る
- 2回 代名動詞
- 3回 頼む、命令する
- 4回 命令法、命令、義務を表わす表現
- 5回 未来のことを語る、直説法単純未来
- 6回 過去のことを語るI、直説法複合過去
- 7回 過去のことを語るII、直説法半過去と大過去
- 8回 人や物について語る、関係代名詞、指示代名詞
- 9回 比較する、比較級と最上級
- 10回 受け身の形を使う、現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 仮定する、条件法現在
- 12回 条件法過去
- 13回 感情を表現する
- 14回 接続法現在と過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%

期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

日常的な会話表現を通して基本文法を習得します。文法規則を学んだあと、簡単な文章を読むことによって知識を確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ボルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』（朝日出版、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』（駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 発音の仕方
- 2回目 綴り字の読み方
- 3回目 主語人称代名詞
- 4回目 国籍を表す形容詞
- 5回目 名詞と不定冠詞
- 6回目 名詞と形容詞
- 7回目 第1群規則動詞の活用
- 8回目 定冠詞 疑問文
- 9回目 指示形容詞
- 10回目 動詞 <avoir> の活用 否定文
- 11回目 動詞 <aller> の活用
- 12回目 疑問代名詞 不規則動詞
- 13回目 所有形容詞と疑問形容詞
- 14回目 人称代名詞強勢形
- 15回目 il y a の表現

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：30% 小テスト：20% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典（電子でも紙でもよい）必携のこと。
事前学習として、テキスト準拠HPを見て発音練習をしておくこと。また文法項目に目を通して、何を学ぶかを把握しておくこと。事後学習として、ノート整理をすること。復習の小テストをするので、準備をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、基本文法を会話表現を通して学び、簡単な文章をよむことによってそれらを確認します。

教科書 /Textbooks

『パリ・ポルドー フランスの世界遺産と食文化を巡る旅』（朝日出版 2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『でる順 仏検単語集』（駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 定冠詞の縮約
- 2回目 補語人称代名詞
- 3回目 代名動詞
- 4回目 中性代名詞 y
- 5回目 非人称構文
- 6回目 命令形 感嘆文
- 7回目 部分冠詞
- 8回目 中性代名詞 en
- 9回目 比較級
- 10回目 単純未来形
- 11回目 複合過去 1
- 12回目 複合過去 2
- 13回目 半過去
- 14回目 条件法現在
- 15回目 接続法現在

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：20% 小テスト：30% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞書（紙でも電子でもよい）必携

事前学習として、テキスト準拠HPをみて、発音練習をしておくこと。また文法項目に目を通して何を学ぶかを把握しておくこと。事後学習として、ノート整理をして復習小テストに備えること。またディアローグの発音テストをするので、練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ基本文法を基に、現代フランス語圏事情を読み解く練習をします。フランス語および、フランス語圏の生活や習慣により深い知識を持つこととなります。

教科書 /Textbooks

『デクリプタージュ』（白水社 1900円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 基本文型 フランスの新学期
- 2回目 関係代名詞
- 3回目 フレンチレストランで
- 4回目 直説法半過去
- 5回目 フランス人のイメージ
- 6回目 中性代名詞 フランスの海外県
- 7回目 義務の表現 フランスの小学生
- 8回目 現在分詞とジェロンディフ
- 9回目 フランスのTGV
- 10回目 理由を表す接続詞 フランスのパカンス
- 11回目 比較表現 メールの省略語
- 12回目 直接疑問、間接疑問 ヴェリブ制度
- 13回目 最上級 フランス語圏
- 14回目 代名動詞の4つの用法
- 15回目 条件法現在 フランス人とマンガ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：30% 小テスト：20% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、lectureの単語を調べ、発音練習をしておくこと、また文法項目に目を通しておくこと。事後学習として、lectureの仏文をノートに写して、和訳を整理すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

学んだフランス語基本知識を基に、テーマに沿った作文練習を通して表現力を養います。

教科書 /Textbooks

『ブリュム・ア・ラ・マン !』 (駿河台出版社 1800円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 自分と家族を紹介する
- 2回目 和文仏訳 街を紹介する
- 3回目 自分の生まれた町を紹介する
- 4回目 上記の文を添削する
- 5回目 日本の行事を紹介する
- 6回目 手紙を書く
- 7回目 手紙の添削
- 8回目 レシピを書く
- 9回目 主語の扱い
- 10回目 和文仏訳 日本の観光案内文を書く
- 11回目 お気に入りの場所の案内文を書く
- 12回目 上記の文を添削する
- 13回目 接続詞について
- 14回目 和文仏訳 お土産を勧める
- 15回目 和文仏訳 日本の習慣について助言する

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表：20% 宿題作文：30% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、各課の文法復習問題をしておくこと。また和文仏訳を予め解いておくこと。事後学習として、添削された各自の作文を基に作文を書きなおし、発音練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

フランス語Ⅶ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：教科書の文法のポイントを予習してくること。

事後学習：指定された単語、熟語表現を次回までに覚えてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけでなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代, Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活 : 家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活 : 家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活 : 週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活 : 週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：教科書の文法のポイントを予習してくる。

事後学習：指定された単語、熟語表現を次回までに覚えてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（2011年、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

口ボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』(ピアソンエデュケーション)
『スペイン語とつきあう本』(寿里、東洋書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。受講人数にもよりますが、ペアで、あるいは3 - 4人のグループで会話練習を適宜行います。また、テキスト各課の最後にある発展的課題を行うことで、実生活で応用がきく会話方法を学んでいきます。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。

教科書 /Textbooks

ピラル・ラゴ、コンチャ・モレノ、落合佐枝、大森洋子 著 『発見!大好き!!スペイン語!!! 1 Nos gusta! 1』朝日出版社 2016

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語の発音、「お名前は？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、1 - 20までの数字、挨拶、「おはよう。」
- 3回 1課 名詞の性と数、定冠詞・不定冠詞、「いつもの新聞をください。」
- 4回 2課 主語とser動詞、名前・国籍・職業を言う、「私はセシリアです。」
- 5回 形容詞、「その女の子は背が高いです。」
- 6回 人物の説明、「テレサはペルー人で、陽気な人です。学生です。」
- 7回 3課 規則活用 -ar 動詞、前置詞、「私は病院で働いています。」
- 8回 規則活用 -er / -ir 動詞、「どこに住んでいますか？」
- 9回 曜日、1週間の予定、頻度表現、「アナは歌がうまい」
- 10回 4課 動詞hayとestar、「トイレはどこですか？」
- 11回 指示詞、場所を表す表現、自分の街を紹介する、「サラマンカには大学があります。」
- 12回 5課 動詞tenerとその表現、所有詞(前置形)、「兄弟は何人いますか？」
- 13回 状態を表す表現、estarとtener、数字20 - 100、「今日は疲れている。眠いんだ。」
- 14回 家族の紹介、日にちの表現、「誕生日はいつ？」
- 15回 前期まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、小テスト 10%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法事項を学びながら会話に有効な語彙や言い回しも覚えましょう。受講人数にもよりますがペアで、あるいは3 - 4人のグループで会話練習を適宜行います。また、テキスト各課の最後にある発展的課題を行うことで、実生活で応用が利くコミュニケーション表現も学びます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
ピラル・ラゴ、コンチャ・モレノ、落合佐枝、大森洋子 著 『発見!大好き!!スペイン語!!! 1 Nos gusta! 1』朝日出版社 2016

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 6課 不規則活用動詞1、「今度の日曜は何するの?」
- 2回 時間表現、「何時にその映画が始まるの?」
- 3回 大学祭のプログラムを作ろう、7課 動詞gustar、「三つ子は猫が好き」
- 4回 不規則活用動詞2、quererの表現、「映画に行かない?」
- 5回 好みに関するアンケート、8課 再帰動詞、「何時に起きるの?」
- 6回 再帰動詞(続き)、一日のスケジュール、「もう帰るよ。じゃあね!」
- 7回 生活習慣、9課 直接目的格人称代名詞、「お手伝いしましょうか?」
- 8回 数字100~、買い物表現、「その洋服合う?」
- 9回 9課までの復習、10課 間接目的格人称代名詞、「その本を貸してくれる?」
- 10回 依頼表現、申し出の表現、「窓を開けましょうか?」
- 11回 11課 不定詞を伴う表現、conocerとsaber、天候表現、「週末はどこに行く予定?」
- 12回 比較表現、旅行の予定、「Juanは私より背が高い」
- 13回 12課 過去の時制について
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 後期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、小テスト 10%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書などを使い新出単語を調べてくること。また授業前には動詞の活用、既出単語などを覚えてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

プリント配布！

1年次のテキストが各クラスで異なるため、それまでの到達度に配慮したプリントを作成して配布します。(テキスト不要)ただし、ページが多いことやカラー部分があるので、北九大ポータル文書管理からダウンロードして各自プリントアウトして下さい。詳しい方法は最初の授業で指示しますが、ポータル→文書管理→学習支援→非常勤→青木文夫のところスペイン語Ⅴとしてのファイルをしています。ファイルはipadやノートパソコンにダウンロードして授業に持参しても構いません。ただし、スマホでの利用は禁止します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)

スペイン(増田監修：新潮社)

スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 4 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 5 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 6 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 7 進行形と複文・重文
- 8 進行形と複文・重文
- 9 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 10 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 11 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 12 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 13 視聴覚教材を使って
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

プリント配布！
1年次のテキストが各クラスで異なるため、スペイン語Vで配布したプリントの続きとして、それまでの到達度に配慮したプリントを作成して配布します。(テキスト不要)ただし、頁数が多いことやカラー部分があるので、北九大ポータル文書管理からダウンロードして各自プリントアウトして下さい。詳しい方法は最初の授業で指示しますが、ポータル→文書管理→学習支援→非常勤→青木文夫のところからスペイン語VIとしてのファイルを置いています。ファイルはipadやノートパソコンにダウンロードして授業に持参しても構いません。ただし、スマホでの利用は禁止します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典:
和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
スペイン(増田監修:新潮社)
スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)
スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 接続法現在の活用と命令形
- 2 接続法現在の活用と命令形
- 3 命令形の練習
- 4 命令形の練習
- 5 比較表現、感嘆表現
- 6 受け身文、無人称文
- 7 接続法の活用全般について
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法
- 10 接続法の用法
- 11 スペイン語版トトロを理解する
- 12 スペイン語版トトロを理解する
- 13 スペイン語版トトロを理解する
- 14 スペイン語版トトロを理解する
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律 政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとDVDでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のビデオを理解する、授業内容について(前年度の教科書持参)
- 2回 スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習、自己紹介
- 3回 人についての表現
- 4回 一日の出来事
- 5回 日常の紹介(1)
- 6回 日常の紹介(2)
- 7回 買い物(1)
- 8回 買い物(2)
- 9回 自由な時間の過ごし方
- 10回 歌詞を理解する
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ、前期に使用した表現

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。
事前学習として、与えられた文章を辞書を使い訳してくる・インターネットで見られる映像を予習してくる。
事後学習としては、授業内で配布するスクリプトを使用し、映像の会話を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとDVDでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！
- 3回 今日のメニュー-EI menu del dia
- 4回 何を食べる？
- 5回 何を作る？
- 6回 仕事の紹介
- 7回 この企業は？
- 8回 Misterio en Almagro
- 9回 都会と田舎
- 10回 過去の出来事、点過去と線過去
- 11回 小さかった時・・・
- 12回 その他の時制、法
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

事前学習として、与えられた文章を辞書を使い訳してくる・インターネットで見られる映像を予習してくる。

事後学習としては、授業内で配布するスクリプトを使用し、映像の会話を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 レポートの作成(2)修正する
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(3)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% テスト...30% 授業への取り組み(発表や課題を含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業は課題の予習を前提として進めます。わからない日本語については、予習の段階で解決しておき、授業内では、内容に関する学習を主にを行います。また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、日本で生活している様々な人々の「生の声」を収録したディスカッション用素材集を学習リソースとして出発点し、さらに、新聞、テレビ、インターネット、書籍等へと学習リソースを広げていく。

教科書 /Textbooks

永田由利子(2009)『VOICES FROM JAPAN-ありのままの日本を知る・語る』くろしお出版
※テキストは出発点です。必要に応じて、適宜資料収集を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩男寿美子・萩原滋(1987)『留学生が見た日本-10年目の魅力と批判』サイマル出版会
- 榎原暁(1996)『アジア人留学生の壁』NHKブックス
- 佐藤喜彦(2008)『【中国からの留学生】ニッポン見たまま感じたまま』河出書房新社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業オリエンテーション
2. テーマ1人生、働くことについて(1)
3. テーマ1人生、働くことについて(2)
4. テーマ2若者と社会(1)
5. テーマ2若者と社会(2)
6. テーマ3教育について(1)
7. テーマ3教育について(2)
8. プロジェクトワークI(1)
9. プロジェクトワークI(2)
10. プロジェクトワークI発表会
11. テーマ選択(「家族」「結婚」「地域」と、「言葉」「文化」)
12. プロジェクトワークII(1)
13. プロジェクトワークII(2)
14. プロジェクトワークII(3)
15. プロジェクトワークII発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% プロジェクトワーク20%×2回=40% 課題...30%

評価の方法としては、「自己評価」「ピア評価」「教員評価」の3点から総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。授業では予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本で暮らす人々 日本社会 現代社会の課題 リテラシー 批判的思考力 協同学習

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

英米文化概論I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(国関) 英米文化概論I	ARE130M
(比文) イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 英米文化への接近方法【英米文化】【コミュニケーション】
- 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
- 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
- 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
- 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
- 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
- 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
- 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
- 第10回 アイルランドは「ケルト」ではない(1)【アイルランド】【カソリック】
- 第11回 アイルランドは「ケルト」ではない(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
- 第12回 ホワイトハウスが白いのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
- 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
- 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【国制】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学概論Ⅰ【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文学（主にアメリカ）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力	
	其他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論Ⅰ

LIT130M

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学史を構成するものとして知られる作家や作品を取り上げながら、作品が生まれた歴史的社会的背景を学びながら鑑賞する。合わせて国家概念や文学史の形成過程についても考察を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『作品ガイド150 たのしく読めるアメリカ文学』 高田賢一、野田研一、笹田直人編（ミネルヴァ書房）
- 『新版 アメリカ文学史：コロナルからポストコロナルまで』 別府恵子、渡辺和子編（ミネルヴァ書房）
- 『21世紀から見るアメリカ文学史：アメリカニズムの変容』 早瀬博範、吉崎邦子編（英宝社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要、成績評価の方法、参考図書などの説明）
- 第2回 アメリカ文学史の全体像、植民地時代とネイティブ・アメリカンの文学
- 第3回 超越主義の時代(1)：象徴としての自然
- 第4回 超越主義の時代(2)：自然の中へ
- 第5回 ロマン主義の時代(1)：理性と身体の間
- 第6回 ロマン主義の時代(2)：ピューリタンの掟と情念
- 第7回 リアリズム文学の時代(1)：ミシシッピー川を下って何処かへ
- 第8回 リアリズム文学の時代(2)：相対化される「私」
- 第9回 自然主義文学の時代：進化論の悲劇
- 第10回 女性作家と文学史：自我の目覚め
- 第11回 《作品鑑賞》 ケイト・ショパン
- 第12回 モダニズムの時代(1)：パリのアメリカ人
- 第13回 モダニズムの時代(2)：再生の希求、故郷との和解
- 第14回 アメリカ演劇の世界：さまよえる孤独な魂
- 第15回 エスニシティと多文化主義

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、課題提出など）...80%
期末試験...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国作品を読む楽しみを味わうとともに、英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

英米文学概論II 【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文学（主にイギリス）と文化的多様性についての基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 自ら調査・研究を行って多角的に思考する姿勢を身に付ける。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文学概論II

LIT131M

授業の概要 /Course Description

代表的な作家や作品に着目することでイギリス文学史を概観し、作品が生まれた歴史的社会的背景に留意しながらイギリス文学の特質や普遍性について理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

『よくわかるイギリスの文学』 清宮倫子, 清宮協子 編著 (南雲堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『作品ガイド150 たのしく読めるイギリス文学』 中村邦生, 木下卓, 大神田丈二 編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・成績評価のしかたなどについての説明, イギリス文学史概観
- 第2回 古英語とアングロ・サクソンの英雄: 『ベオウルフ』
- 第3回 中英語と中世の人間模様: 『カンタベリー物語』
- 第4回 ルネサンスとイギリス演劇の勃興: ウィリアム・シェイクスピア
- 第5回 階級社会と結婚: サミュエル・リチャードソンとジェイン・オースティン
- 第6回 《作品鑑賞》『高慢と偏見』
- 第7回 ロマン派詩とヴィクトリア朝時代の詩: ウィリアム・ワーズワス, ロバート・ブラウニング他
- 第8回 ヴィクトリア朝時代の市井の人々: チャールズ・ディケンズ
- 第9回 女性作家のまなざし: プロンテ姉妹とジョージ・エリオット
- 第10回 進化論と自然主義: トマス・ハーディ
- 第11回 《作品鑑賞》『ダーバヴィル家のテス』
- 第12回 20世紀とモダニズムの詩人たち: W. B. イエイツとT. S. エリオット
- 第13回 原始的な生命力の再評価: D. H. ローレンス
- 第14回 モダニズム文学と意識の流れ: ヴァージニア・ウルフとジェイムズ・ジョイス
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト, 課題提出, 発表を含む) ... 80%
期末試験 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
原書からの抜粋を読むため、授業には英和辞典・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者はできるだけ多くの作品に触れて外国作品を読む楽しみを味わうとともに、英米文化についてより深い教養を身に付けることを目指してもらいたい。

キーワード /Keywords

経済学の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経済学の基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 経済学の基礎的な理解に必要な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済学の基礎

ECN100M

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学会、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 第2回 分業の利益
- 第3回 価格メカニズム
- 第4回 市場の効率性
- 第5回 市場の失敗
- 第6回 市場の限界
- 第7回 労働市場（またはミクロ経済学についての中間テスト）
- 第8回 GDPとは何か
- 第9回 何がGDPを決めるか
- 第10回 消費需要と投資需要
- 第11回 貨幣と金融
- 第12回 政府の役割
- 第13回 外国貿易と為替レート
- 第14回 経済成長と国民生活
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テストまたはレポート(2回) ... 70%、平常点および課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済記事に目を通しておくと、授業が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 財政 貿易

政治学 【昼】

担当者名 出水 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

日本国も含め、いわゆる「先進国」の圧倒的多数は、自由民主主義 (Liberal Democracy) に分類される政治体制です。この講義では、自由民主主義における政治について、みなさんが主体的に関われるようになるための、前提知識を身につけてもらいます。またグローバル化の影響の下、国境を前提とした政治の理解が、変わらざるをえない現状についても、説明を加え、これからの政治を考える視点を身につけてもらいます。講義は、一般的な講義形式で、パワーポイントスライドを利用しながらおこないます。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定しません。
ただ、レポートには課題図書が設定されます。きちんと入手できるよう、余裕をもって、お知らせします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の参考とした図書、参照すべき図書については、講義のなかで、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：私たちは、なぜ政治から逃れられないのか？
- 第2回 政治を考える前提としての私たちのあり方 (1) 【共同性】 【有限性】 【後発的近代化】
- 第3回 政治を考える前提としての私たちのあり方 (2) 【権力】
- 第4回 古代ギリシアの遺産：都市国家と政体論 【古典デモクラシー】 【政体論】 【有機体モデル】
- 第5回 古代ローマの遺産：帝国モデルの起源 【帝国】 【普遍世界】 【市民権】 【共和政】
- 第6回 「主権」と「個人」の登場 【主権】
- 第7回 自由主義の起源：市民革命と近代憲法 【古典的自由主義】 【機械論モデル】 【国民国家】
- 第8回 社会主義の挑戦 【社会主義】 【政党】
- 第9回 総力戦体制と自由民主主義の形成 【大衆政党】 【民主主義】
- 第10回 冷戦と自由民主主義 【福祉国家】 【利益過程】 【大衆政党】
- 第11回 新自由主義の挑戦 【新自由主義】
- 第12回 グローバル化の政治的意義 【グローバル化】 【ICTの影響】
- 第13回 グローバルジャスティスは可能か？ (1) 【ローカル化】 【グローバルジャスティス】 【主権国家のゆらぎ】
- 第14回 グローバルジャスティスは可能か？ (2) 【ローカル化】 【グローバルジャスティス】 【主権国家のゆらぎ】
- 第15回 まとめにかえて：「消費者」から「主権者」へ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義カード (30%)、最終試験 (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校程度の世界史の知識があることが望まれます。高校で世界史を履修しなかった人は、世界史を西洋中心であらかじめ自習しておいてください。
また、各回についても、その都度、予習として世界史の該当時期について知識を確認しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会【昼】

担当者名 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会の特性について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの社会

ARE225M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の人種的・民族的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観するとともに、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から顕著なものを取り上げ、各項目について具体的事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。

教科書 /Textbooks

明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ 多民族社会における統合の現実（第3版）』有斐閣選書、2011年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大下尚一ほか編『史料が語るアメリカ：メイフラワーから包括通商法まで』有斐閣、1989年。
その他多数。授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 多民族国家アメリカ—概観
- 第3回 同化の諸概念
- 第4回 新大陸で出会った三つの人種集団
- 第5回 アングロ・アメリカ社会の形成
- 第6回 国民的統合に向けて
- 第7回 2016年の最もカレントなトピックについて（小テストを兼ねる）
- 第8回 「新移民」の流入（1）—イタリア移民、ユダヤ人移民
- 第9回 「新移民」の流入（2）—中国と日本からの移民
- 第10回 自由の女神の涙
- 第11回 多民族国家アメリカ—続く移民の流れ
- 第12回 平等の達成（1）—移民法の改正、先住民
- 第13回 平等の達成（2）—アフリカ系アメリカ人、アジア系アメリカ人
- 第14回 真の平等を求めて—多様性と統合の調和
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 小テスト...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高等学校で世界史を履修していない受講生は、世界史の教科書を読んでおくことと良い。個人的な学習のための参考書等は授業中に指示する。開講時期に起こったニュース等に関連させた形で、適宜、その歴史的背景などの解説を行うので、上記スケジュールや順序は変更の可能性が有る。その場合は授業中に指示する。
また、毎回の授業の前に、教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究I【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの政治・社会などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究 I

ARE236M

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を、特に教育問題を中心とする内政面から検討する。戦後の大まかな動きを確認し、ブレア政権以降のイギリス社会がどのような状況にあるかを検討する。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN【イギリス】
- 第2回 戦後イギリス社会に関する概説【福祉国家】
- 第3回 ブレア政権成立の背景【労働党】【サッチャー主義】
- 第4回 「階級社会」(1)【土曜の夜と日曜の朝】
- 第5回 「階級社会」(2)【労働者階級】
- 第6回 「階級社会」(3)【怒れる若者たち】【英国病】
- 第7回 ブレアの改革構想【国有化】【ヴォランティアズム】
- 第8回 1997年以降のイギリス社会(1)【New Labour】【第三の道】
- 第9回 1997年以降のイギリス社会(2)【社会的公正】【グローバル化】
- 第10回 イギリスの社会政策(1)【市場経済】【雇用問題】
- 第11回 イギリスの社会政策(2)【包摂社会】【コミュニティ】
- 第12回 イギリスの教育政策(1)【1988年教育改革法】【Bridging the Gap】
- 第13回 イギリスの教育政策(1)【NEET】【社会的排除】
- 第14回 21世紀のイギリス社会とブレア改革【公共利益】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの社会・政治などについて専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスに関する専門的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス研究II

ARE237M

授業の概要 /Course Description

ブレア政権成立以後のイギリス社会の状況を特に外交面から検討する。具体的には、ブレア政権の大きな成果とされる北アイルランド紛争の実質的な終結とブレア政権の躓きの石となったイラク戦争をめぐるイギリス社会・世論の動向について、考察を進める

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ等を配布し、スライド・映像を適宜用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス】【アイルランド】
- 第2回 北アイルランド問題の起源(1)【ナショナリズム】【独立戦争】
- 第3回 北アイルランド問題の起源(2)【アイルランド内戦】【デヴァレラ】
- 第4回 イギリス社会と北アイルランド紛争【公民権運動】【IRA】
- 第5回 北アイルランド和平の展開とイギリス(1)【グッドフライデー合意】【権限委譲】
- 第6回 北アイルランド和平の展開とイギリス(2)【武装放棄】【自治政府】
- 第7回 アイルランド社会の現在【経済成長】【グローバル化】
- 第8回 「帝国」喪失後のイギリス対外政策【帝国】【植民地】
- 第9回 ブレアの対外政策とイギリス社会の変化【欧州統合】【戦略防衛見直し】
- 第10回 コソヴォ紛争とイギリス社会【人権】【旧ユーゴ】
- 第11回 9・11以降のイギリス社会【アメリカ】【英米関係】
- 第12回 イギリス社会とイラク戦争(1)【イラク戦争】【世論】
- 第13回 イギリス社会とイラク戦争(2)【ケリー事件】【ハットン委員会】
- 第14回 21世紀のイギリス社会と対外関係【帝国意識】【イギリス文化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中野・北

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英米文化(主にアメリカ)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 英米文化(主にアメリカ)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英米文化概論II

ARE226M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の社会を織りなす精神文化、精神的遺産について植民地から21世紀までの歴史的発展を通じて概説する。

教科書 /Textbooks

前半はテキストとして斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）を使用する。同書のほかに、後半で基礎文献を追加する場合があるので注意すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをガイダンスで配付する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【アメリカ合衆国の輪郭】
- 第2回 英領アメリカ植民地の文化【ピューリタニズム】【自由主義】【多様性】
- 第3回 独立革命と共和主義【大覚醒】【共和主義】
- 第4回 19世紀アメリカの形成【合衆国憲法】【フェデラリスト】【ジェファソン民主主義】
- 第5回 市場革命【西部】【市場革命】【超絶主義】
- 第6回 奴隷制の拡大と南北戦争【奴隷制】【南北戦争】
- 第7回 再建の時代【南部の再建】【憲法修正】【市民権】
- 第8回 19世紀後半から20世紀初頭のアメリカ社会【鉄道】【金ぴか時代】【移民】【ポピュリズム】【革新主義】
- 第9回 第一次世界大戦【100%アメリカニズム】
- 第10回 大衆消費社会と禁酒法【移民制限】【1920年代】
- 第11回 大恐慌の発生【世界恐慌】【ニューディール】
- 第12回 第二次世界大戦【冷戦】【日系人】
- 第13回 公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【人種問題】
- 第14回 多文化主義の興隆【ヒスパニック】【同性結婚】
- 第15回 これからのアメリカ社会【9.11】【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アメリカの文化と歴史について包括的な知識を提供します。授業前にあらかじめ教科書で予習し、授業後は教科書とノートで復習をおこなうこと。

キーワード /Keywords

アメリカ 文化 歴史

現代中国の政治【昼】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国政治とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国政治とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の政治

ARE211M

授業の概要 /Course Description

世界有数の経済大国となった共産主義国家・中華人民共和国について研究するための基礎知識を習得する。授業では、中国の近現代史を政治的観点から振り返り、「中国の社会主義」と改革開放の行方について検討する。また、ポスト鄧小平の時代に顕在化した問題群と政治・政策との関連についても解説する。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

天見慧『中国の歴史11 巨龍の胎動 毛沢東vs 鄧小平』講談社、2004年(○)
久保亨『シリーズ中国近現代史④ 社会主義への挑戦 1945 - 1971』岩波新書、2011年(○)
下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション～中国研究の動向と文献紹介、授業の進め方について
- 2回 なぜ中国は共産主義を選択したのか
- 3回 中国が国際政治の変遷から受けた影響
- 4回 建国当初の中国はどのような国家だったのか
- 5回 社会主義化
- 6回 文化大革命I【1960年代後半】
- 7回 文化大革命II【1970年代前半】
- 8回 近代化の模索
- 9回 改革開放I【対外開放】
- 10回 改革開放II【経済改革】
- 11回 改革開放がもたらした歪み
- 12回 第二次天安門事件
- 13回 改革開放の加速と政治改革の停滞
- 14回 現代の課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90 %、 日常の授業への取り組み ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業で指示した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国の外交【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国外交とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国外交とそれに関連する事項について情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代中国の外交

ARE212M

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、中国の外交政策・対外関係・台湾問題について、総合的に学ぶことである。国内政治、政策の変化、国際環境の変化と、中国外交の変化との関連性を示し、中国の視点から主要国との二国間関係や台湾問題を検討する。海洋主権や地域主義・グローバリズムへの参加といった今日的課題についても、中国国内の議論を紹介しながら説明する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN~文献紹介と授業の進め方
- 2回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交I【イデオロギ-、現実主義】
- 3回 国内政治・国際環境の変遷と中国外交II【指導者と外交方針】
- 4回 対日関係I【国交正常化】
- 5回 対日関係II【ポスト毛沢東時代】
- 6回 中台関係I【基礎知識】
- 7回 中台関係II【中国の台湾政策】
- 8回 中台関係III【中台関係の現状分析】
- 9回 米中関係I【冷戦期】
- 10回 米中関係II【ポスト冷戦期】
- 11回 多国間外交：地域主義とグローバリズム
- 12回 経済外交・資源外交・安全保障I【概念】
- 13回 経済外交・資源外交・安全保障II【対外行動の分析】
- 14回 華僑華人と大陸中国
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
- (2) 「中国研究概論(旧カリ：地域研究入門中国)」「現代中国の政治(旧カリ：中国の政治外交I)」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の対外認識と論理を理解して、中国の思考・行動パターンを推察する手がかりを得て下さい。

キーワード /Keywords

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交 I

ARE213M

授業の概要 /Course Description

「近くて遠い国」とも言われる隣国、韓国の政治外交に関する講義です（北朝鮮については2学期に開講される「韓国・北朝鮮の政治外交II」にて集中的に探求します）。ご存知のように、韓国は日本植民地支配からの解放と南北分断以来、冷戦体制の最前線で、北朝鮮およびアメリカ・日本・中国・ロシアに対応しながら、民主化を実現し、経済発展をとげた国です。授業の前半では、独立から現在に至るまでの韓国現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から概略的に振り返ります。その後、対日・対米・対北政策などの韓国の外交と、民主化・政党政治などの国内政治について考察を加えます。この授業が現代韓国に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

木宮正史 『国際政治のなかの韓国現代史』（東京：山川出版社、2012年）、1620円。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：韓国現代史をどうみるか
- 第2回 解放、冷戦と南北分断体制の形成
- 第3回 朝鮮戦争
- 第4回 李承晩政権の政治・外交・経済
- 第5回 朴正熙政権の政治・外交・経済
- 第6回 日韓国交正常化への道程
- 第7回 デタント、権威主義体制、産業化
- 第8回 脱冷戦と韓国の外交路線
- 第9回 民主化への道程
- 第10回 韓国の同盟政治
- 第11回 韓国の対日政策
- 第12回 韓国の統一政策（対北政策）
- 第13回 韓国の政党政治
- 第14回 韓国の課題：成長と分配、少子高齢化、民主主義
- 第15回 まとめ

(注) 授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
(注) 受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・25%、レポート・・・25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

韓国・北朝鮮の政治外交I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストなどは講義と相互補完的關係にあるので、授業開始までにきちんと読むこと。
- (2) 授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
- (3) 本講義は内容的に2学期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交II」と深く関わっているため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

韓国政治、韓国外交、南北分断体制、民主化、産業化、同盟、日韓関係、北朝鮮

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、専門的知見を有している。
技能	専門分野のスキル	● 韓国・北朝鮮の政治外交について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

韓国・北朝鮮の政治外交II

ARE214M

授業の概要 /Course Description

「謎に包まれた隣国」とも言われる北朝鮮の政治外交に関する講義です（韓国については1学期に開講される「韓国・北朝鮮政治外交I」にて集中的に探求します）。授業の前半では、建国から現在に至るまでの北朝鮮現代史を、政治学と歴史学との接点という視点から振り返ります。その後、北朝鮮の同盟外交と対日・対米・対南政策、国内政治、核・ミサイル問題などについて考察を加えます。この授業が北朝鮮に対する理解を高めるとともに、朝鮮半島問題を中心とした東北アジア国際政治を再考する場となればと思います。

教科書 /Textbooks

- 和田春樹 『北朝鮮現代史』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、886円。
- その他、授業中に配布する資料。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

第1回イントロダクションの際に一応紹介しますが、その後の授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜加えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：北朝鮮をどうみるか
- 第2回 朝鮮民主主義人民共和国の成立
- 第3回 北朝鮮からみる朝鮮戦争
- 第4回 金日成と主体思想（1）：国内政治の側面
- 第5回 金日成と主体思想（2）：対外政策の側面
- 第6回 劣勢に立つ北朝鮮：デタント、南北間の産業化競争
- 第7回 冷戦の終焉と北朝鮮の危機
- 第8回 金正日の先軍政治
- 第9回 金正恩政権と北朝鮮の選択
- 第10回 北朝鮮の同盟政治：朝中ソ3角関係
- 第11回 北朝鮮と日本、米朝関係
- 第12回 北朝鮮の統一政策（対南政策）
- 第13回 北朝鮮の核・ミサイル問題
- 第14回 東北アジア平和体制と北朝鮮問題
- 第15回 まとめ

- (注) 授業進捗度などにより講義テーマが前後する場合がある。
- (注) 受講生の関心や必要に応じて外部講師による特別講義を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・25%、レポート・・・25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

韓国・北朝鮮の政治外交II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) テキストは、講義と相互補完的關係にあるので、授業開始前までにきちんと読むこと。
- (2) 授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。
- (3) 本講義は内容的に前期開講の「韓国・北朝鮮の政治外交I」を引き継ぐため、併せて履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

北朝鮮、核・ミサイル、中朝関係、ソ朝関係、主体思想、日朝関係、金日成、金正日、金日恩

東南アジアの社会と歴史【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアの社会と歴史に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力		
関心・意欲・態度	コミュニケーション力		
※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			東南アジアの社会と歴史 ARE215M

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、東南アジアについて社会と歴史の側面から理解を深めることである。授業の前半では歴史について取り上げ、後半では社会について取り上げる。歴史・社会いずれの側面においても、多民族社会である東南アジアをとらえ、東南アジアの事例を通じて多文化共生について考える視点を養うことに力点を置く。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション
- 2回 東南アジアにおける「くに」の形成とインド文明の受容(1~11世紀)
- 3回 王国の発展と新たな外来文明(イスラム教・仏教)の受容(11~15世紀)
- 4回 交易の時代(15~18世紀)
- 5回 東南アジアの植民地化(19~20世紀)
- 6回 植民地期の社会変容(19~20世紀)
- 7回 日本軍政と脱植民地化(20世紀後半~21世紀)
- 8回 開発の時代と権威主義体制(20世紀後半~)
- 9回 開発と社会是正:信仰への回帰(1970年代~)
- 10回 信仰と暴力とが結びつけられる時(1)事例紹介・分析
- 11回 信仰と暴力とが結びつけられる時(2)分析・解説
- 12回 多民族社会の現在
- 13回 多民族社会における共存の模索(1)導入・事例紹介
- 14回 多民族社会における共存の模索(2)事例紹介・分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 課題...10% 期末テスト...60%

小テスト実施日に欠席する/した場合は、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して、追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試はなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

東南アジアの社会と歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

東南アジア研究概論を受講したうえで本科目を受講すると、本科目の理解がより深いものになります。

小テストを2回実施するほか、授業中に課題を2回提出してもらう予定です。小テストおよび課題の成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業後は復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジアの政治と外交【昼】

担当者名 猿渡 剛 / Tsuyoshi Saruwatari / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東南アジアについて政治と外交の側面から理解を深める。
技能	専門分野のスキル	● 東南アジアの政治と外交に関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	
<small>*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>		東南アジアの政治と外交 ARE216M

授業の概要 /Course Description

本講義の前半部では、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイを扱う。これらの国々の多くは戦争を経て、あるいは交渉によって独立を獲得した。そして独立を達成した直後から、冷戦を背景とした西側諸国の援助を受けながら国家建設を目指した。この過程で各国は国民統合と経済発展の問題に直面し、やがて開発体制を採用した。つまり、軍や一つの政党が政治を独占することで政治の安定を求めるとともに、中央集権化と外国資本を主力とする工業化政策を図ることで国民統合を進めたのである。こうした各国別の歴史を見ることで、東南アジアに固有の政治体制とその特色を理解する。

また後半部では、東南アジア10カ国から構成されるASEAN（東南アジア諸国連合）を扱う。ASEANは、東南アジアにおける国境線がまだ流動的であった時代に、各国の内政と外交とが絡み合い生じた紛争を経て発足した。発足後のASEANは、加盟各国が域外の大国に翻弄されることなく自らの意志で方向づけようと不断に工夫を積み重ね、アジア・太平洋地域で進展する地域統合の核をなす存在にまで発展した。こうしたASEANの歴史を見ることを通じて、東南アジアについて各国の政治と外交から理解を深めるとともに、地域秩序や国際秩序の構築において東南アジア諸国がどのように参画してきたかを理解する。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編著（2011）『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房。
また、教科書に加えて、適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 石川幸一・清水一史・助川成也編著（2009）『ASEAN経済共同体-東アジア統合の核となりうるか』ジェトロ。
- 山影進編（2011）『新しいASEAN-地域共同体とアジアの中心性を目指して』アジア経済研究所。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 インドネシアの政治
- 3回 マレーシアの政治（1）民族別政党の形成と「民族の政治」の拡大
- 4回 マレーシアの政治（2）「民族の政治」の諸問題
- 5回 フィリピンの政治（1）エリート支配の確立と動揺
- 6回 フィリピンの政治（2）豊かさを模索する政治の試練
- 7回 シンガポールの政治（1）マレーシアからの独立
- 8回 シンガポールの政治（2）急速な経済成長と進まない民主化
- 9回 タイの政治
- 10回 ASEANの設立と協力の過程
- 11回 冷戦構造の変化とアジア経済危機
- 12回 ASEAN共同体への道
- 13回 ASEAN経済共同体の実現
- 14回 ASEANの課題
- 15回 まとめ

東南アジアの政治と外交【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末テスト...60%

小テスト・期末テストに関しては、主に教科書から出題します。小テストの追試は実施しません。また、やむを得ない理由によって期末テストを欠席した場合、証明する書類を提出した者に限って追試を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「授業計画・内容」に沿ってしっかりと予習・復習を行ってください。なお、小テストを2回実施する予定です。小テストの成績は、成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究特講 【昼】

担当者名 /Instructor ODU 教員 / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会と文化についての諸問題について、専門的知識を身に付けている。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会と文化の諸問題を正しく理解し、情報の収集や分析ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 社会的責任・倫理観		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカの社会と文化	ARE222M
(国関) 地域研究特講	ARE200M

授業の概要 /Course Description
後日揭示。

教科書 /Textbooks
後日揭示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
後日揭示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
後日揭示。

成績評価の方法 /Assessment Method
後日揭示。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ史の争点【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの歴史上の争点について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの歴史上の争点に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力		
関心・意欲・態度	コミュニケーション力		

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ史の争点

ARE320M

授業の概要 /Course Description

アメリカ合衆国の民族的・人種的多様性をその起源にさかのぼり歴史的に概観すると共に、現在のエスニック状況も考察する。また、近年アメリカ合衆国で起こった、ないし起こりつつある出来事の中から、顕著なものを取り上げ、各項目について具体的な事例、その歴史的背景、争点、多様な見解を解説する。授業を通して、アメリカ合衆国社会の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

パップ・ンディアアイ著、明石紀雄監修『アメリカ黒人の歴史』想元社、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジェームス・M・ヴァーダマン『黒人差別とアメリカ公民権運動：名もなき人びとの戦いの記録』（集英社新書、2007年）
などをはじめとして、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス—近年のトピック / 文献紹介
- 第2回 19世紀前半までの黒人
- 第3回 南北戦争と奴隷制① - 綿花王国
- 第4回 南北戦争と奴隷制② - 戦争の経過
- 第5回 南部再建と人種関係の再編
- 第6回 近代黒人解放運動
- 第7回 二つの世界大戦と「市民」への道程
- 第8回 公民権運動と映画
- 第9回 公民権運動① - ブラウン判決以前の公民権運動
- 第10回 公民権運動② - 1950年代後半から1960年代前半
- 第11回 公民権運動③ - 混迷の時代へ
- 第12回 公民権運動を支えた人々
- 第13回 ポスト公民権運動期の黒人
- 第14回 アメリカにおけるアフターマティヴ・アクションの導入と展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% 課題(復習小テスト)...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講にあたって、高等学校での世界史・日本史履修の有無は問わないが、世界史の教科書を読んでおくこと良い。個人的な学習のための参考図書などは、授業中に指示する。
また、毎回の授業の前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

アメリカ史の争点【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ政治【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代アメリカ政治

ARE322M

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ政治の基礎を講じる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか『アメリカ政治』（有斐閣 2010年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回アメリカ政治の輪郭
- 第3回合衆国憲法の形成
- 第4回合衆国憲法の特徴
- 第5回大統領制
- 第6回議会
- 第7回司法
- 第8回連邦制
- 第9回選挙と政党制
- 第10回政党の機能
- 第11回メディアと圧力団体
- 第12回イデオロギー対立
- 第13回政策形成過程
- 第14回アメリカ民主政の現在
- 第15回授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は英米文化概論IIであつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、よく理解することができるようになります。

授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

現代アメリカ政治 【昼】

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカ政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの政治について専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの政治に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ政治研究

ARE321M

授業の概要 /Course Description

南北戦争から第二次世界大戦までのアメリカ政治の発展を講じる。前半部分では、南北戦争後に新しい国家秩序が形成された経緯を論じ、第一次世界大戦期に大国となったアメリカが1929年の恐慌を経て、ニューディール体制を建設し、アメリカ型の福祉国家体制を築き上げたことを論じる。講義では、アメリカにおける公共性をめぐる視点の転換を説明するため、アメリカ特有の社会構造に焦点を当てる。その際にルイス・ハーツの自由主義社会論を起点として、近年の政治発展をめぐる制度論と政治文化論を取り入れて議論を進めていく。

教科書 /Textbooks

斎藤真、古矢旬『アメリカ政治外交史』（東京大学出版会 2012年）
中野博文『ヘンリー・アダムズとその時代』（彩流社 2016年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教科書の参考文献リストを参照。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回南北戦争の衝撃
- 第3回合衆国憲法体制の転換
- 第4回政党政治の時代とその揺らぎ
- 第5回ポピュリストの挑戦
- 第6回マッキンレーからシオドア・ローズヴェルトへ
- 第7回TR政権の内政外交
- 第8回共和党政権の動揺
- 第9回第一次世界大戦と市民的自由の追求
- 第10回1920年代のアメリカ
- 第11回フーヴァー政権と大恐慌
- 第12回FDRの時代
- 第13回ニューディールとその変容
- 第14回第二次世界大戦期のアメリカ
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容は現代アメリカ政治であつかう内容や、国際関係史であつかうアメリカ外交とあわせて学習すると、アメリカ国家の発展をよく理解することができるようになります。
また授業前にあらかじめ教科書で内容を予習し、授業後は復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上の繰り返しですが、授業開始前までにあらかじめ教科書や参考書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと教科書を照合しながら、理解を深めること。

キーワード /Keywords

アメリカ 20世紀前半

東アジア経済論【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア経済論

ECN352M

授業の概要 /Course Description

東アジア地域は長い期間にわたって経済発展を続けてきた地域でやかなり、今後東アジア経済の動向が世界の中で重要な意味を持つようになる。この授業のねらいは、一つには多様性に富んだ東アジア地域の代表的な国々の経済を概観し、その特徴を深く理解することである。もう一つには、東アジア経済に関連する共通した特徴や課題を理解することである。

授業では、まず東アジア地域全体の統計データを確認して、世界の中での東アジア経済の位置づけと全体像を把握する。次に、東アジア経済の特徴を「工業化」、「サービス化」、「移民」、「体制移行」という4つのキーワードで捉えて、それぞれの特徴について代表的な国の経済を紹介し、そのキーワードに関する理論的背景や歴史的な事情などを解説をしていく。次に、東アジア地域が共通して経験した問題点と、今後取り組むべき課題を取り上げる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺利夫編『アジア経済読本 第4版』、東洋経済新報社
長谷川啓之編著『アジア経済発展論』、文真堂
三木敏夫『東アジア経済発展論』、創成社
郭洋春『現代アジア経済論』、法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、世界の中の東アジア
- 2回 韓国経済
- 3回 台湾経済
- 4回 東アジアの工業化戦略
- 5回 シンガポール経済
- 6回 香港経済
- 7回 国際金融・国際物流
- 8回 マレーシア経済
- 9回 インドネシア経済
- 10回 ASEANにおける華人経済
- 11回 中国
- 12回 その他移行経済（ベトナム、ミャンマー、北朝鮮など）
- 13回 国家と市場、開発独裁
- 14回 アジア通貨危機
- 15回 アジアにおける地域統合

東アジア経済論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から東アジアの政治経済情勢について新聞、ニュースなどで接するようにしてください。また、経済学科以外の受講生は経済学の入門書を読んだり、経済関係の授業を受けて、経済用語に慣れ親しんでおくことを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

工業化、サービス化、移民・華人、体制移行、アジア通貨危機、地域統合

東アジア地域秩序論I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論I

ARE315M

授業の概要 /Course Description

国際政治の観点から「東アジア共同体」を多元・重層的に捉え直し、アジア地域統合の課題や可能性を分析する。そして将来の東アジア地域秩序の構想・構築を展望する。

教科書 /Textbooks

山本吉宣等【編著】『国際政治から考える東アジア共同体』（ミネルヴァ書房、2012）、3200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の報告と補足講義で進行する。

- 第1回 教科書の紹介、第I部第1章 【地域統合】【理論】【制度】
- 第2回 第I部第2章 【東アジア共同体】【TPP】【アメリカの関与】
- 第3回 第I部第3章 【EU事例】【主権】
- 第4回 第I部第4章 【東アジア共同体憲章案】
- 第5回 第I部第5章 【ASEAN】【ヨーロッパ統合】
- 第6回 第I部第6章 【北東アジア】【朝鮮半島】
- 第7回 第I部第7章 【アジア太平洋】【中国】【アジア地域連携】
- 第8回 第I部第8章 【バルカン】【地域史】
- 第9回 第I部第9章 【地域安全保障】【中国】
- 第10回 第I部第10章 【安全保障】【地域秩序】
- 第11回 第I部第11章 【欧州共同体】【地域の不安定化】
- 第12回 第I部第13章 【人の移動】【マイノリティ】
- 第13回 第V部第14章 【アイデンティティ】【東アジア・アイデンティティ】
- 第14回 第V部第15章 【戦後ドイツ】【東アジア地域統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告（20点）、レポート3本（80点）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの過去・現在に関心を持ち、明るい日本と東アジアの将来を展望し構想しよう。

キーワード /Keywords

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 東アジア地域秩序の過去・現在・未来に関する様々な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 東アジア地域秩序に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

*国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東アジア地域秩序論II

ARE316M

授業の概要 /Course Description

近代における東アジア地域秩序の変容を論じ、将来の東アジア地域秩序を考えること。そのため、講義II（後期）の授業では、東アジア三国（日本、清国・中国、朝鮮・韓国）のナショナリズムの形成と展開を考察する。その過程で、三国それぞれのナショナリズムの特徴を比較考察する。また、ナショナリズム論も考察する。最後に、三国のナショナリズムと「グローバル化時代の東アジア」を対比し、それを調和させるべく、「東アジア共同体論」を検討する。講義全体のキーワードは【アジアからの視点】【文明論的視点】【ナショナリズム】【東アジア共同体】

教科書 /Textbooks

米原謙・金鳳珍・區建英著『東アジアのナショナリズムと近代-なぜ対立するのか-』大阪大学出版会、2011、3700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- テキストの精読、学生の報告、補足講義という形で行う。
- 1回 概説と教科書の序章【アジアからの視点】【文明論的視点】
 - 2回 第一章の一【国体論】【国体ナショナリズム】
 - 3回 第一章の二、三【中華世界像】【国民国家】【明治儒学と国体】
 - 4回 第二章の一、二【原初ナショナリズム】【近代ナショナリズム】
 - 5回 第二章の三、四【ナショナリズムの噴出と相克】
 - 6回 第三章の一、二【洋務運動】【戊術変法】【ナショナリズムの萌芽】
 - 7回 第三章の三【辛亥革命】【民族主義】【国粹主義】
 - 8回 第四章の一【脱亜】【興亜】【帝国日本】
 - 9回 第四章の二、三【戦争】【東亞協同論】
 - 10回 第五章の一、二【抵抗ナショナリズムの離散と噴出】【分極】
 - 11回 第五章の三、四【ナショナリズムの離合集散】【分裂と変質】
 - 12回 第六章の一、二【アジア主義】【抗日ナショナリズム】
 - 13回 第六章の三【アジア民族同盟】【統一戦線】【抗日戦争】
 - 14回 終章【ナショナリズムの相克】
 - 15回 まとめ【相生と相克】【東アジア共同体】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告 10%、3本のレポート 90%(1本30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考文献等、自主的に勉強すること。予習と復習。

東アジア地域秩序論II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジア三国におけるナショナリズム形成と相克の歴史を学び、それぞれのナショナリズムを相対化する。それによって、東アジア国際関係の協調体制と来るべき東アジア共同体を構想しよう。

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ 下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序(NIEO)】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 これまでの振り返りと中間テスト
- 第10回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第11回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第12回 新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
- 第13回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第14回 日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
- 第15回 開発協力の今日的課題

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論I【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、各回の授業でその日学んだ内容に関する課題をイントラの学習支援フォルダに掲載するので、翌週までに課題を解いておくこと。

また、日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの変容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
- 第14回 Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、配布される論文等のリストから関連文献を読むようにすること。

また、JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

授業の概要 /Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのか。それをいかに保護するのか。あるいは、なぜ保護する必要があるのか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いに答えればよいというわけでは必ずしもない。
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究する。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2016年版』有斐閣、2016年。
複数の出版社が条約集を出しているが、授業では有斐閣のものを用いる。2015年版以前のものはいない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法』第3版、日本評論社、2009年。
 - トーマス・バーゲンソル『国際人権法入門』東信堂、1999年。
 - 畑博行・水上千之編『』第4版、有信堂高文社、2006年。
 - 山本直『EU人権政策』成文堂、2011年。
- ほか授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 人権概念の創出
- 第3回 国際社会と人権保護：19世紀まで
- 第4回 国際社会と人権保護：国際連盟の時代
- 第5回 国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
- 第6回 国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
- 第7回 国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
- 第8回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
- 第9回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
- 第10回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
- 第11回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
- 第12回 国際刑事裁判所の設立と活動
- 第13回 現代アジアと人権：人権外交と価値観
- 第14回 現代アジアと人権：近年の情勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（5回）30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。事前に指定された箇所を読んだうえで出席する必要があります。
ページ数のある教科書ですので、附箋と色ペンを用意すると便利です。
以下の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを簡潔にみていくが、その際、「覇権」と「分析レベル」をキーワードにしていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史上上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに、関連文献を紹介するが、全体に関わるものとして、以下の文献を挙げておく。

- K.ウォルツ（渡邊昭夫・岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドステイン（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
- G.モデルスキー（浦野起央・信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチ工、2015年。
- J.ナイ（田中明彦・村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』第9版、有斐閣、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角：【「分析レベル」】、【覇権】
- 第3回 三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
- 第4回 覇権と国際紛争（1）—スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第5回 覇権と国際紛争（2）—パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第6回 日清戦争と日露戦争：【帝国主義】
- 第7回 第一次世界大戦：【三国同盟】、【三国協商】
- 第8回 第二次世界大戦：【連合国】、【枢軸国】
- 第9回 冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
- 第10回 冷戦期の国際紛争（1）—二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
- 第11回 冷戦期の国際紛争（2）—中国と台湾：【台湾海峡危機】
- 第12回 冷戦期の国際紛争（3）—朝鮮半島：【朝鮮戦争】
- 第13回 冷戦期の国際紛争（4）—中東①：【パレスチナ問題】
- 第14回 冷戦期の国際紛争（5）—中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第15回 冷戦後の国際紛争—9.11テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争：【テロリズム】、【「新しい戦争」】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各テーマのレジユメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおすことが求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校などで世界史などを履修したことがない学生でも、十分についていけるよう説明をするので、あとは各自がどれだけ発展的な学習（講義で紹介した文献の消化）に結びつけていけるのか、ということが課題となる。

キーワード /Keywords

上記の授業計画を参照。

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 治彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地球環境に関して、専門的な知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 地球環境についての情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地球環境論

ENW200M

授業の概要 /Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「COP21、2020年以降の地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」を採択し、今世紀後半には二酸化炭素排出ゼロを目指す」「燃料電池車の発売開始」「偏西風蛇行と北極振動」「火星に水？」「エルニーニョとMJO？」「炭素社会から水素社会へ？」「大気汚染とPM2.5」「ナノマシンとは？」などの記事が載っています。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことには理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれません。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウェブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書の紹介】
- 2回「宇宙の始まり」【ビッグバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】
- 3回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【ウイルスとの共生】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
- 4回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
- 5回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【1日の最高気温は何時？】【1年で最も寒い月は？】
- 6回「水と大気の大循環」【大気鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
- 7回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
- 8回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
- 9回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【私の見解】
- 10回「周期的変動」【氷期サイクル】【太陽活動の異変】【海洋の周期的変動】【北極振動と偏西風の蛇行】【エルニーニョとMJO】【黒潮の蛇行】
- 11回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
- 12回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
- 13回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【ロボット技術】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
- 14回「天気予報と災害への備え」【気象観測】【天気予報とコンピュータ】【火山の定義】【特別警報】
- 15回「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心に話をします。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）をしています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることが始まります。

キーワード /Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

世界経済論 【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 世界経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 世界経済について一定程度専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

世界経済論

ECN255M

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、直接投資と多国籍企業、発展途上国の貧困や地球環境問題など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『第3版 グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと 第3版』有斐閣
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 国際貿易（1）： 国際貿易の意義と現状、国際貿易の基本原則
- 3回 国際貿易（2）： 貿易政策、WTO
- 4回 国際収支と外国為替（1）： 国際収支の内訳、
- 5回 国際収支と外国為替（2）： 国際収支とマクロバランス、外国為替のしくみ、
- 6回 国際収支と外国為替（3）： 為替レートの決まり方
- 7回 直接投資と多国籍企業（1）： 直接投資・多国籍企業とは何か
- 8回 直接投資と多国籍企業（2）： 多国籍企業の行動様式、影響
- 9回 世界の中の貧困と格差（1）： 発展途上国の現状と貧困認識
- 10回 世界の中の貧困と格差（2）： 開発援助アプローチの変遷
- 11回 地球環境問題（1）： 「持続可能な開発」概念、温暖化問題
- 12回 地球環境問題（2）： 地球温暖化への国際的取組み
- 13回 人口と食糧
- 14回 資源とエネルギー
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...30% 期末試験またはレポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から新聞やニュースに触れて経済も含めた世界の動向についての情報を仕入れておくことが望ましいです。
事前学習としては、経済関係の用語をあらかじめ自分で確認しておくこと。事後学習としては、経済学では論理的なつながりが重要になるので、論理的なつながりを確認しながら復習することが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

国際貿易、国際収支、直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地球環境問題、

国際関係特講Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 米川 正子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講Ⅰ

IRL290M

授業の概要 /Course Description

This course aims to gain basic knowledge on forced migration from the refugees, immigrants and internally displaced persons (IDPs) perspectives, and to understand some challenges of humanitarian aid from the humanitarian aid workers' perspectives.

Massive movement of refugees and migrants was observed especially during the year 2015, and this is expected to increase in coming years.

Why and in what kind of circumstance have the people fled, and what kind of concerns do they have on a daily basis? And what kind of support should be provided to these people? Globalization has made humanitarian aid more complex and more politicised, and therefore, we need to ask ourselves; how effective humanitarian aid is, whether aid does more harm than good, and whether it is achieving its objective, i.e. helping people's lives.

The entire course will be held in English, and all students are expected to participate actively in the presentation and discussion.

Students are expected to intermingle their knowledge with other studies, to gain logical and critical thinking, and to improve communication, writing and questioning skills.

教科書 /Textbooks

No particular textbook will be used, but some handout materials will be distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Marie Beatrice Umutesi, Surviving the Slaughter: The Ordeal of a Rwandan Refugee in Zaire (University of Wisconsin Press, 2004) ○

Joseph Sebarenzi, God Sleeps in Rwanda: A Journey of Transformation (Atria Books, 2009) ○

米川正子訳『ルワンダジェノサイド 生存者の証言 憎しみから赦しと和解へ』(立教大学出版会、2015年) ○

Guglielmo Verdirame & Barbara Harrell-Bond, Rights in Exile: Janus-Faced Humanitarianism (Berghahn, 2005) ○

Johan Pottier. Re-Imagining Rwanda: Conflict, Survival and Disinformation in the Late Twentieth Century (Cambridge University Press, 2002) ○

米川正子『世界最悪の紛争「コンゴ」～平和以外に何でもある国』(創成社、2010年) ○

峯陽一、武内進一、笹岡雄一編『アフリカから学ぶ』(有斐閣、2010) ○

国際関係特講I 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction on refugees and humanitarian aid
 - 2.Difference and similarity among refugee, migrants and IDPs
 - 3.Relationship between refugees and the their government, and their psychology *
 - 4.Danger of protracted refugees, IDPs, migrants, stateless person
 - 5/6.Watching film 'Samba' and discussion
 - 7.Basic principles on humanitarian aid, review of East Japan's disaster
 - 8.Aid, gift and aid workers' behavior *
 - 9.Refugee camps from humanitarian organizations' perspective
 - 10.Refugee camps from refugees' perspective *
 - 11.Politicization and nature of humanitarian aid: NGOs' roles etc. *
 - 12.Politicization and nature of humanitarian aid: overall
 - 13.Awareness and accountability of aid *
 - 14.Group discussion: summary
 - 15.Test
- (* Students are expected to give brief presentation in group.)

成績評価の方法 /Assessment Method

Test 40%, presentation and discussion 30%, comment sheets 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Due to the intensive course, students need to well prepare by reading some handout materials and well review by submitting comment sheet on time.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

As a former United Nations High Commissioner for Refugee office staff member myself, I would like to share my experience dealing with the refugees as much as possible. Although the content may be a bit challenging, I am very positive that you will learn a lot from this course. I will not demand for a 'perfect English', but rather your courage, so please try your best and enjoy learning!

キーワード /Keywords

forced migration, refugees, migrants, humanitarian aid, politicization

国際関係特講II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 桂香 / Keika Okamoto / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 集中 /Concentration 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係に関する特定の事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する特定の情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係特講II

IRL291M

授業の概要 /Course Description

日本のマスメディアが報じている現シリア情勢は、全体のごくごく一部のみです。この授業では、現シリア情勢を取り巻く背景を多角的な視点から見直し、多面的な全体像を把握することに挑戦してもらいます。まず日本のマスメディアから知る得る現シリア情勢を確認し合い、その上で、日本のマスメディアが報じない部分に着目する作業を行います。物事をさまざまな視点から考察するネット検索の方法を利用し、現シリア情勢をいろいろな角度から検索することにチャレンジする課題を週末に出します。一方的な報道からの情報だけではなく、多種多様な視点から取り入れた情報をもとに現シリア情勢を再考することで、今私たちがすべきことを見直します。最終的には、マスメディアの報じないシリア問題の舞台裏にも目を向けることを通して、真の国際協力とは何かを考えてゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回、書き込み式のプリントを配布します。それらをファイリングしてゆき、集中講義終了後には各々手製のテキストが仕上がる形式となります。ファイリングできるものを用意しておいてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

国枝昌樹 『報道されない中東の真実 動乱のシリア・アラブ世界の地殻変動』 朝日新聞出版、2014年、1836円
国枝昌樹 『イスラム国の正体』 朝日新書、2015年、821円
重信メイ 『「アラブの春」の正体 欧米とメディアに踊らされた民主化革命』 角川書店、2012年、781円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 8/25(木) [第1回] シリアとは？シリア騒乱とは？
8/25(木) [第2回] 現シリア情勢を取り巻く背景の多面的な全体像
8/25(木) [第3回] 多角的視点(1)-1 ビデオ(1)視聴、ミニ感想文提出
-
- 8/26(金) [第4回] 多角的視点(1)-2 視聴したビデオ(1)から見えてくること
8/26(金) [第5回] 日本のジャーナリズムと現シリア情勢報道
8/26(金) [第6回] 多角的視点(2)-1 ビデオ(2)視聴、ミニ感想文提出
[週末課題] 現シリア情勢を多角的にネット検索する
-
- 8/29(月) [第7回] 多角的視点(2)-2 視聴したビデオ(2)から見えてくること
8/29(月) [第8回] 世界主要マスメディアに対抗する情報発信
8/29(月) [第9回] 多角的視点(3)-1 ビデオ(3)視聴、ミニ感想文提出
-
- 8/30(火) [第10回] 多角的視点(3)-2 視聴したビデオ(3)から見えてくること
8/30(火) [第11回] 「IS (イスラム国)」の歴史と報道
8/30(火) [第12回] 世界主要マスメディアの報じない現シリア情勢の舞台裏
-
- 8/31(水) [第13回] 多角的視点から考察した現シリア情勢のまとめ
8/31(水) [第14回] 真の国際協力に向けて(1) さまざまな国際支援の形
8/31(水) [第15回] 真の国際協力に向けて(2) 今あなたができること

国際関係特講II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・30%
授業への取り組み・・・30%
ミニ感想文・・・20%
週末の課題(8/26(金))・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

週末の課題は授業時間外の作業になります。しっかりと行ってください。

参画型の授業。質問・発言・発表を大歓迎します。

指示に従って予習復習をおこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生は、現シリア情勢に詳しくても詳しくなくてもどちらでも構いません。
教員と学生とが自由に意見を出し合えるような授業作りを常に目指しています。
現シリア情勢についての現時点での素直なイメージを持って初回の講義にいらしてください。

キーワード /Keywords

シリア騒乱、「アラブの春」、マスメディア、国際協力

国際機構論I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

授業の概要 /Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が活動している。これらの機構は、国家や私たちの生活にとっていかなる意味をもつのか。この講義では、第1に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題等を学習する。

第2に、国際連合のような普遍的機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がいかなる史的展開をみえてきたのかを考察する。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2016年度版』有斐閣、2016年。

条約集は複数の出版社から出ているので間違わないように注意すること。

なお、2015年度2学期の国際関係学科開講科目「国際人権論」の履修者にかぎり、同2015年度版を使用できる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○明石康『国際連合 軌跡と展望』岩波書店、2006年。

○高坂正義『国際政治』岩波書店、1966年。

○篠原初枝『国際連盟』中央公論新社、2010年。

○最上敏樹『国際機構論 第2版』東京大学出版会、2006年。

○渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。

ほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに

第2回 国際機構の定義と理論

第3回 国際機構の歴史

第4回 国際連盟(1) 設立の背景と組織

第5回 国際連盟(2) 活動

第6回 国際連合(1) 設立の背景

第7回 国際連合(2) 組織

第8回 国際連合(3) 活動

第9回 国際政治と国際機構(1) 国連安保理: 概論

第10回 国際政治と国際機構(2) 国連安保理: ケース・スタディ

第11回 国際政治と国際機構(3) 国連PKO: 概論

第12回 国際政治と国際機構(4) 国連PKO: ケース・スタディ

第13回 国際政治と国際機構(5) 国連と日本: 概論

第14回 国際政治と国際機構(6) 国連と日本: ケース・スタディ

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(5回)30%、期末試験70%

国際機構論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。教科書の指定箇所を事前に読んで出席することが求められます。ページ数のある教科書のため、附箋と色ペンを用意すると便利です。

以下に該当する人は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、途中退室する人、予習をしていない人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

授業の概要 /Course Description

地理的に近接する諸国が独自の国際機構（地域的国際機構）を設立する動きは、現代世界における特質となっている。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動目的や分野が異なれど、そのような動きの代表的なものである。このような動きは、日本が位置する東アジアないし環太平洋の地域でも例外ではなくなりつつある。講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びたい。第2に、地域的機構をもつ含意を、現代の日本を取り巻く状況から探究する。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在 第3版』創元社、2012年。
初版および第2版とは内容が異なる。第3版を準備すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○庄司克宏『欧州連合』岩波書店、2006年。
○中村民雄『EUとは何か』信山社、2015年。
○鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
ほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
第2回 地域的国際機構の定義と理論
第3回 国際関係の中の地域的国際機構
第4回 テキスト「プロローグ」
第5回 テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
第6回 テキスト第1章（EUの歴史）
第7回 テキスト第2章（EUの組織）
第8回 テキスト第2章（EUの政策決定）
第9回 テキスト第3章（EUの共通政策）
第10回 テキスト第3章（EUの人権保護等）
第11回 テキスト第4章（EUの対外関係）
第12回 テキスト「エピローグ」
第13回 地域的国際機構とアジア太平洋（1）これまでの経緯
第14回 地域的国際機構とアジア太平洋（2）今後の展望
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（5回）30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用する。事前に指定箇所を読んだうえで出席すること。
以下の該当者は受講できません。教科書を持参しない人、忘れた人、遅刻した人、途中退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論I 【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論I

IRL310M

授業の概要 /Course Description

「円安・円高」という言葉と共に為替レートに関するニュースが増加しています。為替レートの変動は貿易や企業の活動に影響を与えるものですが、為替レートとはどのように決まるのでしょうか。それには市場と国家が複雑に関係しているのです。今日の我々の生活を取り巻く環境は、政治と経済、政策決定の国際的要因と国内的要因とが交錯することに特徴があるといえるでしょう。

この授業では、ブレトンウッズ体制を中心とする戦後の国際経済体制の構築と変容を中心に検討し、政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題について理解を深めると同時に、関連する理論について学習します。

教科書 /Textbooks

とくに使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』(有斐閣、2007年)
細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』(有信堂、2011年)
- 関下稔『国際政治経済学要論：学際知の挑戦』(晃洋書房、2010年)
- 山田高敬、大矢根聡 [編]『グローバル社会の国際関係論』[新版](有斐閣、2011年)。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. イントロダクション： 国際政治経済学とは何か
2. 現在の国際政治経済システムの特徴と課題【国家、グローバル化】
3. 国際対立の理論【重商主義、ゼロ・サム】
4. 国際協調の理論①【自由主義、ポジティブ・サム】
5. 国際協調の理論②【相互依存論、国際レジーム論】
6. マルキシズム【従属論、世界システム論】
7. ブレトンウッズ体制の成立と展開【金・ドル本位制、ワシントン・コンセンサス】
8. ブレトンウッズ体制の変容【ニクソンショック、変動相場制、石油危機】
9. 前半のまとめ
10. GATTの成立と変遷【ITO憲章、例外規定、国際協定コード】
11. 保護貿易をめぐる政治と経済【戦略的通商政策、通商法301条】
12. WTO体制の展開【ドーハラウンド、紛争処理、コンセンサス方式】
13. 地域経済協定をめぐる国際政治経済①【FTA、関税同盟、GATT24条】
14. 地域経済協定をめぐる国際政治経済②【広域FTA交渉、原産地規則】
15. 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

国際政治経済論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくこと。
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。
授業後は必ず復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際政治経済に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際政治経済論II

IRL311M

授業の概要 /Course Description

「国際政治経済論I」に引き続き国際政治経済の主要な理論について学び、それぞれの理論における異なる世界観、国際問題のとらえ方、問題の位置付けを整理し、理解を深めることを目的としています。

政治と経済が複雑に関連しあっている国際政治経済の諸問題、特に多国籍企業やNGOの活動、地球環境問題、グローゼーションと貧困問題などの学習を通じて、政治（国家）と経済（市場）の相互作用についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野林健・大芝亮・納谷政嗣・長尾悟『国際政治経済学・入門 [第3版]』（有斐閣、2007年）
- 細谷千博監修 / 滝田賢治、大芝亮編『国際政治経済 「グローバル・イシュー」の解説と資料』（有信堂、2011年）
- 関下稔『国際政治経済学要論』（見洋書房、2010年）。
- 田中明彦、中西寛 [編]『新・国際政治経済の基礎知識』[新版]（有斐閣、2010年）。

その他の文献・論文については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. イントロダクション：ポスト冷戦期の国際政治経済
2. ネオ・リアリズム【覇権安定論、パワー概念】
3. ネオ・リベラリズム【国際レジーム論、囚人のジレンマ】
4. 多国籍企業の発展とグローバルな生産【直接投資、企業誘致】
5. 科学技術と政治経済【テクノ・ナショナリズム、IT革命】
6. グローバリゼーションと知的財産権【TRIPs協定、医薬品特許】
7. 地域統合(1)：北米【地域統合の理論、NAFTA、米国のFTA戦略】
8. 地域統合(2)：アジア【ASEAN、APEC】
9. 前半の総括
10. 資本規制・自由化の政治経済【協調的資本規制、包括的為替管理、「金融化」】
11. 通貨・金融危機の政治経済【中南米、アジア、IMF】
12. 貧困国の累積債務問題【債務危機、構造調整プログラム】
13. ヒトの移動をめぐる国際政治経済【移民政策、移民送金】
14. 食料安全保障と国際政治経済【食料需給、アグリビジネス】
15. 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に参考文献を読んでおくこと。
日頃から国際政治経済関係に関する出来事について関心を持ち、新聞を読む習慣を身につけておくこと。
授業後は必ず復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

国際法I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前課題・ 事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ダイレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

英文法・英作文A【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』 2010年

英文法・英作文A【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1 Introduction to Paragraphs:
What is a Paragraph? パラグラフとは ? / Topic Sentences 主題文について学ぶ
- 第3回 Unit 1: Supporting Sentences and Concluding Sentences 支持文と結論文について学ぶ
- 第4回 Unit 1: Writing Your Own Paragraph 英文パラグラフを書く
- 第5回 Unit 2 Five Elements of Good Writing: Purpose, Audience and Clarity
- 第6回 Unit 2: Unity and Coherence
- 第7回 Unit 3 Types of Paragraphs: Descriptive Paragraphs 記述型パラグラフ
- 第8回 Unit 3: Comparison Paragraphs 比較・対照による展開
- 第9回 Timed Writing / Grammar Review (1)
- 第10回 Unit 3: Cause-Effect Paragraphs 因果関係による展開
- 第11回 Unit 3: Classification Paragraphs 分類による展開
- 第12回 Timed Writing / Grammar Review (2)
- 第13回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay パラグラフから小論文へ
- 第14回 Unit 4 Writing Your Own Essay
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文A 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

英文法・英作文A【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1 Introduction to Paragraphs:
What is a Paragraph? パラグラフとは ? / Topic Sentences 主題文について学ぶ
- 第3回 Unit 1: Supporting Sentences and Concluding Sentences 支持文と結論文について学ぶ
- 第4回 Unit 1: Writing Your Own Paragraph 英文パラグラフを書く
- 第5回 Unit 2 Five Elements of Good Writing: Purpose, Audience and Clarity
- 第6回 Unit 2: Unity and Coherence
- 第7回 Unit 3 Types of Paragraphs: Descriptive Paragraphs 記述型パラグラフ
- 第8回 Unit 3: Comparison Paragraphs 比較・対照による展開
- 第9回 Timed Writing / Grammar Review (1)
- 第10回 Unit 3: Cause-Effect Paragraphs 因果関係による展開
- 第11回 Unit 3: Classification Paragraphs 分類による展開
- 第12回 Timed Writing / Grammar Review (2)
- 第13回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay パラグラフから小論文へ
- 第14回 Unit 4 Writing Your Own Essay
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 富永 美喜 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

英文法・英作文A【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1 Introduction to Paragraphs:
What is a Paragraph? パラグラフとは ? / Topic Sentences 主題文について学ぶ
- 第3回 Unit 1: Supporting Sentences and Concluding Sentences 支持文と結論文について学ぶ
- 第4回 Unit 1: Writing Your Own Paragraph 英文パラグラフを書く
- 第5回 Unit 2 Five Elements of Good Writing: Purpose, Audience and Clarity
- 第6回 Unit 2: Unity and Coherence
- 第7回 Unit 3 Types of Paragraphs: Descriptive Paragraphs 記述型パラグラフ
- 第8回 Unit 3: Comparison Paragraphs 比較・対照による展開
- 第9回 Timed Writing / Grammar Review (1)
- 第10回 Unit 3: Cause-Effect Paragraphs 因果関係による展開
- 第11回 Unit 3: Classification Paragraphs 分類による展開
- 第12回 Timed Writing / Grammar Review (2)
- 第13回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay パラグラフから小論文へ
- 第14回 Unit 4 Writing Your Own Essay
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文A【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文A

ENG161M

授業の概要 /Course Description

これまでに培った基礎的な英語の文法・構文の知識をさらに深めるとともに英文ライティングのスキルを伸ばすことを目指し、英文パラグラフの書き方の基礎を学ぶ。身近なトピックからグローバルな話題まで様々な題材について自らの意見を英語で明快に説得力をもって書くスキルの習得を目標とする。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

英文法・英作文A【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 1 Introduction to Paragraphs:
What is a Paragraph? パラグラフとは ? / Topic Sentences 主題文について学ぶ
- 第3回 Unit 1: Supporting Sentences and Concluding Sentences 支持文と結論文について学ぶ
- 第4回 Unit 1: Writing Your Own Paragraph 英文パラグラフを書く
- 第5回 Unit 2 Five Elements of Good Writing: Purpose, Audience and Clarity
- 第6回 Unit 2: Unity and Coherence
- 第7回 Unit 3 Types of Paragraphs: Descriptive Paragraphs 記述型パラグラフ
- 第8回 Unit 3: Comparison Paragraphs 比較・対照による展開
- 第9回 Timed Writing / Grammar Review (1)
- 第10回 Unit 3: Cause-Effect Paragraphs 因果関係による展開
- 第11回 Unit 3: Classification Paragraphs 分類による展開
- 第12回 Timed Writing / Grammar Review (2)
- 第13回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay パラグラフから小論文へ
- 第14回 Unit 4 Writing Your Own Essay
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (1) パラグラフ・ライティングの復習
- 第3回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (2) 記述型エッセイの書き方を学ぶ
- 第4回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (3) 記述型エッセイを書く
- 第5回 Unit 5: Comparison Essays (1) 比較・対照によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第6回 Unit 5: Comparison Essays (2) 比較・対照のエッセイを書く
- 第7回 Unit 5: Comparison Essays (3) 比較・対照のエッセイを推敲する
- 第8回 Timed Writing / Grammar Review
- 第9回 Unit 6: Cause-Effect Essays (1) 因果関係によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第10回 Unit 6: Cause-Effect Essays (2) 因果関係を説明するエッセイを書く
- 第11回 Unit 6: Cause-Effect Essays (3) 因果関係を説明するエッセイを推敲する
- 第12回 Unit 7: Classification Essays (1) 分類によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第13回 Unit 7: Classification Essays (2) 分類のエッセイを書く
- 第14回 Unit 7: Classification Essays (3) 分類のエッセイを推敲する
- 第15回 Review

英文法・英作文B【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (1) パラグラフ・ライティングの復習
- 第3回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (2) 記述型エッセイの書き方を学ぶ
- 第4回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (3) 記述型エッセイを書く
- 第5回 Unit 5: Comparison Essays (1) 比較・対照によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第6回 Unit 5: Comparison Essays (2) 比較・対照のエッセイを書く
- 第7回 Unit 5: Comparison Essays (3) 比較・対照のエッセイを推敲する
- 第8回 Timed Writing / Grammar Review
- 第9回 Unit 6: Cause-Effect Essays (1) 因果関係によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第10回 Unit 6: Cause-Effect Essays (2) 因果関係を説明するエッセイを書く
- 第11回 Unit 6: Cause-Effect Essays (3) 因果関係を説明するエッセイを推敲する
- 第12回 Unit 7: Classification Essays (1) 分類によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第13回 Unit 7: Classification Essays (2) 分類のエッセイを書く
- 第14回 Unit 7: Classification Essays (3) 分類のエッセイを推敲する
- 第15回 Review

英文法・英作文B【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 富永 美喜 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (1) パラグラフ・ライティングの復習
- 第3回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (2) 記述型エッセイの書き方を学ぶ
- 第4回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (3) 記述型エッセイを書く
- 第5回 Unit 5: Comparison Essays (1) 比較・対照によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第6回 Unit 5: Comparison Essays (2) 比較・対照のエッセイを書く
- 第7回 Unit 5: Comparison Essays (3) 比較・対照のエッセイを推敲する
- 第8回 Timed Writing / Grammar Review
- 第9回 Unit 6: Cause-Effect Essays (1) 因果関係によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第10回 Unit 6: Cause-Effect Essays (2) 因果関係を説明するエッセイを書く
- 第11回 Unit 6: Cause-Effect Essays (3) 因果関係を説明するエッセイを推敲する
- 第12回 Unit 7: Classification Essays (1) 分類によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第13回 Unit 7: Classification Essays (2) 分類のエッセイを書く
- 第14回 Unit 7: Classification Essays (3) 分類のエッセイを推敲する
- 第15回 Review

英文法・英作文B【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、 平常の学習状況 (小テストや課題提出含む) 50%、 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

英文法・英作文B【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現するために必要な英語力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法・英作文B

ENG162M

授業の概要 /Course Description

1学期に学習したパラグラフライティングの書き方を発展させ、英文エッセイの書き方を理論的に学ぶ。エッセイライティングの一通りの基本を学習し、読み手にわかりやすく論理的かつ客観的なアカデミックな文章を書くのに不可欠なポイントを実践を通じて学習する。

教科書 /Textbooks

Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays / Cengage Learning, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Grammar in Use Intermediate: Reference and Practice for Students of English, 2000.
- 『マーフィーのケンブリッジ英文法：中級編』2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス (テキスト、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (1) パラグラフ・ライティングの復習
- 第3回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (2) 記述型エッセイの書き方を学ぶ
- 第4回 Unit 4: Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (3) 記述型エッセイを書く
- 第5回 Unit 5: Comparison Essays (1) 比較・対照によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第6回 Unit 5: Comparison Essays (2) 比較・対照のエッセイを書く
- 第7回 Unit 5: Comparison Essays (3) 比較・対照のエッセイを推敲する
- 第8回 Timed Writing / Grammar Review
- 第9回 Unit 6: Cause-Effect Essays (1) 因果関係によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第10回 Unit 6: Cause-Effect Essays (2) 因果関係を説明するエッセイを書く
- 第11回 Unit 6: Cause-Effect Essays (3) 因果関係を説明するエッセイを推敲する
- 第12回 Unit 7: Classification Essays (1) 分類によるエッセイ展開の方法を学ぶ
- 第13回 Unit 7: Classification Essays (2) 分類のエッセイを書く
- 第14回 Unit 7: Classification Essays (3) 分類のエッセイを推敲する
- 第15回 Review

英文法・英作文B【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況(小テストや課題提出含む) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。
フラッシュメモリーを持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英文法や構文、語彙の運用力向上を目指して、日頃から継続的な学習を行っていただきたい。

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A

ENG101M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1A 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1A	ENG101M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction: Meeting People.
- Week 2 Unit 1: Health habits; predicting content
- Week 3 Unit 1: keeping conversations going
- Week 4 Unit 2: Energy
- Week 5 Unit 2: listening for details
- Week 6 Unit 2: giving advice and making suggestions
- Week 7 Unit 3: Culture and Tradition
- Week 8 Unit 3: inferring meaning from context
- Week 9 Unit 3: use of prior knowledge
- Week 10 Unit 4: Water
- Week 11 Unit 4: expressing opinions
- Week 12 Unit 4: note taking
- Week 13 Unit 5: The Brain
- Week 14 Unit 5: discussing problems
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester
Week 2 Unit 6: Food
Week 3 Unit 6: understanding visuals
Week 4 Unit 7: Our Active Earth
Week 5 Unit 7: using transitions
Week 6 Unit 8: Cultures
Week 7 Unit 8: making inferences
Week 8 Unit 8: evaluating ideas
Week 9 Unit 9: Species Survival
Week 10 Unit 9: graphical organization
Week 11 Unit 9: cause and effect
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
Week 13 Unit 10: evaluating information
Week 14 Unit 10: speculating
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester
Week 2 Unit 6: Food
Week 3 Unit 6: understanding visuals
Week 4 Unit 7: Our Active Earth
Week 5 Unit 7: using transitions
Week 6 Unit 8: Cultures
Week 7 Unit 8: making inferences
Week 8 Unit 8: evaluating ideas
Week 9 Unit 9: Species Survival
Week 10 Unit 9: graphical organization
Week 11 Unit 9: cause and effect
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
Week 13 Unit 10: evaluating information
Week 14 Unit 10: speculating
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

English Practicum1B 【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的な会話を行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester
Week 2 Unit 6: Food
Week 3 Unit 6: understanding visuals
Week 4 Unit 7: Our Active Earth
Week 5 Unit 7: using transitions
Week 6 Unit 8: Cultures
Week 7 Unit 8: making inferences
Week 8 Unit 8: evaluating ideas
Week 9 Unit 9: Species Survival
Week 10 Unit 9: graphical organization
Week 11 Unit 9: cause and effect
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
Week 13 Unit 10: evaluating information
Week 14 Unit 10: speculating
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum1B 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1 - 4

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的な会話を行うことができる。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者とコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum1B

ENG111M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course aims to improve English ability with the use of the four skills, as well as introducing some critical thinking skills. Materials using topics from around the globe will challenge the students and broaden their views of the world around us.

教科書 /Textbooks

Pathways 2: Listening, Speaking, and Critical Thinking / Heinle Cengage Learning. 2013.
Becky Tarver Chase and Kristin L. Johannsen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Recap of first semester
Week 2 Unit 6: Food
Week 3 Unit 6: understanding visuals
Week 4 Unit 7: Our Active Earth
Week 5 Unit 7: using transitions
Week 6 Unit 8: Cultures
Week 7 Unit 8: making inferences
Week 8 Unit 8: evaluating ideas
Week 9 Unit 9: Species Survival
Week 10 Unit 9: graphical organization
Week 11 Unit 9: cause and effect
Week 12 Unit 10: Entrepreneurs
Week 13 Unit 10: evaluating information
Week 14 Unit 10: speculating
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work 20%, Presentations 30%
Assignments 20%, Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 1: Peace and Security
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom of Expression?
- 第4回 UN Unit 2: Economic Development
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 UN Unit 3: Humanitarian Aid
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 UN Unit 4: Environment
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 UN Unit 5: Human Rights
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第13回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 1: Peace and Security
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom of Expression?
- 第4回 UN Unit 2: Economic Development
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 UN Unit 3: Humanitarian Aid
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 UN Unit 4: Environment
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 UN Unit 5: Human Rights
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第13回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 2 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A

ENG261M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 1: Peace and Security
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom of Expression?
- 第4回 UN Unit 2: Economic Development
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 UN Unit 3: Humanitarian Aid
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 UN Unit 4: Environment
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 UN Unit 5: Human Rights
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第13回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法A 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法A	ENG261M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 1: Peace and Security
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 1: Internet Safety or Freedom of Expression?
- 第4回 UN Unit 2: Economic Development
- 第5回 P&C Unit 2: Honor or Burden
- 第6回 UN Unit 3: Humanitarian Aid
- 第7回 P&C Unit 3: Clean Energy or Potential Threat
- 第8回 UN Unit 4: Environment
- 第9回 P&C Unit 4: Real Risk or Great Technology
- 第10回 UN Unit 5: Human Rights
- 第11回 P&C Unit 5: Legalization or Outlawing of Gay Marriage?
- 第12回 P&C Unit 6: Separate Smoking Area or Total Ban?
- 第13回 P&C Unit 7: Right to Die or Responsibility to Live?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG2B2M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 6: UN Affairs, Secretary-General
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 UN Unit 7: Women, Children, Population
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 UN Unit 8: Law, Crime Prevention
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 UN Unit 9: Health, Poverty
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 UN Unit 10: Culture, Education
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第13回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 2 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B

ENG2B2M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 6: UN Affairs, Secretary-General
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 UN Unit 7: Women, Children, Population
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 UN Unit 8: Law, Crime Prevention
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 UN Unit 9: Health, Poverty
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 UN Unit 10: Culture, Education
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第13回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 3 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B

ENG2B2M

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 6: UN Affairs, Secretary-General
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 UN Unit 7: Women, Children, Population
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 UN Unit 8: Law, Crime Prevention
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 UN Unit 9: Health, Poverty
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 UN Unit 10: Culture, Education
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第13回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

英語表現法B 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス 2 - 4 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で意見交換を行うために必要な高度な英語表現力を身に付ける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会における自らの役割を認識し、明確な目的意識と行動する意欲を有する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら対話関係を築くことができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語表現法B	ENG2B2M
--------	---------

授業の概要 /Course Description

文化、社会、科学技術、環境などに関わるさまざまな問題に目を向け、多角的、論理的に思考して自分の意見や批評を英語で表現する能力を養成することを授業のねらいとし、英語によるプレゼンテーションやディベート、ディスカッションを行う技術を磨くことを目指す。

教科書 /Textbooks

Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues / Cengage Learning, 2014.
『国際情勢を考える—国連ニュースで読む世界 (From the UN News Centre) 』 / 三修社, 2015.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (テキスト、ディベートのグループ分け、ディベートの方法、成績評価の方法、自宅学習の仕方等の説明)
- 第2回 From the UN News Centre (UN) Unit 6: UN Affairs, Secretary-General
- 第3回 Pros and Cons (P&C) Unit 8: Punishment or Discipline?
- 第4回 UN Unit 7: Women, Children, Population
- 第5回 P&C Unit 9: To Skip or Not to Skip?
- 第6回 UN Unit 8: Law, Crime Prevention
- 第7回 P&C Unit 10: Performance or Seniority?
- 第8回 UN Unit 9: Health, Poverty
- 第9回 P&C Unit 11: Free Trade or Protection?
- 第10回 UN Unit 10: Culture, Education
- 第11回 P&C Unit 12: Animal Rights or Human Profits?
- 第12回 P&C Unit 13: Peace Constitution or Revision?
- 第13回 P&C Unit 14: Death Penalty or Human Rights?
- 第14回 Review (1): Discussion 1
- 第15回 Review (2): Discussion 2

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、平常の学習状況 (小テスト、課題提出等) 50%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
教科書以外に英和・和英・英英辞典を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語運用力を磨くとともに、自ら調査や研究を行って、授業で取り上げる話題に取り組んでください。

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義・実習
/Class Format

クラス 2 - 2
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2A 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2A

ENG201M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple 1 / Pearson Longman
Paulette Dale

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Chapter 1: Getting Started
Week 3 Chapter 2: Effective Speech Delivery
Week 4 Chapter 3: Don't Just Tell Me, Show Me!
Week 5 Speech 1: About Me!
Week 6 Speech 2: A Meaningful Object
Week 7 Speech 3: My Worst Fear
Week 8 Chapter 4: Interesting Interviews
Week 9 Speech 4: Report on an Interview
Week 10 Chapter 5: Explain It!
Week 11 Informative Speech - Outlining and Writing
Week 12 Informative Speech Delivery (Round 1)
Week 13 Informative Speech - Writing and Revising
Week 14 Informative Speech Delivery (Round 2)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.
Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.
Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Course Introduction
Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
Week 12 Speaking for Special Purposes
Week 13 Symposium - Outlining and Writing
Week 14 Symposium - Delivery
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.
Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum2B 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 2 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら他者と円滑にコミュニケーションをとることができる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum2B

ENG211M

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of International Relations majors in regard to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple (Third Edition) / Pearson Longman
Paulette Dale and James C. Wolf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Course Introduction
- Week 2 Introduction to Persuasive Speaking
- Week 3 Preparing for the Persuasive Speech
- Week 4 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- Week 5 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 1)
- Week 6 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 2)
- Week 7 Persuasive Speech Delivery (Round 1: Group 3)
- Week 8 Persuasive Speech - Writing and Revising
- Week 9 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 1)
- Week 10 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 2)
- Week 11 Persuasive Speech Delivery (Round 2: Group 3)
- Week 12 Speaking for Special Purposes
- Week 13 Symposium - Outlining and Writing
- Week 14 Symposium - Delivery
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

70% Class Work and 30% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Please bring a USB memory stick to each class.
Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

英語論文作成法I【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

英語論文作成法I【昼】

専門教育科目
外国語科目
英語必修

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・ 実習
クラス /Class 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法I【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法 I

ENG361M

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give students ample practice in developing and writing paragraphs and eventually essays. Your grade in this class will be based on writing tasks (paragraphs, essays, and in-class writing assignments), quizzes, participation (including homework, attendance, and being on-task), and the final exam. The breakdown is in the following.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Academic Writing from Paragraph to Essay / Cengage Learning
Matthew A. Taylor and David E. Kluge

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Units 1, 2, and 3: Understanding the Writing Process
Week 2 Unit 4: Descriptive Paragraph
Week 3 Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
Week 4 Unit 6: Process Paragraph
Week 5 Unit 7: Narrative Paragraph
Week 6 Unit 8: Summary Paragraph
Week 7 Unit 9: Analysis Paragraph
Week 8 Unit 10: Cause and Effect Paragraph
Week 9 Unit 11: Persuasive Paragraph
Week 10 Unit 12: Problem-Solution Paragraph
Week 11 Unit 13: About the Essay
Week 12 Unit 14: Changing a Paragraph into an Essay
Week 13 Unit 15: Writing an Essay from the Beginning
Week 14 Unit 16: Review Essay: Combining Approaches
Week 15 Examination Essay

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid- & Final Semester tests 25%
Class Performance 15%
Assigned homework essays 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名
/Instructor

アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義・実習

クラス 3 - 1
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
	専門分野のスキル		
技能	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II【昼】

担当者名 /Instructor: ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義・実習
クラス /Class: 3 - 3

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解			
技能	専門分野のスキル			
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。	
	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語論文作成法II 【昼】

担当者名
/Instructor

デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	国際的な場で自らの意見を表現できる高度な英語力を身につける。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	●	先行研究を参照しながら、自己の意見を確立し、英文で明確に表現できる。
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語論文作成法II

ENG362M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to teach students how to write a good 2,500 word academic research paper in English.
Research paper topics must be drawn from the field of International Relations.

教科書 /Textbooks

Basic Steps to Writing Research Papers / Cengage Learning
David E. Kluge and Matthew A. Taylor

Extra materials, which have been written by the instructor, will also be provided.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable.

英語論文作成法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Class Orientation Unit 1 What is a Research Paper? Unit 2 Topics
Week 2	Unit 3 Sources Conferencing of Topics, as needed
Week 3	Unit 4 Taking Notes
Week 4	Unit 5 The Beginning Thesis Statement Conferencing of Thesis Statements, as needed
Week 5	Unit 6 The Working Outline Conferencing of Outlines, as needed Unit 7 Revising the Thesis Statement, and Working Outline
Week 6	Unit 8 Spelling, Typing, and Word Processing Unit 9 Writing the First Draft Unit 10 Writing the Title
Week 7	Unit 11 Style Unit 12 Writing the Introduction
Week 8	Unit 13 Support, Accuracy, and Logic Unit 14 Writing the Body
Week 9	Unit 15 Tense, Transitions, and Awkward Sentences Unit 16 Writing the Conclusion
Week 10	Unit 17 Avoiding Plagiarism: Citing and Quoting Sources Unit 18 Writing the Bibliography
Week 11	Draft 1 due Unit 19 Evaluating and Rewriting; Peer Reading 1
Week 12	Draft 1 returned: Conferencing
Week 13	Draft 2 due; Peer Reading 2
Week 14	Draft 2 returned: Conferencing Unit 20 Common Problems
Week 15	Draft 3 due, Draft 3 Peer Reading 3 due. Self Evaluation due Unit 21 An End and a Beginning

成績評価の方法 /Assessment Method

Assigned Report 60%
Mid and Final Semester Tests 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3A 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3A

ENG301M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Cultural issues in the world
- Week 3 Research of cultural issues
- Week 4 Expansion of cultural issues
- Week 5 Consolidation of cultural issues
- Week 6 First group: Presentation and discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Environmental issues in the world
- Week 10 Research of environmental issues
- Week 11 Expansion of environmental issues
- Week 12 Consolidation of environmental issues
- Week 13 Third Group: Presentation and discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・カーマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 /Class クラス 3 - 2

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

デイヴィッド・レイモンド・ラッツ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 3
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Practicum3B 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	知的会話を円滑に行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を採求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語力を生かして世界を舞台に活躍するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

English Practicum3B

ENG311M

授業の概要 /Course Description

Students will research, summarize and present both facts and opinions on topics related to international relations and contemporary social and cultural issues. Students will be expected to speak and discuss a wide variety of topics at a high intermediate level of English. Students will improve their English language listening and speaking skills, as well as critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction and course objectives
- Week 2 Social issues in the world
- Week 3 Start to research social issues
- Week 4 Expansion of social issues
- Week 5 Consolidation of social issues
- Week 6 First Group: Presentation and Discussion
- Week 7 Second Group: Presentation and Discussion
- Week 8 Analysis and Advice
- Week 9 Political issues in the world
- Week 10 Research of political issues
- Week 11 Expansion of political issues
- Week 12 Consolidation of political issues
- Week 13 Third Group: Presentation and Discussion
- Week 14 Fourth Group: Presentation and Discussion
- Week 15 Summary and exam preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation 40%, Presentations/Group Work 20%, Homework 20%, Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Read the assigned pages and do the assigned writing before class. After class, review the corrections the teacher made to your work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 英語学に関する基礎的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 英語学に関する情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN130M

授業の概要 /Course Description

統語論、意味論、形態論、音声学等、英語の言語的側面を概観し、インターネットの利用や実践を通して理解を深める。

教科書 /Textbooks

“First Steps in English Linguistics” by T. Kageyama et al. (くろしお出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 Introduction: Language 【onomatopoeia】
- 第2回 Linguistics 【language acquisition】 【overgeneralization】 【UG】
- 第3回 MorphologyI 【morpheme】 【Compound Stress Rule】 【Phrasal Stress Rule】
- 第4回 MorphologyII 【derivation】 【conversion】 【inflection】 【clipping】 【blending】
- 第5回 SemanticsI 【conceptual meaning】 【associative meaning】 【entailment】 【categorization】
- 第6回 SemanticsII 【hyponymy】 【meronymy】 【synonymy】 【antonymy】 【polysemy】 【metaphor】
- 第7回 SyntaxI 【movement】 【deletion】 【pro-form】 【coordination】
- 第8回 SyntaxII 【labeled bracketing】 【tree diagram】 【phrase structure】
- 第9回 Phonetics and PhonologyI 【pitch】 【intonation】 【accent】 【syllable】
- 第10回 Phonetics and PhonologyII 【organs of speech】 【vowels】 【consonants】
- 第11回 SociolinguisticsI 【world Englishes】 【regional dialects】
- 第12回 SociolinguisticsII 【American English】 【British English】 【Canadian English】
- 第13回 The History of EnglishI 【Old English】 【Middle English】 【Modern English】
- 第14回 The History of EnglishII 【Proto-Indo-European】 【Great Vowel Shift】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物を含む) 40%、期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。重要な専門用語を中心に、授業内容をまとめたノートを作成する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

原書講読【昼】

担当者名 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	グローバル化社会の諸科目について、知識と理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	自ら調査・研究を行って、諸問題を多角的に捉え、思考することができる。
	英語力	●	英語で書かれた文献や学術論文などを正確に理解する高度な英語力を身に付ける。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

原書講読

ENG312M

授業の概要 /Course Description

多文化社会を背景とする短編と、国際問題に関する記事とを読み進め、民族、人種、性、言語、宗教、思想等、様々なレベルで異なる背景を持つ個人や集団が共存する社会の理解と、その理解に基づいて主体的に国際情勢を捉える態度を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第2回 "Children of the Sea" (1) 【難民】 【ハイチ系アメリカ人作家】
- 第3回 "Children of the Sea" (2)
- 第4回 時事：難民問題
- 第5回 "Désirée's Baby" (1) 【女性】 【人種】
- 第6回 "Désirée's Baby" (2)
- 第7回 時事：ジェンダー問題
- 第8回 "A Letter to Harvey Milk" (1) 【LGBT】 【民族】
- 第9回 "A Letter to Harvey Milk" (2)
- 第10回 時事：人権問題
- 第11回 Review
- 第12回 "The Man to Send Rain Clouds" 【ネイティブ・アメリカン】 【植民地主義】
- 第13回 "Thank God for the Jews" (1) 【宗教】 【民族】
- 第14回 "Thank God for the Jews" (2)
- 第15回 "Japanese Hamlet," "Marriage was a Foreign Country" 【移住】 【日系アメリカ人作家】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (発表・課題提出) ...60%
小テスト...20%
期末課題...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、各回に扱う文献を必ず読んでおくこと。また授業終了後には、授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。
授業で目指す能力の実践的修得の場の一つとして、宿泊を伴う研修旅行を計画しています。参加は任意です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は議論形式で進めるので、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

多様性、人権問題、国際問題

国際関係概論 【昼】

担当者名 国際関係学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会科学の基本的な知識や個々の地域の特性についておおそ理解する。
技能	専門分野のスキル	● 一定の方向付けを受けて、自分の力で、情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力	
関心・意欲・態度	コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係概論

IRL100M

授業の概要 /Course Description

新入生が中等教育段階までに習得した知識を確認し、それらを大学での専門分野に接合するため、双方をにらんだテーマ・素材を用いて、学生自身に考える機会を提供する。多様な地域を対象として、国民国家を中心とする国際社会の形成・変容や人々が生活する社会・環境の変化を踏まえ、現在の世界が抱える諸問題を検討する。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の最初に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 文章作成方法 【新聞の活用】【朝日新聞】
- 3 近代国際社会の形成【ウェストファリア体制】【封建制】【植民地建設】
- 4 資料収集の方法と基本的用語(1)【図書館】【語彙力】/国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
- 5 資料収集の方法と基本的用語(2)【図書館】【語彙力】/国民国家とナショナリズム【国民】【革命】
- 6 社会主義・共産主義【マルクス主義】【一国社会主義】
- 7 人の国際移動【移民】【同化】【国民統合】
- 8 植民地化と脱植民地化【国民国家】【帝国主義】【権威主義体制】
- 9 東アジアのナショナリズム【歴史克服】【和解】
- 10 文学作品における国際関係【文化的アイデンティティ】
- 11 国際関係に対する3つの見方【リアリズム】【リベラリズム】【コンストラクティヴィズム】
- 12 戦争の違法化と集団的安全保障【国際連盟】【国際連合】
- 13 新自由主義と貧困・格差【ワシントン・コンセンサス】【絶対的貧困】【相対的貧困】
- 14 地球環境問題【持続可能な開発】【京都議定書】【排出量取引】
- 15 グローバリゼーションと地域主義【グローバリズム】【FTA】

以上のスケジュールは、都合により順番が前後するなど、変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・レポート(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の担当者の指示に従うこと。
クラス単位の回があるので、注意すること。
授業中の私語は厳禁。
授業終了後には復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

質問などは授業中にするのが望ましいが、復習時に出てきた疑問などについてはオフィス・アワーを極力利用すること。

キーワード /Keywords

国際関係の争点【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互関連性について理解している。
技能	専門分野のスキル	● 国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点

IRL101M

授業の概要 /Course Description

この講義では、現代の国際社会が抱える様々な課題を取り上げ、その課題を解決するために取り組まれている諸活動を概観します。その際、単に諸問題の表層を捉えるのではなく、解決を困難にしている要因を歴史的な脈絡からも分析します。また、様々な課題が互いに関連し合っていることを横断的に捉え直すことで、複雑な現代世界の諸相を捉える視点を養います。

教科書 /Textbooks

日本平和学会編『平和を考えるための100冊+α』法律文化社、2013年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

滝田賢治・大芝亮・都留康子『国際関係学-地球社会を理解するために』有信堂高文社、2015年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「変化する国際政治経済秩序」【新興国】【BRICS】【G20】
- 第2回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(1)【米軍のリバランス戦略】【中国の海洋進出】【尖閣問題】
- 第3回 「東アジアにおける安全保障環境の変化」(2)【国家安全保障会議】【防衛装備移転三原則】【集団的自衛権】
- 第4回 「新しい安全保障観」【人間の安全保障】
- 第5回 「保護する責任」(1)【人道的介入】【コンゴ紛争】【ルワンダ内戦】【内政不干渉原則】
- 第6回 「保護する責任」(2)【ICISS】【アラブの春】【イスラム国】
- 第7回 「人の非自発的移動」【難民】【国内避難民】【ディアスポラ】
- 第8回 「アフリカ情勢」【ガバナンス】【汚職・腐敗】【北京コンセンサス】
- 第9回 「ジェンダー」【ジェンダー・ギャップ・インデックス】
- 第10回 「食と環境」【遺伝子組み換え作物】
- 第11回 「エネルギー問題」【原子力】【再生可能エネルギー】
- 第12回 「感染症」【HIV/AIDS】【結核】【マラリア】
- 第13回 「国家間貿易」【WTOレジーム】【TPP】【FTA/EPA】
- 第14回 「フェアトレード」【フェアトレードタウン】【倫理的消費】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・30% 学期末試験・・・70%
(レポートは上記教科書から課題を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに各回のテーマの資料に目を通し、授業に臨むこと。資料は学習支援フォルダーに載せる予定。事後学習として、テーマに関連する新書や論文を読むようにすること。リストは毎回の授業で提示する予定。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。他の受講生の迷惑になりますので、途中入退室は原則として禁止します。

キーワード /Keywords

国際関係史 【昼】

担当者名 /Instructor 中野・金

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係史について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係史に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係史

IRL201M

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構想・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

第1回～第7回、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』（慶応義塾大学出版会 2013）
第8回～第15回、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』（有斐閣 2014）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、教科書の「はじめに」
- 2回 朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【征韓論】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 6回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 7回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 第二次世界大戦から冷戦へ 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本(1回分の量はA4用紙3～4枚程度) 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

二人の先生の担当授業です(1～7回金鳳珍、8～15回中野博文)。
予授業開始前までに予め教科書で授業の該当箇所を読み、授業終了後には教科書で復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係の理論【昼】

担当者名 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論

IRL200M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したこと、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したこと、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったことなどで表されます。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田高敬、大矢根聡 [編] 『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
- 村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、他 [著] 『国際政治学をつかむ』 (有斐閣、2009年)。
- 原彬久 [編] 『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。

その他の文献については授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制(1)：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制(2)：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. アクターとしてのNGO【規範起業家、プライベート・レジーム】
15. 講義のまとめ【グローバル化と国際社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：25% ミニレポート：15% 期末試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。
授業後は必ず復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国研究概論

ARE111M

授業の概要 /Course Description

この授業は、主に社会科学の観点から中国を研究するための基礎知識を養うことを目的とする。建国から60年以上を経て中国は世界有数の経済大国となったが、その未来は決して楽観できない状況にある。日本にとって重要な隣国であり、国際社会へも大きな影響を及ぼす中国を、どのように理解すればよいのか。そのような問題意識をもって、授業の前半では、共産党一党独裁下の政治経済体制への理解を深めるとともに、経済格差や少数民族問題など多くの問題を抱えたまま経済成長路線を走り続けなくてはならない中国の現状について解説する。後半では、国際社会との関係を軸に中国を論じる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。
その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 毛里和子『日中関係 戦後から新時代へ』岩波新書、2006年
- 吉岡桂子『愛国経済 中国のグローバル化』朝日新聞出版、2008年
- 興梠一郎『中国激流 13億のゆくえ』岩波新書、2005年
- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション～地域研究としての中国研究、授業の進め方について
- 2回 中国研究の基礎知識
- 3回 共産党一党支配体制【経済体制】
- 4回 共産党一党支配体制II【政治体制】
- 5回 中央と地方
- 6回 メディアと情報統制
- 7回 経済格差I【所得】
- 8回 経済格差II【社会、民族】
- 9回 民族
- 10回 台湾I【日台関係】
- 11回 台湾II【中台関係】
- 12回 中国と国際関係
- 13回 中国脅威論
- 14回 日中関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) ... 90 % 日常の授業への取り組み ... 10 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストや授業で指定した資料・文献を熟読した上で授業に臨むこと。
新聞（紙面）を読む習慣をつけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国の変化は大変激しいので、日々、新聞の紙面で何が起きているのか確認することが重要です。授業では、その日の講義内容と関連する最新ニュースを取り上げることがよくあります。

キーワード /Keywords

朝鮮半島研究概論【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 近現代の朝鮮半島情勢について、基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 朝鮮半島情勢について、社会科学的な調査・分析を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

朝鮮半島研究概論

ARE112M

授業の概要 /Course Description

いま不幸にも朝鮮半島は国土が南北に分断されているが、その社会の固有の文化は長きにわたって、日本社会に大きな影響を及ぼしてきた。この講義では、日本との関係を念頭に置きつつ、近代以来の朝鮮半島の歩みを概観することで、この最も親しい隣人と真の和解を遂げるための、基礎的な知識を習得する。なお、近代以降、朝鮮半島は大国の利害が錯綜してきた国際政治の中心舞台であったがゆえに、その経験を学ぶことで、東北アジア国際政治に対する理解を高める。

教科書 /Textbooks

○ 趙景達 『近代朝鮮と日本』（岩波新書）（東京：岩波書店、2012年）、846円（税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 徐仲錫 著・文京洙訳 『韓国現代史60年』（東京：明石書店、2008年）、2400円（税別）。
 - ブルース・カミングス 著、横田安司・小林知子訳 『現代朝鮮の歴史-世界のなかの朝鮮』（東京：明石書店、2003年）。
- その他、授業中に配布する資料・レジュメ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：朝鮮半島をどうみるか
 - 第2回 近代日本と朝鮮①：征韓論、日朝修好条規、壬午軍乱
 - 第3回 近代日本と朝鮮②：日清戦争、甲申政変、大韓帝国
 - 第4回 近代日本と朝鮮③：日露戦争、日韓併合
 - 第5回 日本の植民地支配①：近代化論vs.収奪論など
 - 第6回 日本の植民地支配②：反日運動、皇民化政策など
 - 第7回 日本の植民地支配③：日本の戦争と朝鮮半島
 - 第8回 解放と独立、南北分断
 - 第9回 朝鮮戦争
 - 第10回 李承晩政権の歩みと北朝鮮の社会主義建設
 - 第11回 朴正熙政権の歩みと金日成の選択
 - 第12回 日韓国交正常化交渉における争点、日朝関係の展開
 - 第13回 デタント、産業化競争と民主化への道程
 - 第14回 南北関係と東北アジア国際政治
 - 第15回 まとめ：2つの朝鮮問題
- (注) 授業の進捗度などによって変更の可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカード・・・50%、読書感想文・・・25%、レポート・・・25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指定した資料・文献をきちんと読んだうえで授業に臨むこと。
授業終了後には復習を行い、コメントカードを提出すること。

朝鮮半島研究概論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い講義になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

近代、植民地、解放、分断、日韓関係、請求権、民主化、産業化、朝鮮半島問題、北朝鮮

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	東南アジアについて基礎的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	東南アジアに関する基本的な情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

東南アジア研究概論

ARE113M

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジアという地域の特徴をとらえるとともに、自らを東南アジアという地域に位置づけている11カ国のうち主な国を取り上げて、各国の特徴をとらえることを目的とする。東南アジアに関する時事問題の読み解きや、東南アジアに関する専門書を読みこなすうえで必要となる基本的な地理や歴史、各国の現代政治史と今日的な課題などを中心に説明していく。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 弘末雅士『東南アジアの港市世界』岩波書店、2004年。
 - 清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
- このほかにも講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「東南アジア」という地域概念の展開&地理の把握
- 3回 多様な東南アジア世界：自然環境、言語、宗教
- 4回 東南アジアの近現代史
- 5回 島嶼部諸国のプロフィール（1）インドネシア
- 6回 島嶼部諸国のプロフィール（2）マレーシア
- 7回 島嶼部諸国のプロフィール（3）シンガポール
- 8回 島嶼部諸国のプロフィール（4）フィリピン
- 9回 東南アジアと日本（1）第2次世界大戦前まで
- 10回 大陸部諸国のプロフィール（1）ベトナム
- 11回 大陸部諸国のプロフィール（2）カンボジア
- 12回 大陸部諸国のプロフィール（3）タイ
- 13回 大陸部諸国のプロフィール（4）ミャンマー
- 14回 東南アジアと日本（2）第2次世界大戦以降
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40% 期末試験 ... 60%

小テスト実施日に欠席する / した場合、それがやむを得ない理由によることを証明する書類があれば、次の授業までに別途日時を設定して追試を行うことが可能です。欠席が分かり次第、メールにて担当者にご連絡ください。追試にはなるべく柔軟に対応していきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

小テストを3回実施する予定です。小テストの成績は成績評価全体の4割を占めます。日ごろの授業への取り組みがたいへん重要となります。授業終了後は授業の内容を復習するよう心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

入門演習【昼】

担当者名 北 美幸 他5名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	社会科学の立場から、自分の力で、基本的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を考察し、その解決策を探求する方法を学ぶことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見を参考にしながら、自己の意見を形成し、表現する方法を学ぶことができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人としての倫理観と目的意識について、基本的な題材から考えることができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を、様々な題材を用いて深めることができる。
	コミュニケーション力	●	他者と円滑にコミュニケーションする力を身につける。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

入門演習

SEM110M

授業の概要 /Course Description

入門演習は、皆さんが大学で今後学習を進める上で最低限必要となる技法の習得を目指すために行なう演習形式の科目です。いわば大学での勉学に関するイロハを身につけるための演習です。「調べること」、「書くこと」、「レジュメを作ること」と「プレゼンテーションを行なうこと」に重点をおきます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、各自あるいはグループで取り組む作業が中心になります。以下、授業で行う課題に沿って各回の進行を例示していますが、実際の内容は担当教員によって異なります。

- 第1回
ガイダンス
- 第2-3回
文献をどのように検索して入手するのか
- 第4-5回
資料をどのように読むのか
- 第6回
盗用とは何か、それをどのように防ぐのか
- 第7-11回
文章、レポートおよび小論文をどのように作成するのか
- 第12-13回
プレゼンテーションに向けたレジュメをどのように作成するのか
- 第14-15回
プレゼンテーションをどのように行なうのか

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況、課題への取組み状況にしたがって評価します(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

入門演習【昼】

履修上の注意 /Remarks

入門演習は必修科目ですので、必ず履修してください。
演習形式の授業で主体になるのは履修生です。皆さんの積極的な参加を求めます。
授業前に担当教員の指示に従って作業をおこない、授業後は復習をおこなうこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

2016年度のこの演習では「フェア・トレード」について学びます。「フェアトレード」が推進されるようになった背景要因を学習し、途上国世界のリアリティについて考えます。その際、「フェアトレード」推進の立場だけでなく、懐疑論者の論稿も併せて輪読し、一消費者として倫理的消費について考えます。

教科書 /Textbooks

佐藤寛編著『フェアトレードを学ぶ人のために』世界思想社、2011年。
コナー・ウッドマン『フェアトレードのおかしな真実』英治出版、2013年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

子島進ゼミ『館林発フェアトレード-地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 『フェアトレードを学ぶ人のために』第1章の輪読
- 第3回 第2章の輪読
- 第4回 第3章の輪読
- 第5回 第4章の輪読
- 第6回 第5章の輪読
- 第7回 第6章の輪読
- 第8回 第7章の輪読
- 第9回 第8章の輪読
- 第10回 第9章、結語の輪読
- 第11回 『フェアトレードのおかしな真実』第1章
- 第12回 第2章、第3章
- 第13回 第4章、第5章
- 第14回 第6章、第7章
- 第15回 第8章、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・ 20%、ゼミへの貢献度・・・ 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講生には、事前に関連の文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められます。また、事後学習として、毎回のゼミで学んだ箇所に関する課題を出します。
国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましく、未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)
加藤洋子『「人の移動」のアメリカ史-移動規制から読み解く国家基盤の形成と変容』彩流社、2014年。
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。
輪読しているテキストを、報告者以外も全員読み、疑問点や感想をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて「朝鮮問題」を中心にした現代東北アジアの政治外交に関する知識を広く深く習得するとともに、東北アジアを取り巻く政治事象について自ら考える力を養う。受講生は自らの研究テーマを絞っていく。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロ（進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 共通テキストの輪読・討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修(韓国あるいは国内)を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 70%、提出物(レポートを含む) 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、ゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べる事が求められる。

専門演習I【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

恐れずに討論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、（本ゼミのキーワードである）アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。

教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に適宜、必要な教材をプリントして配布し、テキストとして活用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間 鄭観応・福沢諭吉・俞吉濬の比較考察』（九州大学出版会、2004）
- 李曉東『近代中国の立憲構想 嚴復・楊度・梁啓超と明治啓蒙思想』（法政大学出版会、2005）
- 大塚健洋編著『近代日本政治思想史入門』（ミネルヴァ書房、2008）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生は授業中に配布したテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、報告・発表、討論、質疑応答、そしてゼミ論文を基に厳正に行う(100%)。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関心をもち、多数の文献を解説しようという意欲をもつこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員参加型のゼミで、真面目に勉強しつつ、アットホームな雰囲気を醸し出すこと。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学（IPE）の分析視角を用いて、相互にかつ多層的に関連しあう国際政治経済の諸問題を自分なりに捉え、分析し、発表できるようになることを目的とする。専門演習Iでは主に、IPEの基本的な理論について学ぶ。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に輪読用の文献を決める。さしあたり以下の文献を選定対象として考えている。

- 吉川元 編『グローバル・ガバナンス論』法律文化社、2014年
- 田所 昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年
- 桜井 公人 編『グローバル化の政治経済学』晃洋書房、1998年
- 坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション（テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など）
- 第2回 グループワーク
- 第3回 レポートテーマの発表
- 第4回 文献の輪読とディスカッション①
- 第5回 文献の輪読とディスカッション②
- 第6回 IPEに関連するDVD教材の利用①
- 第7回 レポートの中間報告
- 第8回 IPEに関連するDVD教材の利用②
- 第9回 文献の輪読とディスカッション③
- 第10回 文献の輪読とディスカッション④
- 第11回 文献の輪読とディスカッション④
- 第12回 文献の輪読とディスカッション⑤
- 第13回 レポートの報告①
- 第14回 レポートの報告②
- 第15回 レポートの報告③

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献...30% 各自の報告...40% レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 輪読は毎回報告者を決め、報告者は担当する章の内容とそれに関連する事柄をカバーしたレジюмеを用意して報告する。報告者以外も取り扱う章に目を通し、論点を用意しておくこと。
- ・ ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。
- ・ 事前課題を学習支援フォルダに入れておくので、確認の上授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

東南アジア地域研究に関する基本的な文献を輪読し、東南アジアに関する理解を深める。卒論において、自分が興味・関心を持って取り組みそうな地域・時代・テーマを見つけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編著『東南アジア現代政治入門』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
2回～14回 テキストの輪読
前半は『東南アジア現代政治入門』を扱う。
後半は受講者の興味・関心を踏まえて、文献を別途指定する。
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %
報告者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回担当を立ててテキストの内容を要約してもらい、それをもとに討論する。自分が報告担当でない箇所についても、授業の前までにテキストを熟読してもらう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

文献講読を通じて現代中国政治に関する知識を広く深く習得する。受講生は自らの研究テーマを定め、ゼミ論文作成のための準備を行う。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

第1回 インタロダクション (テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)

第2回 共通テキストの輪読・討論

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 各自の研究報告

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容 ... 50% 提出物 (レポートを含む) ... 50%

報告レジュメ・レポートの提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

専門演習I【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

Edited by Quentin Skinner and Russell Price,
Machiavelli: The Prince (Cambridge university press, 1988)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス 第2回 introduction 第3回 1-3章
第4回 1-3章 第5回 4-6章 第6回 7章 第7回 8-10章 第8回 11-12章
第9回 13-16章 第10回 17-19章 第11回 20-23章 第12回 24-26章
第13回設定されたテーマに基づく討論 第14回自由討論 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語文献なので十分に予習復習をして授業に望んでください。

キーワード /Keywords

政治思想 近代 現実主義

専門演習I【昼】

担当者名 久木 尚志 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 共通の基礎的な日本語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国際機構についてみずから「問い」をたてて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。

主な関心は、次のようなものです。

- ・ 国際機構は、国家のもつ限界をいかに補えるか。人間のより良い生活のために、何をなするか
- ・ 国連やEUの活動をどのように評価するか
- ・ 日本とアジア太平洋諸国は、効果的で民主的な国際機構を創ることができるか。

専門演習Iでは、テキストを講読しつつ、卒業論文のおよそのテーマを決めます。

教科書 /Textbooks

E.H.カー（原彬久訳）『危機の二十年』岩波書店、2011年。

各自で購入し、一読したうえで初回の授業に持参すること。1,260円（税別）。生協販売はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト講読（1）
- 第3回 テキスト講読（2）
- 第4回 テキスト講読（3）
- 第5回 テキスト講読（4）
- 第6回 テキスト講読（5）
- 第7回 テキスト講読（6）
- 第8回 テキスト講読（7）
- 第9回 テキスト講読（8）
- 第10回 テキスト講読（9）
- 第11回 卒業論文に向けて（1）
- 第12回 卒業論文に向けて（2）
- 第13回 卒業論文に向けて（3）
- 第14回 卒業論文に向けて（4）
- 第15回 まとめ

専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告20%、参加80%
- ・ 報告の内容は大切ですが、報告しない回の参加状況も等しく重視します。
 - ・ 事前連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「国際人権論」「国際機構論I」「国際機構論II」を履修することを推奨します。
- ・ テキストの指定箇所を事前に読み込んだうえで、考えたことや疑問点を授業で提起できるように準備すること。事後に授業の内容をノートにメモすること。
- ・ 夏に3日間のゼミ合宿を予定しています。
- ・ ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分のために学ぶだけでなく、自分の周囲の人たちのために、あるいは、まだ会ったことのない誰かのために学んでほしいと思います。期待しています。

キーワード /Keywords

専門演習I【昼】

担当者名 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	● 他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	● 世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	● 文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢を経済の立場から理解し、自分の意見を発表できるようになることを目指す。この演習では、世界経済とアジア経済に関する本を購読して共通する基本的な理解を深めていき、自分なりのテーマを見つけて研究を深めていく。

教科書 /Textbooks

初回にいくつかの候補を示し、その中から選ぶ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
- 第2~第14回 テキストの輪読と質疑応答(随時個別報告を入れる)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学の基礎と世界経済論、東アジア経済論などの授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。
ゼミでは発表担当者以外にも発言を求めます。該当箇所をあらかじめ読んでおいて、自分の意見を言えるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段から新聞や雑誌に目を通して、日本と世界の動向に関心と理解を深めるように心掛けて下さい。

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

2学期に行われるこの演習では、前半（10月、11月）は国際開発協力の今日的課題を英語文献を用いて学びます。後半部分（12月、1月）では、課外で実施する海外フィールドワーク研修のための準備として、訪問先の社会、政治、経済、文化、歴史について文献学習するとともに、訪問する援助機関でのインタビュー内容をグループワークを通して準備します。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。
- 下村恭民ほか『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 英語文献の輪読（国連）
- 第2回 英語文献の輪読（世界銀行）
- 第3回 英語文献の輪読（OECD）
- 第4回 英語文献の輪読（DfID）
- 第5回 英語文献の輪読（CIDA）
- 第6回 英語文献の輪読（学術論文）
- 第7回 英語文献の輪読（学術論文）
- 第8回 海外研修実施国の社会
- 第9回 海外研修実施国の政治
- 第10回 海外研修実施国の経済
- 第11回 海外研修実施国の文化
- 第12回 海外研修実施国の歴史
- 第13回 訪問先でのインタビュー準備（国連機関）
- 第14回 訪問先でのインタビュー準備（JICA）
- 第15回 訪問先でのインタビュー準備（NGO）

※課外活動としてゼミ合宿ないしは海外研修を行う可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論への貢献度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、事前に関連の文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることを求められます。また、事後学習として、毎回のゼミで学んだ内容に則した課題を出します。

国際協力論IおよびIIを履修済みであることが望ましく、未履修の場合は、この演習と併せて受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習で一番必要なことは積極的な姿勢です。恐れずに議論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

アメリカ地域研究の中でも、特にアフリカ系、アジア系、ヒスパニック系、ユダヤ系などいわゆる「ハイフンつきアメリカ人」と呼ばれる多様なエスニック・マイノリティの人々のアメリカ社会への統合モデルはいかなるものか、統合のための政策にはどのようなものがあるかなど、アメリカ合衆国の社会史、移民史、人種関係論を史的・総合的に学ぶ。授業を通して、アメリカ合衆国の地域の特性について、総合的に理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

Bruce J. Dierenfield, The Civil Rights Movement: Revised Edition [Paperback], New York: Longman, 2008.
Roediger, David R. The Wage of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991]. (小原豊志ほか訳『アメリカにおける白人意識の構築：労働者階級の形成と人種』明石書店、2006年。)
加藤洋子『「人の移動」のアメリカ史-移動規制から読み解く国家基盤の形成と変容』彩流社、2014年。
などの中から、受講生の関心によってテキストを選びたい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イントロダクション。
第2～14回 テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
その他、各自の研究テーマに基づいての発表など。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。
輪読しているテキストを、報告者以外も全員読み、疑問点や感想をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「朝鮮問題」を中心とした現代東北アジアの政治外交を理解するうえで重要な外交文書を輪読することで、東北アジアの国際関係に関する知見をさらに高める。なお、指導の下で卒業論文のテーマをさらに絞り、関連文献を熟読する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

外交文書などのコピを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて、輪読する外交文書などに対して適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロ（ゼミの進め方、テキストの紹介、報告順番の決定など）
- 第2回 外交文書の輪読・討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

（ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修（韓国あるいは国内）を行う。）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 70%、提出物（レポートを含む） 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生はゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べる事が求められる。

専門演習II【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

恐れずに、積極的に討論に参加しましょう。

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域研究を行うこと。東アジア三国（日本、中国、朝鮮・韓国）の近代政治思想史を、アジアからの視点と文明論的な視点で読み直す。それを通して、2学期には、今日の東アジアとその中の日本を考えることや、将来の東アジア地域秩序の構想・構築のために有意義な観点を発見することを目指す。

教科書 /Textbooks

指定せず、授業中に適宜、文献や資料をプリントして配布し、テキストとして活用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

ゼミ生はテキストや参考文献から担当された部分を解説し、レジュメを作成・報告する。そして、参加者全員の討論を行う。ゼミ教官は討論を仲介しかつ必要な説明を補足する。

2学期が終わる頃、ゼミ生はレポート（1万字程度）を作成し、提出する。

* できれば、「ゼミレポート」を卒業論文（2万字程度、A4の15-20枚）の土台にしてもらいたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表、討論、質疑応答を基に厳正に行う(100%)。原則的に毎回出席。事前連絡のない欠席や納得できる理由のない欠席は、1回につき5%減点。課題の報告や提出を怠ったときには、その事情によるが、10%の減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

東アジア地域研究に関する多数の文献を自主的に読み、とくに関心のあるテーマを選び、卒業論文に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文のテーマを早期決定しておくこと。

キーワード /Keywords

東アジアの歴史、思想、文化、伝統、近代、異種交配、変容、東アジア共同体

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、国際政治経済学の視点が求められる様々な問題の中から、各自が関心のあるテーマを決定し、資料収集や発表を通じて卒業論文の準備作業を進める。個人研究報告と並行して、グループディスカッションやディベートを行うことで、習得した知識・フレームワークを活用して論理的な発表・議論ができるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (テキストの決定、進め方の説明、報告順番の決定など)
- 第2回 グループワーク
- 第3回 レポートテーマの発表
- 第4回 文献の輪読とディスカッション①
- 第5回 文献の輪読とディスカッション②
- 第6回 IPEに関連するDVD教材の利用①
- 第7回 レポートの中間報告①
- 第8回 IPEに関連するDVD教材の利用②
- 第9回 文献の輪読とディスカッション③
- 第10回 文献の輪読とディスカッション④
- 第11回 文献の輪読とディスカッション④
- 第12回 文献の輪読とディスカッション⑤
- 第13回 レポートの報告①
- 第14回 レポートの報告②
- 第15回 レポートの報告③

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献・・・20% 各自の報告・・・50% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。
学習支援フォルダにあげた事前課題を準備してから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒論で取り上げたいテーマについて、事実関係と先行研究の整理を行う。それをもとにゼミ論を作成し、卒論の作成につなげていく。

教科書 /Textbooks

報告者の関心に沿った文献。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2～14回 各自の関心テーマに即した報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 課題 ... 30% 各自報告 ... 50 %
報告担当者が、正当な理由もなく欠席した場合、単位はない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

関心テーマについて、各自が調査を進展させておくこと。授業は調査の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外の時間でどれだけ調査を進めるかが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、ゼミ論文を完成させることである。受講者の人数により、テキスト輪読と個人研究報告の回数を調整する。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までにゼミ論文を提出し、口頭発表を行う。

- 第1回 イントロダクション(テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告と討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 ゼミ論指導
- 第15回 ゼミ論について各自が口頭発表

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容...50% ゼミ論...50%
報告レジュメ・ゼミ論の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ募集の際に別紙にて指示する。

専門演習II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夏休みの間に必ず情報収集を行うこと。
どの新聞でも構わないが、紙媒体での新聞閲覧を習慣づけること。

キーワード /Keywords

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

政治学の基本文献を輪読する

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-13回 文献輪読
- 第13回 ガイダンスで設定された課題についての自由討論
- 第14回 卒業論文の課題とその予備調査の報告 1
- 第15回 卒業論文の課題とその予備調査の報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義の内容はアメリカ政治や国際関係史の授業をふりかえって学習すると理解が深まります。
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ政治

専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 各自の研究テーマに関する日本語・英語文献の輪読
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 各自のテーマに関する報告
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

国際機構についてみずから「問い」をたてて、それについてともに考え、掘り下げていく。それが、このゼミの目標です。

主な関心は、次のようなものです。

- ・ 国際機構は、国家のもつ限界をいかに補えるか。人間のより良い生活のために、何をなするか
- ・ 国連やEUの活動をどのように評価するか
- ・ 日本とアジア太平洋諸国は、効果的で民主的な国際機構を創ることができるか。

専門演習IIでは、卒業論文のテーマに沿った文献紹介、中間報告を行ないます。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 卒業論文に向けた文献紹介(1)
- 第3回 卒業論文に向けた文献紹介(2)
- 第4回 卒業論文に向けた文献紹介(3)
- 第5回 卒業論文に向けた文献紹介(4)
- 第6回 卒業論文に向けた文献紹介(5)
- 第7回 卒業論文に向けた文献紹介(6)
- 第8回 卒業論文に向けた文献紹介(7)
- 第9回 卒業論文に向けた文献紹介(8)
- 第10回 卒業論文の中間報告(1)
- 第11回 卒業論文の中間報告(2)
- 第12回 卒業論文の中間報告(3)
- 第13回 卒業論文の中間報告(4)
- 第14回 卒業論文の中間報告(5)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告20%、参加80%

- ・ 報告の内容は大切ですが、報告しない回の参加状況も等しく重視します。
- ・ 事前連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなします。

専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「国際人権論」「国際機構論I」「国際機構論II」を履修することを推奨します。
- ・ 文献紹介および中間報告ともに、自らの考えや疑問点を授業で提起できるように準備すること。事後に授業の内容をノートにメモすること。
- ・ ゼミの卒業論文集が学科資料室に配置されています。学科生は自由に閲覧できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分のために学ぶだけでなく、自分の周囲の人たちのために、あるいは、まだ会ったことのない誰かのために学んでほしいと思います。期待しています。

キーワード /Keywords

専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、専門的な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を専門的に考察し、その解決策を採求することができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、専門的な観点から表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観と目的意識を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等を継続的に学ぼうとする意欲を身につける。
	コミュニケーション力	●	文化的多様性に配慮しながら、他者と円滑にコミュニケーションできる。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

国際関係及び世界情勢について経済の立場から理解を深めていき、卒論の準備段階の作業を進めていくことを目指す。専門演習1と同様に、世界経済とアジア経済に関するテキストを講読するとともに、自分で関心の持つテーマを決めて個別に研究を進めてゼミレポートを作成する。

教科書 /Textbooks

最初のゼミの時間に数冊の候補の中から受講生の関心などに応じて決める。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インタロダクション(テキストの選定、報告順番の決定など)
第2～14回 テキスト輪読または個別報告と討論
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...60% ゼミレポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

世界経済論または東アジア経済論の授業を履修しているか、経済学の入門書を読んでいることが望ましい。
事前学習としては担当している発表テーマに関連する項目のニュースを普段から新聞や雑誌に目を通す。事後学習としてはゼミで学んだことを復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で選ぶテーマについては、経済に関連があるのなら、幅広く対応します。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆に必要なスキルを身につけることが最大のねらいです。それには文献を批判的に読む能力、著者の主張を要領よく纏める技術、自分の考えをわかりやすく相手に伝える力が必要になります。この科目ではそのようなスキルの構築を目指します。前半では受講者の関心に沿った学術論文を輪読し、後半では卒業論文の構想について各自が発表を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』（第3版）慶應義塾大学出版会、2002年。
- 川崎剛『「社会科学系のための優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学術論文の輪読①
- 2回 学術論文の輪読②
- 3回 学術論文の輪読③
- 4回 学術論文の輪読④
- 5回 学術論文の輪読⑤
- 6回 学術論文の輪読⑥
- 7回 学術論文の輪読⑦
- 8回 論文構想の発表①
- 9回 論文構想の発表②
- 10回 論文構想の発表③
- 11回 論文構想の発表④
- 12回 論文構想の発表⑤
- 13回 論文構想の発表⑥
- 14回 論文構想の発表⑦
- 15回 論文構想の発表⑧

成績評価の方法 /Assessment Method

報告... 40% 議論への貢献度... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

卒業論文執筆のための情報収集に日々努めておくことが求められる。
事前に配付資料に目を通してゼミに臨む事。事後学習としては、ゼミ中に学んだアカデミック・スキルについて、論文等を読みながら確認を行う事。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「朝鮮問題」を中心とした現代東北アジア国際政治外交に関する資料を輪読しながら、指導の下で卒業論文の作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミの進捗度に応じて適宜配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて、輪読する資料などに対して適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

第1回 イントロ（進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など）

第2回 共通テキストの輪読・討論

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 卒業論文指導

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめ

(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修(韓国あるいは国内)を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 50%、提出物(レポートを含む) 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、ゼミ開始前までに関連文献を読み、毎回のゼミで自分の意見を明確に述べることが求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

恐れずに討論に参加しましょう。
なお、積極的に卒業論文の作成に取り組みましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakション
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は作業の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外での各自の取り組みが重要となります。卒論の作成に向けて、計画的に作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、文献講読を通じて現代中国政治に関する専門知識を深めることである。必要に応じて、卒業論文作成のための資料収集や論文執筆法について指導する。受講生は各自の研究報告を数回行い、卒業論文の進捗状況を適宜報告する。

教科書 /Textbooks

初回の授業で知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。

- 第1回 イントロダクション (参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 同上
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 30% 討論への参加度と発言内容 ... 40% 課題...30%
報告レジュメ・課題の提出遅延は1回毎に全体評価から10%減点、未提出は同20%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究演習I【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を熟読すること。
早い段階から卒業論文作成のための資料収集を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じた政治学の文献を購読するとともに、卒業論文の予備論文を作成する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2-6回 論文の作成指導
第7回 中間総括
第8-14回 論文構成報告
第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 予備論文 ... 70 %

3年次までの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動等で多忙な時期ですので、論文完成までのスケジュール管理をしっかりとってください。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を準備する。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

卒業研究演習I【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまで得た知見と経験をいかしながら、卒業論文の執筆にとりかかる。授業では、執筆に向けて参考にした文献を紹介しつつ、論文の中間報告を行なう。他の履修生が報告する際には助言する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 参考文献の紹介(1)
- 第3回 参考文献の紹介(2)
- 第4回 参考文献の紹介(3)
- 第5回 参考文献の紹介(4)
- 第6回 参考文献の紹介(5)
- 第7回 参考文献の紹介(6)
- 第8回 卒業論文の中間報告(1)
- 第9回 卒業論文の中間報告(2)
- 第10回 卒業論文の中間報告(3)
- 第11回 卒業論文の中間報告(4)
- 第12回 卒業論文の中間報告(5)
- 第13回 卒業論文の中間報告(6)
- 第14回 卒業論文の中間報告(7)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告20%、参加80%
報告の内容は大切である。ただし、報告しない回の参加状況を、それ以上に重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIを履修することを推奨する。
履修生は、オフィスアワーを活用しつつ、報告を準備する。各回の内容を復習する。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなす。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成に向けて、3年次での発表やレポートを基礎として、まず各自が自分の研究テーマを設定する。卒業論文のテーマが定まったら、そのテーマについて関連文献を収集し精読して、ゼミで発表するのと並行して、原稿を書き進めていく。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (参考文献の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回～10回 関連文献の紹介・論評と討論
- 第11回～14回 卒業論文の構成提示と討論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・課題...50% 討論への参加度・発言内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

4年次には就職活動などで出欠が不規則になりがちになるが、欠席の場合には必ず連絡をして、特に発表を当たっている場合には代替措置を考えるようにしてください。また、卒業論文の執筆は計画的に進めることを心掛けて下さい。事前学習としては、卒論のテーマに関連する資料は幅広く集めて下さい。授業では発表した卒論の内容にコメントを付けます。事後学習としては、授業で出されたコメントを自分で吟味して改善に活かして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究演習では、あるテーマに絞って深く考えて自分の言葉で言い表す作業をします。選んだテーマが何であれ、そのような経験は将来役に立ちます。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。文献輪読と論文発表を並行して進める。またテーマを設定してのグループディスカッションも随時行う。

教科書 /Textbooks

各自の卒論テーマのベースとなる理論に関する文献を選定し、受講生と相談の上決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 詳細は受講生と相談の上決定する。
- 1回 インTRODクダクシヨ(テキスト選定、報告順序の決定など)
 - 2回 卒論テーマの報告
 - 3回 文献の輪読①
 - 4回 文献の輪読②
 - 5回 グループディスカッション①
 - 6回 卒論中間報告①
 - 7回 グループディスカッション②
 - 8回 文献の輪読③
 - 9回 文献の輪読④
 - 10回 卒論中間報告②
 - 11回 文献の輪読⑤
 - 12回 文献の輪読⑥
 - 13回 グループディスカッション③
 - 14回 卒論報告③
 - 15回 卒論報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・40% 議論への貢献度・・・30% 課題・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。
学習支援フォルダにあげた事前課題を準備してから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODakシヨN
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 討論への参加度...40% レポート類...30%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。
卒業論文の執筆、その他の課題とも、ほとんどが授業外での作業となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅰ【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅰ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

比較政治思想史の観点から、東アジア地域の歴史、政治、経済、文化などを学ぶ。ゼミ生の卒業論文のテーマを検討し、関連文献を解説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジア地域研究や、ゼミ生各自の卒業論文テーマに相応しい資料や関連文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミの概要、進め方
第2～10回 関連文献の解説、報告と討論
第11～14回 卒業論文のプロポーザル、中間報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ参加への熱意、報告と討論を基に厳正に行う(100%)。毎回出席を原則とする。事前連絡のない欠席は減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ生は自分の卒業論文テーマに関連する文献や資料を積極的に紹介し、解説すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文は大学四年間の学習成果の総決算であり、また生涯の大事な思い出になると思います。自分の研究テーマに即して誠意をもって卒業論文の完成に取り組みましょう。

キーワード /Keywords

文献・資料の探し方、解説法

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の完成が目標であるため、各自が研究の進捗状況をディスカッション形式で報告し合います。そのような方法をとることで、批判を交えつつも建設的に議論を進める技術を養います。また、論文を書く作業を通して、自己の主張をうまくまとめる能力を磨きます。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應義塾大学出版会、2002年。
- 川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 卒論進捗状況報告ラウンド1①
- 第2回 卒論進捗状況報告ラウンド1②
- 第3回 卒論進捗状況報告ラウンド1③
- 第4回 卒論進捗状況報告ラウンド1④
- 第5回 卒論進捗状況報告ラウンド1⑤
- 第6回 卒論進捗状況報告ラウンド2①
- 第7回 卒論進捗状況報告ラウンド2②
- 第8回 卒論進捗状況報告ラウンド2③
- 第9回 卒論進捗状況報告ラウンド2④
- 第10回 卒論進捗状況報告ラウンド2⑤
- 第11回 卒論進捗状況報告ラウンド3①
- 第12回 卒論進捗状況報告ラウンド3②
- 第13回 卒論進捗状況報告ラウンド3③
- 第14回 卒論進捗状況報告ラウンド3④
- 第15回 卒論進捗状況報告ラウンド3⑤

第1回草稿提出： 2016年11月17日
 第2回草稿提出： 2016年12月22日
 卒業論文提出： 2017年1月31日
 卒論発表会：2015年2月上旬～中旬に開催予定

成績評価の方法 /Assessment Method

卒論の執筆と報告... 70% 貢献度... 30%

卒業研究演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

図書館で必要な論文を、ILL（相互貸借）などを利用することによって早い時点から収集すること。
事前に配付資料に目を通してゼミに臨む事。事後学習としては、ゼミ中に学んだアカデミック・スキルについて、論文等を読みながら確認を行う事。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講生は指導の下で自ら定めた研究テーマに関する卒業論文を完成する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの際に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心や必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記のスケジュールに加えて適宜各自の研究報告を行う。詳細は受講生と相談のうえ決定する。

第1回 イントロ（進め方、テキスト・参考文献の紹介、報告順番の決定など）

第2回 卒業論文の作成

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

第15回 まとめ

(ゼミの進捗度などに応じて宿泊型研修（韓国あるいは国内）を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度 30%、卒業論文 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生には、指導に従って卒業論文の作成を着実に進めることが求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誠意と問題意識に溢れた、自分なりの論文を書きましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODakション
- 2回～14回 卒業論文の経過報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業への貢献 ... 20 % 各自報告 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は作業の進捗状況を報告する場にすぎません。授業外での各自の取り組みが重要となります。卒論の作成に向けて、計画的に作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

授業の狙いは、現代中国に関する様々な問題の中から受講生が設定した研究テーマを探究し、卒業論文を完成させることである。

教科書 /Textbooks

特に指定せず。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談のうえ決定する。なお、受講生は定められた期日までに卒業論文を提出し、授業最終日に口頭発表を行う。卒業論文の書き方については授業中に適宜アドバイスする。

- 第1回 イントロダクション(参考文献・資料の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 各自の研究報告と討論
- 第3回 同上
- 第4回 同上
- 第5回 同上
- 第6回 同上
- 第7回 同上
- 第8回 同上
- 第9回 同上
- 第10回 同上
- 第11回 同上
- 第12回 同上
- 第13回 同上
- 第14回 論文指導
- 第15回 卒業論文に基づいた口頭発表

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・討論への参加度・発言内容...30%、卒業論文...70%
報告レジュメ・卒業論文の提出遅延は1回毎に全体評価の10%減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を熟読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成を指導する

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に個別に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2-6回 卒業論文の作成指導
第7回 中間総括
第8-14回 卒業論文報告
第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告及び授業への参加度 ... 30 % 卒業論文 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

これまでの知識をすべて使って一つの論文を作成していきます
毎回、参考文献で予習し、授業終了後は、内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1月末が論文の締め切りですので、がんばりましょう。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

近現代イギリス(アイルランドも含む)に関する諸問題を扱い、卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査しなければならない。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 各自のテーマに即した研究報告
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言・論文の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業研究演習II 【昼】

専門教育科目
演習科目
必修

履修上の注意 /Remarks

授業前は報告準備を丁寧におこない、授業後は次の課題をよく吟味すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を提出する。授業では、執筆に向けて参考にした文献を紹介しつつ、論文の最終報告を行なう。他の履修生が報告する際には助言する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 参考文献の紹介(1)
- 第3回 参考文献の紹介(2)
- 第4回 参考文献の紹介(3)
- 第5回 参考文献の紹介(4)
- 第6回 参考文献の紹介(5)
- 第7回 参考文献の紹介(6)
- 第8回 卒業論文の最終報告(1)
- 第9回 卒業論文の最終報告(2)
- 第10回 卒業論文の最終報告(3)
- 第11回 卒業論文の最終報告(4)
- 第12回 卒業論文の最終報告(5)
- 第13回 卒業論文の最終報告(6)
- 第14回 卒業論文の最終報告(7)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告20%、参加80%
報告の内容は大切である。ただし、報告しない回の参加状況を、それ以上に重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際人権論、国際機構論I、国際機構論IIを履修することを推奨する。
履修生は、オフィスアワーを活用しつつ、報告を準備する。各回の内容を復習する。
連絡のない欠席は、履修する意志がないものとみなす。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業研究演習Ⅰで作成した論文の章構成にしたがって、研究テーマについて卒業論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

随時指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション
第2回～14回 卒業論文の中間報告
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加度・発言内容...30% 論文の内容と報告...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

4年次には就職活動などで出欠が不規則になりがちになるが、欠席の場合には必ず連絡をして、特に発表を当たっている場合には代替措置を考えるようにしてください。また、卒業論文の執筆は計画的に進めることを心掛けて下さい。

事前学習としては、卒論のテーマに関連する資料は幅広く集めて下さい。授業では発表した卒論の内容にコメントを付けます。事後学習としては、授業で出されたコメントを自分で吟味して改善に活かして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業研究演習では、あるテーマに絞って深く考えて自分の言葉で言い表す作業をします。選んだテーマが何であれ、そのような経験は将来役に立ちます。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

国際政治経済論の分析視角を用いて、受講生各自がテーマに沿って研究を進め、卒業論文を完成させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

- 1回 インタロダクション(テキスト選定、報告順序の決定など)
- 2回 第一回卒論報告①
- 3回 "②
- 4回 DVD視聴
- 5回 グループディスカッション
- 6回 グループディスカッション
- 7回 第二回卒論報告①
- 8回 "②
- 9回 DVD視聴
- 10回 グループディスカッション
- 11回 第三回卒論報告
- 12回 グループディスカッション
- 13回 グループディスカッション③
- 14回 卒論報告③
- 15回 卒論報告④

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・議論への貢献度・・・40% 卒業論文・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ合宿や他大学のゼミとのプレゼン大会を行う可能性がある。
学習支援フォルダにあげた事前課題を準備してから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

図書館、オンラインデータベース、相互貸借などを利用して必要な文献・資料を収集する労力を惜しまないこと。

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

卒業論文の作成指導を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN
第2～14回 卒業論文の経過報告・個別指導・テキスト輪読・討論
第15回 まとめ
詳細は受講生と相談のうえ決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文...80% 討論への参加度...20%
ただし、報告の放棄や無断欠席が一度でもあった場合には単位は認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示する。
卒業論文の執筆、その他の課題とも、ほとんどが授業外での作業となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究演習Ⅱ【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	自分の力で、高度な情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界の諸問題を高度な知識を背景に考察し、その解決策を見出すことができる。
	プレゼンテーション力	●	他者の意見も尊重しながら、自己の意見を確立し、高度な内容を表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際人に求められる倫理観を身につけ、明確な目的意識と行動する意欲を養うことができる。
	生涯学習力	●	世界の文化・社会等に対する関心を維持し、自ら学ぼうとする意欲を持つ。
	コミュニケーション力	●	円滑なコミュニケーション力を背景として、自ら設定した目標を達成する。

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業研究演習Ⅱ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

ゼミ生の卒業論文作成に取り組む。そのため、ゼミ生各自のプロポーザルの提出と討論、中間報告と討論、最終稿の提出を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミ中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミ生各自のプロポーザル(研究計画書:A4の5枚程度)の提出、ゼミのガイダンス
第2~4回 プロポーザルの報告と討論
第5~10回 ゼミ生各自の初稿提出(A4の10枚程度)、中間報告と討論
第11~14回 卒業論文の発表会
第15回 完成原稿(2万字程度)の提出と検討

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の完成度による(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容に合わせて、プロポーザル、初稿、卒業論文を用意していくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文の早期完成のために頑張りましょう！もし4年ゼミ生のご希望があれば、適宜、3年ゼミ生の希望者とともにゼミ旅行を実施する。

キーワード /Keywords

資料文献の探し方、解読法、問題提起、テーマ設定、プロポーザル作成法、論文の書き方

中国近現代史Ⅰ【昼】

担当者名 堀地 明 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅰ

HIS120M

授業の概要 /Course Description

「19世紀後半～20世紀初頭の中国」

アヘン戦争による五港開港から辛亥革命までの政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代中国への視座と中国近現代史を学ぶ意味
- 2回 大清帝国素描(1)：統治理念と版図の形成
- 3回 大清帝国素描(2)：対外観念と国際関係
- 4回 アヘン貿易とアヘン戦争
- 5回 太平天国
- 6回 洋務運動
- 7回 辺境の喪失
- 8回 朝鮮問題と日清戦争(1)：日清の朝鮮支配争い
- 9回 朝鮮問題と日清戦争(2)：下関条約と東アジア国際関係の変動
- 10回 変法自強運動
- 11回 義和団事件
- 12回 光緒新政
- 13回 反清朝革命運動
- 14回 辛亥革命と清朝の滅亡(1)：鉄道国有化問題
- 15回 辛亥革命と清朝の滅亡(2)：武昌起義と清朝の滅亡

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。

高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

19世紀後半～20世紀初頭、大清帝国、アヘン戦争、太平天国、洋務運動、辺境喪失、変法自強運動、義和団事件、光緒新政、反清革命運動、辛亥革命

中国近現代史Ⅱ【昼】

担当者名 堤 和幸 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国近現代の歴史に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル 中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 中国近現代の歴史に対する関心を深めることができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国近現代史Ⅱ

HIS121M

授業の概要 /Course Description

「20世紀の中国」

中華民国期(1912～49年)の政治・外交・社会・経済等の諸問題を講義し、中国近現代史への基本的理解を深める。また、中華人民共和国の歩みも講じる。

教科書 /Textbooks

田中仁・菊池一隆等著『新図説中国近現代史』（法律文化社）

※初回に必ずテキストを持参のこと。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中華民国の出発と軍閥混戦(1)：袁世凱政権の諸相
- 2回 中華民国の出発と軍閥混戦(2)：北洋軍閥の抗争
- 3回 日本の対華21ヶ条要求
- 4回 新文化運動・五四運動
- 5回 第一次世界大戦下の経済発展
- 6回 戦間期とワシントン体制
- 7回 第一次国共合作と国民革命(1)：国共合作の成立
- 8回 第一次国共合作と国民革命(2)：上海政変と国共分離
- 9回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(1)：柳条湖事件と満州国の成立
- 8回 九・一八事変と抗日民族統一戦線(2)：西安事変と抗日民族統一政権の成立
- 9回 日中全面戦争の勃発
- 10回 日中全面戦争からアジア太平洋戦争へ
- 11回 国共内戦と中華人民共和国の成立
- 12回 毛沢東時代の中華人民共和国
- 13回 鄧小平と改革開放
- 14回 中華人民共和国と辺境
- 15回 戦後の日中関係

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% その他小テスト等...20%

試験を主に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前にテキストとレジュメに目を通して出席すること。授業後に当日学習したテキストとレジュメを学習すること。
高校時代に日本史か世界史を受験科目として学習しなかった学生は、授業前にテキストを読んでから授業に出席して下さい。高校レベルの日本史・世界史よりも、やや難しい内容を扱います。

中国近現代史II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君は、「歴史学習はひたすら暗記することである」との認識をお持ちではないでしょうか。大学での歴史学習は、そのような暗記中心とは無縁です。当時の人々や国家が直面する課題を当時の政治等の環境から理解できる歴史的思考を訓練する機会となれば幸いです。

キーワード /Keywords

中華民国、軍閥混戦、対華21ヶ条要求、新文化運動、五四運動、ワシントン体制、第一次国共合作、国民革命、九・一八事変、日中全面戦争、国共内戦、中華人民共和国、毛沢東、鄧小平、日中関係

異文化演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習はJICA九州と連携し、「異文化理解」を目的として実施されます。JICA専門家や青年海外協力隊OB/OGを講師として招き、地球的課題について学習するとともに、文化が異なる人たちがどのように共生していくのかについて考えます。JICA九州研修員との交流会を間に挟み、研修員の方々の研修内容について事前に学習するだけでなく、彼らの母国の政治・経済・文化・社会・歴史について学習します。これらの学習をもとに、交流会ではいくつかの班に分かれて研修員の方々と交流します。また、交流会では日本文化や日本社会についてプレゼンテーションを行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保『異文化理解』岩波書店、2001年。
- 青木保『多文化世界』岩波書店、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 研修員の研修内容に関する学習
 - 第3回 研修内容に関する各グループによるプレゼンテーション
 - 第4回 研修員の母国についての学習(1) 経済
 - 第5回 研修員の母国についての学習(2) 政治
 - 第6回 研修員の母国についての学習(3) 文化
 - 第7回 研修員の母国についての学習(4) 社会
 - 第8回 研修員の母国についての学習(5) 歴史
 - 第9回 青年海外協力隊経験者による講義
 - 第10回 交流会における日本文化・日本社会紹介のための準備活動
 - 第11回 交流会アイデアに関するプレゼンテーション大会
 - 第12回 JICA専門家、JICA九州職員による出前講義
 - 第13回 交流会の実施
 - 第14回 交流会で得た知見についての事後学習
 - 第15回 まとめ
- (※交流会の日程次第で、上記の授業計画は前後を入れ替えるなどの変更がありえます。)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習形式であることから、グループ・ワークでの貢献度(60%)やプレゼンテーション(40%)で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【重要】この演習は基本的に英語で行われます。ただし、授業理解のために補助的に日本語が用いられます。また、研修員との交流会は英語で行われるため、TOEIC650点相当以上の英語力を有している必要があります。履修登録は2学期に行うこととし、学務第一課で英語力スコアのコピーを提出してください。受講希望者が多数の場合は選抜をすることがあります。その際は、上級生を優先します。なお、国際関係学科がホスト学科になりますが、他学部の学生や他学科の学生が受講することもあります。事前学習として、自身が調べた内容について報告する際、事前にしっかりと英語で発表できるように準備しておいてください。事後学習としては、グループでその日学んだ内容を確認しあい、次の発表に備えてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語を人前で話すのには抵抗があるかも知れませんが、大事なことは「意思疎通」ができるかどうかです。文法的なことを気にせず、相手に伝えることを意識してください。

キーワード /Keywords

イスパニア地域論【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインを中心にスペイン語圏の地域の成り立ちを理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ヨーロッパの中のスペイン、あるいはスペイン語圏の位置を理解している。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	スペインとスペイン語圏の歴史的比較ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	日本とスペインあるいはスペイン語圏との関係に関心を維持する。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降 比文) スペイン語圏地域論 ARE243M

イスパニア地域論 ARE243M

授業の概要 /Course Description

あえて問う、スペインとは何であるかと。ニュートンによる万有引力の発見しかり、ソシュールの言語論しかり、広く当然のものとして受け入れられている事柄を疑うことはきわめて困難です。しかし先入見に阻害されて看過されているものは数多いのではないのでしょうか。この授業では、イベリア半島に位置し、今日スペインと呼ばれている国が、どのように「ひとつのネイション」として自分たちを認識するようになったか、すなわちネイション意識を獲得するようになったか、その必要性が生じた背景と経緯について、芸術のジャーナルでありながら強力な教育機能を有するメディアでもあった演劇に注目して、ひとつの仮説を提示します。ネイションという概念に関する社会学分野の研究を参照し、かつより特殊な関心に肉薄する形に改変しながら検討します。今日のスペインが直面する地域ナショナリズムの問題についても重要な視座を与えてくれるはずです。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版、1997。
- アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000。
- 大澤真幸ほか『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 スペインというネイション
- 第3回 祖国への関心
- 第4回 ネイションを定義する難しさ(社会学のアプローチ)
- 第5回 言説分析というアプローチ
- 第6回 演劇の社会的機能
- 第7回 十八世紀の演劇
- 第8回 先行研究と方法の検討
- 第9回 作品の言説分析：ホペリャーノス『ムヌーサの死』
- 第10回 作品の言説分析：カダルソ『ソラーヤ、あるいはチエルケス人たち』
- 第11回 作品の言説分析：ロベス・デ・アヤラ『ヌマンシアの滅亡』
- 第12回 作品の言説分析：モラティン『グスマン・エル・ブエノ』
- 第13回 作品の言説分析：ガルシア・デ・ラ・ウエルタ『ラケル』
- 第14回 暫定的な結論と今後の展開
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(レポート課題の提出)50% 定期試験50%

イスパニア地域論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に、指示された課題に取り組むこと。授業後には、講義内容をレジユメを見直して復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。参考書は事前に入手して開講までに必ず目を通しておくこと。

キーワード /Keywords

スペイン ネイション ナショナリズム 新古典演劇

ユーラシアの多文化世界【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシア、カフカス、中央アジア、バルト地域などの多様な民族社会の存在を理解している。	
技能	専門分野のスキル	●	民族を結びつけている我々意識、言語、文化、宗教についての基本的アプローチ法を身につけている。	
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を自ら設定し、適切なアプローチ法を用いつつ、複眼的視野に基づいて考察し、解決できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	異なる民族文化の諸領域に対する関心を維持する。	
	コミュニケーション力			

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ユーラシアの多文化世界

ARE265M

授業の概要 /Course Description

民族を結びつけている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて考察する。
事例研究では、主にロシア連邦のボルガ中流地域、北カフカス地域、シベリア地域の民族共和国、さらに中央アジア、ウクライナ、バルト諸国などを取り上げる。
到達目標は、文化の創造・維持についての理解を深め、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 蓮実重彦、山内昌之『いま、なぜ民族か』 東京大学出版会 1994年
 - 原・和田ほか編『講座スラブの世界』全8巻、山川出版社、1994 - 1996年
 - 栗生沢猛夫『タタールのくびき』東京大学出版会、2007年
 - 宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年
 - 北川誠一ほか編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
 - 田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻(世界歴史体系シリーズ) 山川出版社、1994 - 1997年
- 以上の他に指定図書も10冊ほどあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：民族籍と国籍、民族アイデンティティ、ナショナリズム
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②文化の創造と維持
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 9回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 10回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 11回 中央アジアの民族と社会：①自然風土、草原の民とオアシスの民
- 12回 中央アジアの民族と社会：②信仰と宗教、歴史・文化、新たな国造り
- 13回 ウクライナの民族・地域問題：歴史、言語、文化・宗教
- 14回 バルトの諸民族：エストニア、ラトビアの歴史と民族、文化
- 15回 旧ソ連の離散民：ロシアの朝鮮人、離散の歴史

ユーラシアの多文化世界 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は受験資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に参考書や図書館2階の指定図書、あるいはシラバスの授業計画・内容に関係した書物(文化論、民族論、社会言語学分野の書物、さらにロシア文化圏(旧ソ連)の歴史や社会に関するもの)幾つかに目を通し基本的な知識を得ておくこと。また、毎回の授業で示す参考文献のうち、幾つかの文献にも目を通して理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族、ナショナリズム、文化、民族伝統文化維持、宗教、ことばと社会、ロシア、ウクライナ、タタルスタン、ウドムルト、カフカス、ダゲスタン、シベリア、中央アジア、バルト地域、

時事中国語講読I 【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読 I

ARE311M

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国经济・社会の状況をさまざまな角度から理解を深める。最初は、資料読解力の養成、及び基本的な中国经济・社会に関する知識の習得を目指す。また可能であれば、現地資料の読解にも取り組んでいく。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国经济」 アジア経済研究所 ￥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ￥630
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ￥700
丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

*但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

時事中国語講読I【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。講義後には、言葉や文章の意味だけでなく講義中に資料内容に関連事情についても整理しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

時事中国語講読II【昼】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国の時事問題に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国の時事問題に関し、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現在の中国社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 中国の時事問題に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

時事中国語講読II

ARE312M

授業の概要 /Course Description

中国の時事問題に関する文献を読解することを通じて、現在の中国经济・社会の状況をさまざまな角度から理解していく。
中国经济・社会に関する知識の習得、及び資料読解力の養成を目指す。その中で出来るだけ現地で出版された個別時事問題に関する文献を扱うことも目指す。

教科書 /Textbooks

講読資料は担当者より提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

丸川知雄(1999) 「市場発生のダイナミクス 移行期の中国经济」 アジア経済研究所 ¥1400
日本経済新聞社編(2002)「中国-世界の「工場」から「市場」へ」 日経ビジネス人文庫 ¥630
高井潔司(2002)「中国報道の読み方」岩波アクティブ新書 ¥700
丸川知雄(2013)『チャイニーズドリーム-大衆資本主義が世界を変える』ちくま新書 この他適宜授業中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 3回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(2) 【読解】
- 4回 文献輪読及び説明, 議論・地域社会(3) 【読解】【議論】
- 5回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 6回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(2) 【読解】
- 7回 文献輪読及び説明, 議論・時事ニュース(3) 【読解】【議論】
- 8回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 9回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(2) 【読解】
- 10回 文献輪読及び説明, 議論・経済、社会(3) 【読解】【議論】
- 11回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(1) 【テーマ、背景の説明】【読解】
- 12回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(2) 【読解】
- 13回 文献輪読及び説明, 議論・国際的な話題(3) 【読解】【議論】
- 14回 文献輪読及び説明, 議論・全体討論
- 15回 まとめ

* 但し、講義の進捗状況によって、もしくは時事問題の適時性の確保のために、取り上げる話題及び内容には変更の可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70% レポート 10% 輪読・発表等授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

時事中国語講読II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

日本、中国及びアジアを中心とした地域のニュース等を日ごろからチェックしてください。また輪読がスムーズに行われるように、事前に文献に目を通しておくこと。
講義後には、言葉や文章の意味だけでなく講義中に資料内容に関連事情についても整理しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス中国語I【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1・ 3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

ビジネス中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ BCT初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語I【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3 - 3・3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

ビジネス中国語 I

CHN362M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する

その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
日本BCT事務局 セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期(A)

ビジネス基本単語の発音と日本語の意味合いを繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。BCT試験内容「ヒアリング・閲読」を理解し、受験する試験会場での実際の試験プロセスを把握する。模擬問題集の問題を練習し、模擬テストを体験する。BCTテストに挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒアリング練習
- 3回 単語テスト・閲読練習
- 4回 単語テスト・閲読練習
- 5回 ヒアリング練習
- 6回 単語テスト・作文練習
- 7回 単語テスト・作文練習
- 8回 ヒアリング練習
- 9回 単語テスト・閲読練習
- 10回 単語テスト・閲読練習
- 11回 ヒアリング練習
- 12回 単語テスト・作文練習
- 13回 単語テスト・作文練習
- 14回 ヒアリング練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度15%、単語小テスト40%、定期試験45%。

ビジネス中国語I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語小テストを行うため、単語予習に時間をかける必要がある。必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く聞き取れるように勉強してほしい。

必ず出席すること。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス専門用語 B C T 受験 （ B C T 初級、中・ 上級を含む ）

ビジネス中国語Ⅱ【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 1・3 - 2
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ

CHN363M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (BCT初級、中・上級を含む)

ビジネス中国語Ⅱ【昼】

担当者名 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3 - 3・3 - 4
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル 中国語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	中国ビジネスの専門的知識を応用しながら、日本語のみならず中国語で自分の意見を明確に表現することができる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国ビジネスの分野で、活躍・貢献するという明確な目的意識と行動する意欲を持つ。 中国ビジネスの分野で、コミュニケーションができる。

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス中国語Ⅱ

CHN363M

授業の概要 /Course Description

コミュニケーションツールとしてビジネス中国語運用能力を育成するため、ビジネスに関するイロハを丁寧に説明する。またビジネスに必要な単語、実務に使われる基本会話を習得し、実用的なコミュニケーション能力およびビジネス文章の読む力、書く力を身につける。さらに進学・就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT）の初級、中・上級レベルを目指し、短期間で合格することを目指す。

教科書 /Textbooks

初回授業時に指示する
その他の資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「BCTビジネス中国語検定試験パーフェクトトレーニング」
セリングビジョン株式会社発行

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期（B）
ビジネス基本単語を繰り返して覚える。実務に使われる基本会話を学習する。
「ヒアリング・閲読」、「会話・作文」について繰り返して学習する。（BCT問題集を学習する。）
ビジネス会話、作文に挑戦する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 思考力、考える力に関する練習
- 3回 閲読練習
- 4回 単語テスト・ヒアリング練習
- 5回 単語テスト・ビジネス作文
- 6回 ヒアリング練習
- 7回 単語テスト・閲読練習
- 8回 ビジネス作文
- 9回 ビジネス会話
- 10回 ビジネス作文
- 11回 実践会話練習
- 12回 実践会話練習
- 13回 ビジネス作文
- 14回 実践会話練習
- 15回 総合発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度20%、小テスト35%、定期試験45%。

ビジネス中国語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

単語テストの予習、作文練習、会話発表の準備、必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

できるだけ欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活に関わる中国語の単語をより多く覚えてしてほしい。
必ず出席すること。

キーワード /Keywords

ビジネス専門用語 会話力 ビジネス文章 BCT受験 (BCT初級、中・上級を含む)

アジア地域社会論【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論

PLC222M

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバル化の中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- * バク・ジョンヒユン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円
- * 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
- * クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む	
第2回	韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く	【スタディツアー】
第3回	統計数値、絵本を通しての両国の生活・文化の比較説明～グループ討論	【統計数値】 【絵本】
第4回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一場面「クラシック」を通して（1）	【映画部分鑑賞】
第5回	韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一場面「クラシック」を通して（2）	【映画部分鑑賞】
第6回	韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る	【バングラデシュ人労働者】
第7回	韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁	【多文化家族】
第8回	韓国の現代史	【現代史】
第9回	韓国の宗教と文化	【価値教育】
第10回	韓国社会の国際化（留学事情、学歴社会）＝他国との比較	【国際化】
第11回	バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童）	【雑業層】
第12回	バングラデシュの農村社会～イスラーム教の紹介を含む	【イスラーム】
第13回	バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論	【コミュニティ】
第14回	それでも、バングラデシュ！ 小ネタ集～教員の仰天体験を通して？	【参与観察】
第15回	まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...30% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々的小課題の実施

上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きません）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。

1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。

同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復してしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ¥840）

環境政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2; 有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う?

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーなしで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力、
グローバルな要素、ローカル要素。

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 西 貴倫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国の政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら、通時的に検討していく。

教科書 /Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
- 篠原一『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
- P・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム—歴史・制度・社会分析』ポリテイクス・サイエンス・クラシックス5、勁草書房、2010年4月刊（3,600円＋税）。

その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主権国家の形成
- 第3回 自由化と民主化（1）—英国の経験
- 第4回 自由化と民主化（2）—米仏の経験
- 第5回 自由化と民主化（3）—独伊の経験
- 第6回 産業発展と階級対立
- 第7回 社会政策と帝国主義
- 第8回 第一次大戦と大衆動員
- 第9回 オルタナティブの模索（1）— Kommunismus
- 第10回 オルタナティブの模索（2）— Faschismus
- 第11回 第二次世界大戦と米ソ冷戦
- 第12回 冷戦下の西洋（1）—西側の経験
- 第13回 冷戦下の西洋（2）—東側の経験
- 第14回 欧州統合—脱主権国家の試み？
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

西洋政治史 【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回の受講にあたっては、教科書の該当箇所を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。
初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域統合論【昼】

担当者名 後藤 啓倫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

この講義では、地域統合のあり方や可能性について東アジアを題材として検討します。とくに、統合の原動力となる理念とそれが登場する背景、アジア太平洋戦争以前と以後における東アジア地域統合の試み、東アジアの地域統合の現状と課題などについて、政治的、歴史的に概観します。
以上を通じて、21世紀における地域統合のあり方や「東アジア共同体」の展望を自分なりに模索するために必要な知識の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

山本吉宣、羽場久美子、押村高編著『国際政治から考える東アジア共同体』ミネルヴァ書房、2012年、3200円+税
梅森直之、平川幸子、三牧聖子編著『歴史の中のアジア地域統合』勁草書房、2012年、3800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主権国家について
- 第3回 地域統合論の登場-EUを事例として
- 第4回 アジアにおける地域主義の諸類型
- 第5回 東アジア国際政治史(1)-1930年代
- 第6回 東アジア国際政治史(2)-1940年代
- 第7回 戦前期東アジア地域統合の試み(1)-「東亜新秩序」
- 第8回 戦前期東アジア地域統合の試み(2)-「大東亜共栄圏」
- 第9回 戦前期東アジア地域統合の「理念」と「現実」
- 第10回 戦後アジアにおける地域統合の試み
- 第11回 東アジア地域統合とアメリカ
- 第12回 東アジア地域統合と中国
- 第13回 東アジア地域統合と日本
- 第14回 「東アジア共同体」を展望するために
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業の取り組み・・・10% 期末試験・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は原則として計画通りに進めていく予定ですが、学生の関心、修学状況にも配慮しながら、適宜対応します。
授業後は、その回の要点を自分なりにまとめるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域統合論 【昼】

キーワード /Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、教員を志願する者が、教職の意義や教員の役割や職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）等に関する基本的な知識を修得し、「現在の教員には何が求められているのか」ということについて理解し、教職に就くことについての自己の意欲や性格を熟考し、「教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを考察すること等を援助・指導・助言する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の「意義」	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の「役割」	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の「職務内容」	【教員の職務】【生徒指導】
6回 「キャリア教育」と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の「使命」	【教育の論理】【生活の論理】
8回 教員の「資質」と「適格性」	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の「役割」	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の「役割」	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の「役割」	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」教育における教員の「役割」	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」の指導における教員の「役割」	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 「教員に何が求められるか」	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋教育史
- 8回 教育史②：日本教育史
- 9回 家庭教育の変遷と課題：社会化
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：教材・方法
- 13回 仕事と教育：進路形成
- 14回 国際化と教育：言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2,500円
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂、2009年 72円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房、2009年、2500円
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語編 英語編 開隆堂 2011年 158円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円
NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
Onstage English Course I・II 池田書店
EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円
山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円
Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. フィンランドの英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. フィンランドの英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 柿元 悦子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語教育はグローバル化の進む社会の要請からいっそうの充実が求められています。将来教職を目指す者には「日本人が英語を話す意義」「その必要性・目的とは」といった根本的問いに対し自分なりの納得いく答えを持っておくことが何より重要です。そこで本講座では各履修者が、英語教育に関わる基本的知識を獲得し、それを踏まえて今日的英語教育の意義に関する自分の考えを形成することができるようになる、この2点を到達目標とします。

講義の構成は理論面の柱を4項目 1) 国際語としての英語の成立、2) 教授法の変遷、3) コミュニケーションの特質、4) 英語学習目的論、とし以下の授業計画に沿って行います。また教員の講義に加え、グループによるまとめ活動を毎回行い履修者の能動的な受講を基本的枠組みとします。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『グローバル時代の英語教育-新しい英語科教育法-』岡秀夫他著 (成美堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本人にとって英語とは何か-異文化理解のあり方を問う』大谷泰照著 (大修館)
- 『「英語が使える日本人」は育つのか?-小学校英語から大学英語までを検証する』山田雄一郎他著 (岩波ブックレット)
- 『小学校からの英語教育をどうするか』柳瀬陽介他著 (岩波ブックレット)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 本講座についての概要・講義の進め方の説明
2. 英語の過去・現在・未来
3. 国際社会と英語の位置づけ
4. 教授法の変遷: Oral Method
5. 教授法の変遷: Oral Approach
6. 教授法の変遷: Cognitive Approach
7. 教授法の変遷: Natural Approach
8. 教授法の変遷: Communicative Approach
9. コミュニケーションめぐる考察 1
10. コミュニケーションめぐる考察 2
11. 異文化理解の問題
12. 日本の英語教育へのCEFRからの示唆
13. 英語学習目的論
14. 課題図書レポートに基づいたディスカッション
15. ふりかえり・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 50%、課題図書レポート 25%、毎回の授業への積極的参加 25%、として総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前・事後の取り組みとして、前回の授業内容の復習が必要です。
毎回の授業開始時に、前時のReview活動をグループで行いますので、その際簡潔に説明できるよう準備してきて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回授業の始めに行うグループによるReview活動や、課題レポートをもとにしたディスカッション等、受講者の皆さんの能動的参加を期待します。

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、この授業は、森千鶴先生担当の「英語科教育法B」と整合性を保つよう考慮している。しかし、適性なクラスサイズで一貫性のある授業を提供するために、原則として柿元悦子先生担当の「英語科教育法C」(1学期開講)とあわせての受講を強く勧める。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- (1) 『新編New Horizon English Course 3』(中学検定教科書)(東京書籍)※生協の指定書店で購入
- (2) 『Unicorn English Communication 1』(高校検定教科書)(文英堂)※生協の指定書店で購入
- (3) 『中学校学習指導要領解説(外国語編)』(文部科学省)(開隆堂)
- (4) 『高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)』(文部科学省)(開隆堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 日本における英語教育政策
3. 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
4. 模擬授業(中学校、導入指導の実践)
5. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践)
6. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1, 3)
7. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit 5)
8. 模擬授業(中学校、文法指導の実践)
9. 高校学習指導要領の解説および高校教科書の分析
10. 模擬授業(高校、導入指導の実践)
11. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践①教科書Lesson 4,6)
12. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践②教科書Lesson 6,10)
13. 模擬授業(高校、文法指導の実践)
14. 模擬授業(高校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての責任と課題、質疑応答)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 指導案作成 15%
- (2) 模擬授業 15%
- (3) 報告書 10%
- (4) 模擬授業の振り返り報告書 50%
- (5) 授業参加度 10%(4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来の進路として教員を強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除いて、無断欠席は履修放棄とみなす。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う(発表者はスーツ着用)。

模擬授業等の詳細については、初回授業で説明する。

英語科教育法D 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については生協で確認すること。

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科学、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省) 167円+税
- ・ 他にも講義内で資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科学の理論と実践』 学文社 2007 1900円+税
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：地理的分野の目標とその取り扱い
 - 第4回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第5回：公民的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第6回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第7回：社会科学の授業づくり グループワークについて
 - 第8回：社会科学の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 「地誌作成」について
 - 第10回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第11回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第12回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第13回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第14回：社会科学教師に求められる資質・能力
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科学教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科学教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（平成25年）定価167円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨN
- 第 2回 学習指導案の作成
- 第 3回 模擬授業（地理的分野①）【世界地理・総論】
- 第 4回 模擬授業（地理的分野②）【世界地理・各論】
- 第 5回 模擬授業（地理的分野③）【日本地理・総論】
- 第 6回 模擬授業（地理的分野④）【世界地理・各論】
- 第 7回 模擬授業（歴史的分野①）【原始・古代】
- 第 8回 模擬授業（歴史的分野②）【古代・中世】
- 第 9回 模擬授業（歴史的分野③）【中世・近世】
- 第 10回 模擬授業（歴史的分野④）【近世・近現代】
- 第 11回 模擬授業（公民的分野①）【憲法】
- 第 12回 模擬授業（公民的分野②）【政治】
- 第 13回 模擬授業（公民的分野③）【経済】
- 第 14回 模擬授業（公民的分野④）【現代社会】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学習指導要領に掲げる事項に即し、学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における各教科等を含む全ての領域の道徳教育の理論と、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、道徳教育の実践的な指導法について学習する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年、244円）、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年、588円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1回 「学校教育」における道徳教育の構造 | 【道徳科】【学校教育の全領域】 |
| 2回 「各教科」と道徳教育 | 【陶冶と訓育】【学校教育活動全体を通じて行う指導】 |
| 3回 「特別活動」と道徳教育 | 【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】 |
| 4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 | 【横断的・総合的な学習】【活動】 |
| 5回 道徳教育の目標と内容 | 【道徳の時間の指導内容】【全体計画】 |
| 6回 「道徳の時間」の計画と指導 | 【指導方法】 |
| 7回 「学習指導案」の内容と作成 | 【学習指導案】【指導技術】 |
| 8回 「道徳の時間」の「教材研究」① | 「モラルジレンマ」 【ジレンマ教材】【対立・葛藤】 |
| 9回 「道徳の時間」の「教材研究」② | 「役割演技」 【動作化】【ロール・プレイ】 |
| 10回 「道徳の時間」の「教材研究」③ | 「アサーション」 【主張】 |
| 11回 「道徳の時間」の「教材研究」④ | 「エンカウンター」 【出会い】【構成的グループエンカウンター】 |
| 12回 「道徳の時間」の「教材研究」⑤ | 「作文」 【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】 |
| 13回 「道徳の時間」の「教材研究」⑥ | 「体験」 【自然体験】【社会体験】 |
| 14回 「道徳の時間」の「模擬授業」 | 【道徳教育の評価】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実際
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実際
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 15回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。
テキストの該当箇所については毎回の授業の前に読んでおくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別活動論 【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の学校教育においては、将来の高度情報社会に生きる児童・生徒に必要な資質を養う教育の必要性が指摘されている。本授業では、そうした教育を含む教育の方法及び技術についての教員の力量を高めるために、学習指導案の作成や教材研究等をも組み入れて、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての基本的な知識を獲得し、その原則と実践的なスキルを習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 「情報機器」及び「教材の活用」	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」-各教科指導に向けて-	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や障害等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理 (テキスト第1章他)
- 3回 教育課程(教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動)と生徒指導 (テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等 (テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携 (テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 発達に課題をもつ子ども (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 いじめ問題への対応 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難を抱える生徒テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 春日井敏行・伊藤美奈子 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
- 文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション -教育相談の意義(生徒指導提要 第4章)
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト第1章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第11章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第11章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第11章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第14章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第15章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第17章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第19章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術等を習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【指導目標】【学習指導案】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理 | 【教育に求められる資質と教育実習の課題】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。

とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を持てること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業では毎時、参考資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：なぜ教育心理学を学ぶのか 教育を心理学で考える
 - 第3回：記憶に関する理論 認知心理学の理論
 - 第4回：学習とは何か 教えて考えさせるということ
 - 第5回：学習の理論 学習心理学・発達心理学の理論
 - 第6回：子どもの発達を考える 発達心理学の理論
 - 第7回：学習意欲とは何か 学習意欲の構造論から
 - 第8回：子どもをいかに評価するか 学習意欲の観点から
 - 第9回：「学力」について考える 学習意欲と態度
 - 第10回：教育測定・評価（1） 評価の尺度について
 - 第11回：教育測定・評価（2） 教師の視点と生徒の視点
 - 第12回：学校カウンセリング スクールカウンセラーの役割
 - 第13回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
 - 第14回：学習の方法と意欲 学習方略の理論
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 20%
- 講義でのミニレポート・・・ 30%
- 最終試験・・・ 50%

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1)-アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2)-コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論 【昼】

担当者名 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本 (大月書房)、みんなの人権 (明石書店)、世界が100人の村だったら (マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答 (解放出版社)、差別と日本人 (角川書店)、もののけ姫 (徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 私の人権教育の創造をめざして
- 1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」
- 第1回 「もののけ姫」(導入)
- 製作の時代背景と人権確立の潮流
 - 物語の登場人物からのメッセージ
- 第2回 中世(平安～鎌倉～室町)
- 仏教の伝来とケガレ観
 - 社会や文化のしくみと差別意識の起こり
- 第3回 近世(安土桃山～江戸)
- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
 - 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化
- 第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)
- 近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)
- 第5回 近代(明治～)
- 「解放令」とその意義
 - 近代化と差別の再生産へのしくみ
- 第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び
- 教科書無償の取り組みと親たちの願い
- 2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」
- 第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)
- 第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)
- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
 - 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
 - 全国学力テスト結果の分析と課題
- 第9回 人間関係づくり
- 「なかまづくり」の原点と実践例
 - 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ
- 第10回 教育環境・雰囲気づくり
- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)
- 第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ
- 人権教育の技能・スキル・態度
 - 金子みすず「東京大学入試問題」
- 第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く
- 教育現場の「具体的な実例」から考える
- 第13回 「体罰」と人権
- 文部科学省の調査
 - 教育現場の「体罰の実例」から考える
- 第14回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ」問題の現状を認識する
 - 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題
- 第15回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ対策防止法」
 - 「いじめ対策の留意点8カ条」(法務省委託研究・有識者検討委員会)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
 高等学校学習指導要領 平成21年3月 告示東山書房 588円
 平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
 小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らずに、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特になし。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
【必要な授業外学習について】
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』ステイヴン・ピンカー著、棕田直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		生活世界の哲学	
		PHR110F	

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（4）【全体主義と思考能力・前半】
- 10回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力・後半】
- 11回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 12回 古代世界の公共空間（1）【ホメロス】
- 13回 古代世界の公共空間（2）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（3）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（4）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...45% 学期末試験...55%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。
e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

教養基礎演習I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
 具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。
 ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。
 最大でも12人を予定しています。
 欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
 あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
現代人のこころ				
PSY003F				

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられています。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、グループワーク等を通じて体験し、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。必要に応じてハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス, グループ分け
2. 自己紹介, 聴くスキル
3. 集団討議 (グループワーク)
4. 集団の心理
5. 伝えるスキル1「メンタルモデル・わかりやすい説明」
6. 伝えるスキル2「アサーション, S-BAR」
7. 集団討議 (グループワーク)
8. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成
10. レポート・ポスター作成
11. レポート・ポスター作成
12. ポスターツアー1
13. ポスターツアー2
14. ポスターツアー3
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】
※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目です。

課題レポートおよびポスター作成のために、グループごとに時間外での調べ学習や打ち合わせなどの時間外学習が必須となります。

以下のルールに反した場合、平常点を減算とします。単純な欠席は平常点の減算対象となりません。

1. 私語，内職，意図的な睡眠 → 5点マイナス
2. グループワークやレポート作成に参加しない → 40点マイナス
3. グループミニレポートを提出しない場合，あるいは白紙であった場合 → グループ全員5点マイナス

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は、学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方/スケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定ている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別と区別】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における差別の問題（4）【ナチズム】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【食糧問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

【事前・事後学習の内容】参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後には講義中に配布した史料プリントを読み返しておくこと。

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。
事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

そのとき世界は【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
口述講義 (山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファーソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドール・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 イギリスとはどんな国か

第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー

第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎

第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか—雇われ外国人たちを中心に

第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か

第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』

第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』

第15回 まとめ—レポート提出の要件、提出締切日などの説明—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

【事前・事後学習】

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。授業終了後には、提出課題への取り組み、学んだ内容に関する実践的復習などを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、教員を志願する者が、教職の意義や教員の役割や職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）等に関する基本的な知識を修得し、「現在の教員には何が求められているのか」ということについて理解し、教職に就くことについての自己の意欲や性格を熟考し、「教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを考察すること等を援助・指導・助言する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の「意義」	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の「役割」	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の「職務内容」	【教員の職務】【生徒指導】
6回 「キャリア教育」と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の「使命」	【教育の論理】【生活の論理】
8回 教員の「資質」と「適格性」	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の「役割」	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の「役割」	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の「役割」	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」教育における教員の「役割」	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」の指導における教員の「役割」	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 「教員に何が求められるか」	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係:教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②:日本の教育思想
- 7回 教育史①:西洋教育史
- 8回 教育史②:日本教育史
- 9回 家庭教育の変遷と課題:社会化
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 仕事と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3) 』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には、主に二つのねらいがある。まず英語科教育の基本となる理論を学び、知識を修得することを目的とする。次に、中学校の学習指導案の書き方を学び、モデル授業を実際に行って理論と実践を結びつけることにより、ある程度の実践力を身につけることを目的とする。中学校との関連において、小学校の外国語活動の理論と現状についてもふれる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房 2009年、2500円
文部科学省 中学校学習指導要領 外国語編 開隆堂 2009年 72円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション及び英語教育の目的
2. 英語教育の目的
3. 指導法へのアプローチ【行動主義と認知主義】
4. 指導法へのアプローチ【コミュニケーション能力】
5. Communicative Language Teaching の理念【インフォメーション・ギャップ】
6. Communicative Language Teaching の理念【タスク活動】
7. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
8. 学習指導案(中学校)の立て方
9. 評価について
10. DVD (師範授業) の視聴【筑波大学附属中学校教諭】
11. DVD (師範授業) の視聴【田尻悟郎先生】
12. モデル授業の準備
13. モデル授業 (中学校) 【1年生】
14. モデル授業 (中学校) 【2・3年生】
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告をする場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業には主に二つのねらいがある。まず英語科教育における発展的な理論や学習指導案の書き方を学び、モデル授業を行うことによって、高等学校の英語科教員としての技能を身につける。次に英語科教育の学問的な側面に目を向け、英語で書かれた論文を講読することによって、英語科教育の今日的な課題を深く論考することができるようになることを目指す。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

三浦省五・深澤清治（編著）『新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践』ミネルヴァ書房
文部科学省 高等学校学習指導要領 外国語

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
 松本世子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年 630円
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
 南村俊夫ほか著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社 2007年 765円
 Onstage English Course I・II池田書店
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍 2012年 630円 山本良一
 ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
 Minton, T.D. ほか著、Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆堂
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年 650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT
 English Course I・II啓林館 2013年、650円
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
 市川泰男、高橋和久ほか著 "NEW EDITION UNICORN ENGLISH COURSE I・II"文英堂 2012年 630円
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および英語科の評価論について
2. 学習指導要領および4技能の統合
3. リーディングの理論と実践 [理論編]
4. リーディングの理論と実践 [発展編]
5. 絶対評価について (高等学校編)
6. 学習指導案 (高等学校) の立て方
7. モデル授業の準備
8. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I]
9. モデル授業 (高等学校) [コミュニケーション英語I以外の科目]
10. ALTに関わる英語論文を読む[論文前半]
11. ALTに関わる英語論文を読む[論文後半]
12. フィンランドの英語教育に関する英語論文を読む[論文前半]
13. フィンランドの英語教育に関する英語論文を読む[論文後半]
14. リスニング・スピーキングに関する英語論文を読む
15. 復習と試験の準備

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末の定期試験 (75%程度) を中心として、提出物 (15%程度) 及び授業参加度 (10%程度) を考慮に入れ、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 前もってプリントを配布したり、次回の授業内容に関連する教科書ページを予告する場合は、予習しておくこと。
- ・ 出欠席は厳密にとる。無断欠席は厳に慎むこと。
- ・ モデル授業の日程や英語論文のトピックは学生と相談した上で決定することになるので、シラバス内容に関しては柔軟に考えていただきたい。

英語科教育法B 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法C【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司 編 学文社 2007）
他に授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
- 第 2 回 社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
- 第 3 回 地理的分野の目標とその取り扱い
- 第 4 回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 5 回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 6 回 社会科の授業づくり 教材研究
- 第 7 回 社会科の授業づくり グループワークについて
- 第 8 回 社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第 9 回 社会科の授業づくり フィールドワークについて
- 第 10 回 社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第 11 回 単元計画と学習指導案 1 指導案の作成と留意点
- 第 12 回 単元計画と学習指導案 2 年間計画と指導案作成
- 第 13 回 政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第 14 回 社会科教師に求められる資質・能力
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加） 30%
ミニレポート（毎授業後に提出） 40%
学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
 - ・発表や簡単なレポート課題の提出があります。
- 授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教育法AおよびCで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。講義の展開は以下のとおりである。

- ① 学習指導要領に基づき、中学校社会科の3分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
- ② 教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要な基礎・基本的な技術を修得する。
- ③ 教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 歴史的分野』（日本文芸出版 文科省検定済教科書）
 - 『中学校社会科地図』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版 文科省検定済教科書）
- ※各分野とも平成25年度版以降のものを用意すること

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 平成20年9月 平成26年1月一部改訂）
- 『詳説 日本史研究』（佐藤信ほか 山川出版社）
- 『新詳地理資料COMPLETE』（帝国書院）
- 『新詳 資料 地理の研究』（帝国書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明 【授業とは何か】【社会科の特性】【“資格”と“資質”】【技術の前に…】
- 第2回 学習指導案の作成 【実践的な視点の指導案】【教材研究と指導】【指導と評価】
- 第3回 模擬授業・地理的分野① 【世界地理・総論】【世界地理の捉え方】
- 第4回 模擬授業・地理的分野② 【世界地理・各論】【州ごとの指導における着重点】
- 第5回 模擬授業・地理的分野③ 【日本地理・総論】【日本地理の捉え方】
- 第6回 模擬授業・地理的分野④ 【日本地理・各論】【地域ごとの指導における着重点】
- 第7回 模擬授業・歴史的分野① 【原始・古代】
- 第8回 模擬授業・歴史的分野② 【古代・中世】
- 第9回 模擬授業・歴史的分野③ 【中世・近世】
- 第10回 模擬授業・歴史的分野④ 【近世・近現代】
- 第11回 模擬授業・公民的分野① 【憲法】
- 第12回 模擬授業・公民的分野② 【政治】
- 第13回 模擬授業・公民的分野③ 【経済】
- 第14回 模擬授業・公民的分野④ 【現代社会】
- 第15回 まとめ、教育実習や採用試験に向けて 【教育現場】【生徒指導】【講師と教諭】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、指導案作成と授業への参加度 40%、平素の受講姿勢 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書(中学校で実際に生徒が使用しているもの)を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。また、学習指導要領は平成26年1月に一部改訂されました。製本済みのものをご購入の場合はもちろん、文部科学省のホームページでダウンロードする場合も、一部改訂が反映されていることを必ず確認してください。授業の前週までに、模擬授業の指導案を作成し提出すること。また模擬授業者以外は、事前に指導案には目を通していただくこと。授業後は、模擬授業について内容や感想・意見を、担当者あてに提出できるようにすること。

社会科教育法D 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、模擬授業を通して学校教育の中核である「授業」の実践力を身につけることを目指しています。生徒が「分かる」「楽しい」「知りたい」と感じる授業は、教える側が「分かっている」「興味深い」「教えたい」と考えている授業ではないでしょうか。教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと願っています。

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版 320円＋税
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円＋税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり フィールドワークについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 授業の際に配布するレジュメ・資料等
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版（平成22年）定価336円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 谷田部玲生ほか『高等学校 現代社会』第一学習社（平成26年）定価610円
- ・ 伊東光晴ほか『高校 現代社会』実教出版（平成25年）定価610円
- ・ 三浦軍三ほか『高等学校 政治・経済』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 宮本憲一ほか『高校 政治・経済』実教出版（平成26年）定価450円
- ・ 越智貢ほか『高等学校 倫理』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 矢内光一ほか『高校 倫理』実教出版（平成25年）定価450円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6回 学習指導案の作成
- 第 7回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第 12回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第 13回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第 14回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学習指導要領に掲げる事項に即し、学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における各教科等を含む全ての領域の道徳教育の理論と、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、道徳教育の実践的な指導法について学習する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年、244円）、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年、588円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1回 「学校教育」における道徳教育の構造 | 【道徳科】【学校教育の全領域】 |
| 2回 「各教科」と道徳教育 | 【陶冶と訓育】【学校教育活動全体を通じて行う指導】 |
| 3回 「特別活動」と道徳教育 | 【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】 |
| 4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 | 【横断的・総合的な学習】【活動】 |
| 5回 道徳教育の目標と内容 | 【道徳の時間の指導内容】【全体計画】 |
| 6回 「道徳の時間」の計画と指導 | 【指導方法】 |
| 7回 「学習指導案」の内容と作成 | 【学習指導案】【指導技術】 |
| 8回 「道徳の時間」の「教材研究」① | 「モラルジレンマ」 【ジレンマ教材】【対立・葛藤】 |
| 9回 「道徳の時間」の「教材研究」② | 「役割演技」 【動作化】【ロール・プレイ】 |
| 10回 「道徳の時間」の「教材研究」③ | 「アサーション」 【主張】 |
| 11回 「道徳の時間」の「教材研究」④ | 「エンカウンター」 【出会い】【構成的グループエンカウンター】 |
| 12回 「道徳の時間」の「教材研究」⑤ | 「作文」 【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】 |
| 13回 「道徳の時間」の「教材研究」⑥ | 「体験」 【自然体験】【社会体験】 |
| 14回 「道徳の時間」の「模擬授業」 | 【道徳教育の評価】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実際
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実際
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 15回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。
テキストの該当箇所については毎回の授業の前に読んでおくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の学校教育においては、将来の高度情報社会に生きる児童・生徒に必要な資質を養う教育の必要性が指摘されている。本授業では、そうした教育を含む教育の方法及び技術についての教員の力量を高めるために、学習指導案の作成や教材研究等をも組み入れて、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての基本的な知識を獲得し、その原則と実践的なスキルを習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】 【比喩・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】 【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
5回 「情報機器」及び「教材の活用」	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】 【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】 【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】 【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】 【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】 【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】 【学習活動】 【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】 【説明】 【指示】 【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】 【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】 【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や障害等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理 (テキスト第1章他)
- 3回 教育課程(教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動)と生徒指導 (テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等 (テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携 (テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 発達に課題をもつ子ども (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 いじめ問題への対応 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難さを抱える生徒テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 春日井敏行・伊藤美奈子 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
- 文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション -教育相談の意義(生徒指導提要 第4章)
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト第1章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第11章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 一人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第13章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第13章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第14章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第15章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第17章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第19章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術等を習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 第 1回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 2回 これからの教師に求められる資質とは (外部講師による講演)
- 3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
- 7回 教科の授業のスキルアップその1 (わかりやすい話し方、板書の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2 (生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3 (わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4 (効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方 (模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題 (グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題 (グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1 (教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2 (教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉症スペクトラムについて
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

私の人権教育の創造をめざして

1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」

第1回 「もののけ姫」(導入)

- 製作の時代背景と人権確立の潮流
- 物語の登場人物からのメッセージ

第2回 中世(平安～鎌倉～室町)

- 仏教の伝来とケガレ観
- 社会や文化のしくみと差別意識の起こり

第3回 近世(安土桃山～江戸)

- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
- 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化

第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)

近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)

第5回 近代(明治～)

- 「解放令」とその意義
- 近代化と差別の再生産へのしくみ

第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び

教科書無償の取り組みと親たちの願い

2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」

第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)

第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)

- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
- 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
- 全国学力テスト結果の分析と課題

第9回 人間関係づくり

- 「ながまづくり」の原点と実践例
- 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ

第10回 教育環境・雰囲気づくり

- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)

第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ

- 人権教育の技能・スキル・態度
- 金子みすず「東京大学入試問題」

第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く

- 教育現場の「具体的な実例」から考える

第13回 「体罰」と人権

- 文部科学省の調査
- 教育現場の「体罰の実例」から考える

第14回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ」問題の現状を認識する
- 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題

第15回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ対策防止法」

人権教育論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 (30%) 及び学期末のレポートによる評価 (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords